

2018年度
学生便覧



〈表紙〉学生作品

画像設計学科 樋口 友美

まえがき

九州大学大学院芸術工学府長
九州大学芸術工学部長

谷 正 和



学生諸君！

九州大学芸術工学府、芸術工学部へようこそ。この学府、学部は1968年に創立された九州芸術工科大学からの流れを受け継ぎ、「技術の人間化」を達成するために「高次のデザイナー」を養成することを目的としています。そのような目的を持つこの学府、学部に入學された皆さんは、誰かに「選ばれた」わけではありません。皆さん自らがこの学府、学部に入學することを「選んだ」のです。

この学生便覧は大学と学生との間の契約書のような役割を持っています。すなわち、大学が授業や学生生活全般についてどのような教育プログラムを提供するか、学生としての権利や義務にはどのようなものがあるかが示されています。大学はここに書かれていることを通して、学生を高次のデザイナーにするという約束をしています。高次のデザイナーとは、九州芸術工科大学初代学長の小池信二先生の言葉を借りると、次のような人材を意味しています：

「従来の工学部などで築かれた分散した知識、技術を、横につないだ視点でとらえる人が必要になってくる。私たちは、それを“コーディネーター（総合者＝設計者）”と呼ぶが、極度に専門化した技術者ではなく、各ジャンルを高次に結ぶ役目の人で、新しい大学がねらうのは、このコーディネーターづくりである。」

このコーディネーターがのちに「高次のデザイナー」と言い換えられるようになりました。「芸術工学」は、科学技術と人間の最も自由な発現である芸術を融合させた学問分野を目指しています。そして、「高次のデザイナー」は技術を人間生活に適切に利用するための道筋を設計し、「技術の人間化」を達成するのです。

つまり、芸工が目指しているのは、専門化した技術者ではなく、異なるジャンルを高次に結ぶ役目の人材です。そのため、現在でもカリキュラムは人文・科学・芸術の3分野がバランスの取れた構成となっており、人間の生活にかかわる広範な領域をベースにしたデザインを目指しています。デザインという営為と社会へのかかわりは教育研究の中で明確に意識され、フィールドワークも重視されてきまし

た。さらに、各学科のカリキュラムの中心は設計演習というPBL (Problem-Based Learning) でした。PBLはアクティブラーナーの養成の手段として、昨今の大学教育で盛んに取り上げられていますが、芸工のカリキュラムはその先取りしていたこととなります。

芸工部局は世界的なデザイン教育研究の拠点となるための活動を行っています。この拠点化とは、大橋キャンパスをひとつの結節点として、デザイン実践やデザイン学の優れたひとやアイデアが活発に集散する状態を実現することと捉えています。さらに、その集散・活動の結果、人類社会に新たな価値を生み出すデザインが実践されることとなります。その拠点化が成功するかどうかはどのような卒業生を輩出できるかに多くがかかっています。それは、入学して来た学生を教員がすぐれた高次のデザイナーに教育するというよりも、より優れた人が芸工を選んで入学し、芸工のデザイン活動の一翼を担い社会の中で通用するデザイナーとなる、という方が近いと思います。

デザインが生み出すのは技術や物質ではなく、新たな価値です。多様な視点、経験、文化背景は、新たな価値を生み出す力になると確信しています。そのために、大橋キャンパスをさらに魅力のある教育研究の場とする重要なプレイヤーとして、学生の皆さんにも主体的に我々のデザインにかかわってもらいたいと思います。

あなたも芸術工学に参加してください。

目次

まえがき

第1章 芸術工学部の教育課程と科目の履修について

1. 理念・目的	1
2. 芸術工学部の教育課程について	1
(1) 教育課程	1
(2) 教育課程の構成	1
(3) 単位制	1
(4) 卒業要件と必要修得単位数	2
3. 各学科の教育目標及び履修細目について	4
(1) 環境設計学科	4
ア. 卒業時の教育達成目標	4
イ. 10～20年先の卒業生の将来像をイメージした教育目標	5
ウ. 履修進行条件	5
(ア) 3年次以降に開設される専攻教育科目の履修条件	6
(イ) 卒業研究の着手条件	6
エ. 卒業研究について	6
オ. 履修細目等	8
(2) 工業設計学科	12
ア. 卒業時の教育達成目標	12
イ. 10～20年先の卒業生の将来像をイメージした教育目標	12
ウ. 履修進行条件	13
(ア) 3年次以降に開設される専攻教育科目の履修条件	13
(イ) 卒業研究の着手条件	13
エ. 卒業研究について	13
オ. 履修細目等	15
(3) 画像設計学科	19
ア. 卒業時の教育達成目標	19
イ. 10～20年先の卒業生の将来像をイメージした教育目標	19
ウ. 履修進行条件	20
(ア) 3年次以降に開設される専攻教育科目の履修条件	20
(イ) 卒業研究の着手条件	20
エ. 卒業研究について	21
オ. 履修細目等	22

(4) 音響設計学科	26
ア. 卒業時の教育達成目標	26
イ. 10～20年先の卒業生の将来像をイメージした教育目標	26
ウ. 履修進行条件	27
(ア) 3年次以降に開設される専攻教育科目の履修条件	27
(イ) 卒業研究の着手条件	27
エ. 卒業研究について	28
オ. 履修細目等	29
(5) 芸術情報設計学科	33
ア. 卒業時の教育達成目標	33
イ. 10～20年先の卒業生の将来像をイメージした教育目標	33
ウ. 履修進行条件	34
(ア) 3年次以降に開設される専攻教育科目の履修条件	34
(イ) 卒業研究の着手条件	34
エ. 卒業研究について	34
オ. 履修細目等	36
4. 授業科目の履修について	40
(1) 授業時間割について	40
(2) 授業日程について	40
(3) 履修登録について	40
(4) 履修登録上の注意事項	40
(5) 自然災害等による休講等の措置について	41
(6) 授業や定期試験等における欠席について	41
(7) 特定授業科目の前提条件	42
(8) 授業計画書（シラバス）の活用	43
(9) 試験について	43
(10) 定期試験における受験上の注意について	43
(11) 成績評価及び修得単位の確認について	44
(12) 成績確認期間について	44
(13) GPA (Grade Point Average) 制度について	44
(14) インターンシップについて	45
(15) 口頭試験について	46
(16) 長期履修制度について	47
5. 資格について	47

第2章 大橋キャンパスでの学生生活

1. 学生サービスを行う部署と担当業務	49
2. 修学上の諸手続	50
(1) (標準) 修業年限及び在学期間の限度	50
(2) 休学・復学・退学手続について	50
(3) 現住所等の変更手続き	51
(4) 授業料の納付	51
(5) その他の諸手続	52
3. クラス担任の紹介	52
4. 大橋キャンパスにおける学生への連絡方法等	53
(1) 連絡方法	53
(2) 郵便物等の取扱い	54
(3) 電話の取り次ぎ	54
5. 諸証明の発行	54
(1) 学生証	54
(2) 学生旅客運賃割引証(学割証)	55
(3) 通学証明書	55
(4) 在学証明書・成績証明書等	55
6. 学生生活, 修学及び就職指導等に関する相談	56
(1) 修学上の相談	56
(2) なんでも相談窓口	56
(3) オフィス・アワー制度	56
(4) ハラスメントの相談	56
(5) 海外留学	57
(6) 留学生のサポートチーム制度	58
7. その他	58
(1) 学生定期健康診断	58
(2) 就職支援	58
(3) 構内交通規制	59
(4) 学生生活上の注意事項	60
8. 適正な研究の進め方を知ろう	60
9. サークル活動	61
10. 大橋キャンパスの諸施設の利用について	61
11. 安全の手引き	68
12. 受賞情報の報告について	73

付録

1. 学内建物配置図	75
2. 各号館及び施設の平面図	76
3. 九州芸術工科大学学生歌	99
4. 九州大学芸術工学部規則（抜粋）	104

第 1 章

芸術工学部の教育課程と科目の履修について

1. 理念・目的

大学院に重点をおいた組織編成にともない、学部教育は「芸術工学」の基本・基礎を十分に修得させ、社会の人材需要に応え、さらに大学院への進学の可能性を開くものとして重要です。幅広く深い教養と総合的な判断力を備えた創造性豊かな人材育成という社会的要請に応えるために、芸術工学の特性を踏まえた基幹教育と専攻教育との有機的連携による学部教育を行います。その際、芸術工学の特性である総合性を学部学生の学習過程のなかで、具体的に身に付けます。

2. 芸術工学部の教育課程について

(1) 教育課程

教育課程とは、大学の教育目的・目標を達成するために必要な教育内容を精選し、組織化した教育計画です。大学が行う教育活動に関しては、大学設置基準（文部科学省令）において、教育課程の編成、単位、授業方法、卒業要件等について共通的な基準が定められています。

本学部では芸術工学という学際的で総合的な専門分野を探求し、高次のデザイン教育を目的としており、ここでは本学部の教育課程について解説します。

本年度入学者に適用される教育課程は1ページから39ページにわたって掲載してありますのでよく読んでおいてください。

教育課程は、入学年度ごとに定められ、原則として卒業するまで変更することはありませんが、学生の教育効果を高めるために、教育課程の改正や学部内の規則等を改正した場合には、変更することがありますので注意してください。

このような場合は、予め告示した上で説明を行う予定です。学生の皆さんは、教育課程に関する説明を何よりも重要なことと認識し、そのような掲示や配布物は必ずよく読み、説明会などが開催される場合についても必ず出席してください。

(2) 教育課程の構成

本学部で開設する授業科目及び単位数は九州大学芸術工学部規則において定められています。その授業科目の区分は、大別して「基幹教育科目」、「専攻教育科目」に分けられます。

(3) 単位制

単位制とは、大学が開設する全ての授業科目に単位を付し、学生は指定された方法により所定の単位数を修得し、卒業の要件を満たしていく制度です。

各授業科目の単位数は1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学習等を行うことを考慮して、次の基準により単位数を計算します。

〔芸術工学部の教育課程における単位の考え方〕

- ① 講義については、15時間の授業で1単位とする。
- ② 演習については、15時間又は30時間の授業で1単位とする。
- ③ 実験及び実習については、30時間又は45時間の授業で1単位とする。
- ④ 上記①～③に当てはまらない科目については、別に定める時間の授業をもって1単位とする。

このように単位制では、2単位の講義科目を履修するには大学における30時間の授業のほか、各回の授業について2時間ずつの予習と復習が必要となり、合計90時間の学習が必要となります。本学部では多くの授業科目で課題やレポートがありますので授業時間以外にも学習に取り組む生活習慣を身につけてください。

なお、科目ごとの単位数については各学科の履修細目をご覧ください。単位の計算について不明な点があれば学務課教務係へお問い合わせください。

（４）卒業要件と必要修得単位数

本学部を卒業するためには、4年以上在学し、次に掲げる「必要修得単位数表」に定めるところにより、128単位以上を修得しなければなりません。

【必要修得単位数表】

区分	内 訳	学 科				
		環境	工業	画像	音響	芸情
基幹教育科目	基 幹 教 育 科 目	各学科の「履修細目一覧（基幹教育科目）」参照				
	小 計	48				
専攻教育科目	必 修	32	18	20	45	18
	選 択 必 修	27	23	12	0	20
	選 択	15	33	42	29	36
	学部内自由科目	6				
	小 計	80				
卒業要件単位数		128				

【科目の履修区分】

① 必修科目

当該授業科目の単位の修得を義務づけているもので、必ず履修しなければならない科目。

② 選択必修科目

特定科目群の中から選択し修得することを義務づけている科目。専攻教育科目においては必要修得単位数以上単位を修得した場合は、選択科目の単位に充てることができます。

③ 選択科目

当該授業科目の単位の修得について、科目区分の範囲内で学生の選択に委ねられている科目。

④ 学部内自由科目

所属学科以外の本学部の専攻教育科目及び上記①②③で修得した科目以外の所属学科の専攻教育科目。

【各科目区分の単位計算方】

学部内自由科目

学部内の自学科、他学科で開設されている授業科目の修得単位を算入することができます。

$$(\text{学部内自由科目}) = (\text{他学科の授業科目}) + (\text{自学科科目の必要修得単位数超過分}) + (\text{芸術工学特別演習1} \sim 20)$$

【留学により修得した単位の取扱い】

学生交流協定を提携している外国の大学への留学等により修得した単位は卒業要件の単位として認定することがあります。認定単位数・科目区分は、履修した授業内容等により教授会において決定します。

また、卒業研究Ⅰについては留学する前（3か月前程度）に読替確認申請書を学務課教務係で受け取り、所属の学科に提出してください。申請が教授会で認められた場合に限り、留学先で修得した単位を本学部の卒業研究Ⅰの履修により修得したものとすることができます。

3. 各学科の教育目標及び履修細目について

(1) 環境設計学科

ア. 卒業時の教育達成目標

環境設計とは人間と環境の共生という理念にたつて、両者の関係のありかたを考察し、具体的な提案をすることです。環境設計学科では、エコロジー、持続可能性、資源、文化遺産、グローバル化、地域再生、景観といった近年の懸案に応えるため、芸術工学の基本理念にたつて、技術、人間、社会、自然に関する多角的な知識を集結して考察し、芸術的センスあふれる建築、都市、緑地、ランドスケープなどをデザインできる創造的な設計家を、国内外の設計家資格に適合し国際的にも通用する枠組みのなかで組織的に育成することを教育の目的としています。

この目的を達成する環境設計学科の教育目標は、環境設計分野に必要な ①基礎的能力を高め、②4つの想像力を培い、③実践的な解決能力を提示する能力を有する人材を育成することです。

これらの具体的内容は以下のとおりです。

①基礎的能力

- 1) 自主的・継続的学習能力：多様化する環境に対し、自主的かつ継続的に学習する能力。
- 2) 調査や文献読解力：野外調査及び文献資料をもとに、環境設計に係わる対象を正確に把握する能力。
- 3) 外国語の能力：外国語の文献理解と環境設計の分野で国際的に通用するコミュニケーション能力。
- 4) 科学的思考力：数学、自然科学及び情報技術等の科学的分析と応用を用いて環境設計に係わる諸現象のモデル化や最適解を導き出す能力。
- 5) 表現能力：文章表現や情報技術等を活用し、計画・設計の内容を正確に他者に伝えることのできるプレゼンテーション能力。
- 6) 議論能力：論理性に基づいた口頭発表力、討議等にあつて自己の考えを他者に的確に伝えるコミュニケーション能力。

②4つの想像力

- 1) 空間的な想像力：あらゆる存在や現象が実際の環境、すなわち具体的な場所や地理的な広がりの中に展開することをイメージしようとする志向とその能力。
- 2) 時間的な想像力：現代の環境が、過去からの遺産で構成されていることを認識しつつ、そのなかで未来志向的な提案をしようとする意欲とその能力。
- 3) 他者についての想像力：社会が異なった歴史や文化に属する多様な人々から

構成されていることを自覚し、社会的な少数派の文化的尊厳に配慮しながら、共生や平等、構成の理念に従った設計を行う能力。

- 4) 自然の一部としての自己についての想像力：生き物としての自分を常に意識し、人間や生物の命がいかなる自然の恵沢によって成立しているかについて繊細な感覚を持ちながら、自然生態系への尊敬の念に基づいた設計を行う能力。

③実践的な解決能力

- 1) 設計能力：用途、機能、美しさ、快適性を踏まえ、対象のもつ種々の条件を考慮しながら、環境にとって適切、かつ具体的な空間を提示する能力。
- 2) 計画・制度立案能力：環境設計の意味を理解し、社会の要請を踏まえ、既存の制度を前提としつつ、持続可能な社会を達成するための計画とその法規制を含めた制度を立案する能力。
- 3) 組織化の能力：適切な環境を維持するために、制度や計画の継続性を考慮して、人的資源を有効に活用する組織づくりの能力。

なお、環境設計学科は、これらの教育目標をもとに、日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定を目指した教育プログラムを準備しています。

イ. 10～20年先の卒業生の将来像をイメージした教育目標

今後の社会では、地球規模での環境問題や、身近な自然の喪失、共同体の崩壊という地域的な環境問題がますます深刻になります。設計家には今以上に環境と人間との総合的な関係をより適切なものにすることが、求められます。環境設計学科では、そうした観点から、基礎科学の授業とともに、具体的な地域の実態やあるべき姿について総合的かつ実践的に学ぶため、フィールドワーク（野外調査など）を中心とした学外実習や、実際に建物や緑地を設計する設計演習を中心に教育課程を編成しています。その教育を通して、上記の基礎的能力、想像力、実践的解決能力を養成し、卒業生たちが建築家、造園家、都市プランナー、環境コンサルタント、公務員、NGOあるいはNPO活動など、多様な職種について幅広く活躍することを目標としています。

ウ. 履修進行条件

3年次以降に開設される専攻教育科目及び卒業研究の着手条件については、「履修細目一覧（基幹教育科目）」、「専攻教育科目配当表」と次に示す履修条件等のとおりです。

なお、このことについては、各学科で学年の初めにガイダンスを行って説明をしますので、ガイダンスには必ず出席してください。

(ア) 3年次以降に開設される専攻教育科目の履修条件

3年次以降に開講される専攻教育科目を履修するためには、2年次終了までに44単位を、次の条件①と②の両方を満たすように修得しておかなければならない。

- ① 「履修細目一覧（基幹教育科目）」で示した卒業要件のうち、基幹教育科目について、基幹教育セミナー、課題協学科目、言語文化科目の言語文化基礎科目（注1）、文系ディシプリン科目、理系ディシプリン科目（注2）、サイバーセキュリティ科目、健康・スポーツ科目、総合科目の卒業要件単位を修得し、かつ、その他を2単位以上修得していること。

（注1）ただし、第1外国語については、卒業要件8単位のうち学術英語A・リセプション（1）、学術英語A・プロダクション（1）、学術英語B・インテグレート（各1）の4単位のみを算入する。

（注2）ただし、学科の卒業要件単位のうち、数理統計学、デザイン史以外の科目の単位のみを算入する。

- ② 1年次に開講する専攻教育科目の必修科目の単位を全て修得していること。

ただし、①および②の条件を満たせば、学年途中であっても3年次以降に開講される専攻教育科目を履修できる。

(イ) 卒業研究の着手条件

4年次前期から着手する卒業研究について、次のとおり定められています。

3年次終了の時点において次の条件①～③のすべてを満たしていること。

- ① 総修得単位数が102単位以上であること。
- ② 基幹教育科目のうち、卒業に必要な単位のすべてを修得していること。
- ③ 専攻教育科目のうち、下記のものを修得していること。
- ・環境設計基礎Ⅰ、環境設計基礎Ⅱ、構造理論の計3科目のすべて。
 - ・空間プロジェクト、建築プロジェクト、ランドスケーププロジェクト、都市プロジェクトのうち少なくとも3科目。
 - ・学科においてガイダンス等で別途指示した科目。

Ⅱ. 卒業研究について

4年次になると、必修となっている卒業研究Ⅰ及び卒業研究Ⅱを履修することになります。

卒業研究Ⅰ・Ⅱは学科で定めた方法により、通常4年次前期から特定のテーマについて研究を行い、例年2月中旬に学科ごとに卒業研究発表会や卒業研究展を開催し、研究等の成果を発表することになっています。卒業研究は、卒業研究Ⅱが卒業研究Ⅰの単位修得を履修条件としているため、必ず卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱの順で修得していくことになります。

また、卒業研究Ⅰについては、学生交流協定校に留学する場合に限り、多様なメディアを高度に利用した（例えばWebカメラを利用した）遠隔講義によって本学部の指導教員から研究指導を受けることにより、留学中に当該科目を履修することができます。

先輩たちがどのような研究を行ってきたのか興味のある方は、クラス担任や学務課教務係にお尋ねください。

オ. 履修細目等

【環境設計学科】履修細目一覧（基幹教育科目）

薄灰色の枠は2年次以降の授業科目等を示す。

卒業要件単位数	科目区分	科目区分毎の最低履修単位数	授業科目 ※1 (科目名の右隣にある括弧付き数字は単位数)		
卒業要件 128単位	基幹教育 セミナー	1単位	【必修科目】基幹教育セミナー(1)		
		課題協学科目	2.5単位	【必修科目】課題協学科目(2.5)	
	48単位 〔 1年次に 36単位を 修得 〕	第1外国語 英語 8単位	言語文化 基礎科目	学術英語A	学術英語A・リセプション(1)、学術英語A・プロダクション(1) 学術英語A・CALL(1)
				学術英語B	学術英語B・インテグレート(各1) 学術英語B・CALL(1)
				学術英語C	学術英語C・集中演習(各2)
				専門英語	専門英語(各1)
		第2外国語 1カ国語選択 4単位	言語文化 基礎科目	ドイツ語	ドイツ語Ⅰ(各1)、ドイツ語Ⅱ(各1)、ドイツ語フラクティブⅠ(1) ドイツ語Ⅲ(各1)、ドイツ語フラクティブⅡ(1)
				フランス語	フランス語Ⅰ(各1)、フランス語Ⅱ(各1)、フランス語フラクティブⅠ(1) フランス語Ⅲ(各1)、フランス語フラクティブⅡ(1)
				中国語	中国語Ⅰ(各1)、中国語Ⅱ(各1)、中国語実践Ⅰ(1) 中国語Ⅲ(各1)、中国語実践Ⅱ(1)
				ロシア語	ロシア語Ⅰ(各1)、ロシア語Ⅱ(各1)、ロシア語フォーラム(1) ロシア語Ⅲ(各1)
				韓国語	韓国語Ⅰ(各1)、韓国語Ⅱ(各1)、韓国語フォーラム(1) 韓国語Ⅲ(各1)
				スペイン語	スペイン語Ⅰ(各1)、スペイン語Ⅱ(各1)、スペイン語フォーラム(1) スペイン語Ⅲ(各1)
	言語文化自由選択科目		速習エスペラント、速習オランダ語以外は2年次以降に開講する。		
		言語文化古典語科目			
	文系ディシプリン科目	4単位	【選択必修科目】以下の科目は1年次に開講する。 哲学・思想入門② 社会思想史② 先史学入門② 歴史学入門② 文学・言語学入門② 芸術学入門② 文化人類学入門② 地理学入門② 社会学入門② 心理学入門② 現代教育学入門① 教育基礎学入門① 法学入門② 政治学入門② 経済学入門② 経済学入門② The Law and Politics of International Society②		
18.5単位			13.5単位	【必修科目①】以下の科目は1年次に開講する。 微分積分学(1.5) 線形代数(1.5) 基幹物理学ⅠA(1.5) 図形科学(1.5) 空間表現実習Ⅱ② 空間表現実習Ⅱ② 情報科学(1.5) 自然科学総合実験(基礎)① 自然科学総合実験(発展)①	
	1.5単位	【選択必修科目】以下の科目は1年次に開講する。 基幹物理学ⅠB(1.5) 基礎化学(1.5) 基礎生物学概要(1.5) 地球科学(1)			
	3.5単位	【必修科目②】以下の科目は2年次以降に開講する。 数理統計学(1.5) デザイン史②			
サイバーセキュリティ科目	1単位	【必修科目】サイバーセキュリティ基礎論(1)			
健康・スポーツ科目	1単位	【必修科目】健康・スポーツ科学演習(1)			
※5 総合科目	1.5単位	フロンティア科目			
	1.5単位	オープン科目			
	2単位 ※3				
高年次基幹教育科目	4.5単位	(1年次)2単位 言語文化科目、文系ディシプリン科目、理系ディシプリン科目、健康・スポーツ科目、総合科目から修得する。 言語文化科目、文系ディシプリン科目、理系ディシプリン科目、健康・スポーツ科目、総合科目、高年次基幹教育科目から修得(※4)			
専攻教育科目	80単位	【1年次】 環境設計基礎Ⅰ② 環境設計基礎Ⅱ② 2年次以降の履修及び詳細は開講学期別・必修選択別専攻教育科目一覧表(11ページ)を参照			

※1 表中に記載されている科目以外にも開講される科目があるので、「平成30年度基幹教育履修要項」の「基幹教育科目開講一覧」を参照すること。

※2 第1・第2外国語の履修の詳細については「平成30年度基幹教育履修要項」を参照すること。

※3 高年次基幹教育科目は2年次以降に2単位以上修得すること。

※4 2年次以降において芸術工学部他学科・他学部の専攻教育科目を修得した場合は、「その他」の単位に含めることができる。

※5 総合科目、高年次基幹教育科目は、「平成30年度基幹教育履修要項」及びシラバスで授業概要等を確認し、履修計画を立てること。

【環境設計学科】専攻教育科目配当表

授 業 科 目	授業形態	単位 数	必修 指定	毎 週 時 間 数								備 考	
				1年次		2年次		3年次		4年次			
				前	後	前	後	前	後	前	後		
環境設計基礎Ⅰ	講義	2	◎	2									
環境設計基礎Ⅱ	講義	2	◎		2								
構造理論	講義	2	◎			2						◆	
環境材料論	講義	2	※1			2							
環境調整システム論	講義	2	※1			2							
環境保全論	講義	2	※1				2						
建築デザイン計画論	講義	2	※1				2						
緑地環境設計論	講義	2	※1				2						
環境構法論	講義	2	※1				2						
環境人類学	講義	2	※1				2						
都市環境設計論	講義	2	※1				2						
環境社会経済デザイン論	講義	2	※1				2						
建築法規	講義	1	○				2						
環境形成史	講義	2	※1					2					
建築空間設計論	講義	2	※1					2					
構法設計論	講義	2	○					2					
設備計画論	講義	2	○						2				
歴史環境設計論	講義	2	※1						2				
環境文化財論	講義	2	※1							2			
環境倫理学	講義	2	※1							2			
環境情報論	講義	2	※1							2			
構造システム論	講義	2	※1							2			
ポートフォリオマネジメント	講義・演習	2	※1							2			
建築生産	講義	2	○							2			
空間デザイン実習	演習	2	◎			4							
空間プロジェクト	演習	4	◎			6							
空間情報分析実習	演習	2	◎				4						
建築プロジェクト	演習	4	◎				6						
基礎造形	演習	2	○					4					
ランドスケーププロジェクト	演習	4	◎						6				
都市プロジェクト	演習	4	◎							6			
環境総合プロジェクト	演習	4	○								6		
緑地環境実習	演習	1	※2			2							
環境設計文献講読	演習	2	※2					2					
環境テクノロジー実習	演習	2	※2						4				
歴史環境実習	演習	1	※2							2			
卒業研究Ⅰ	演習	2	◎								4	4	
卒業研究Ⅱ	演習	4	◎								8	8	
知覚心理学	講義	2	○			2							
主観評価法	講義	2	○					2					
推測統計学	講義	2	○					2					
芸術文化環境論	講義	2	○					2				◆(芸術情報設計学科開設科目)	
インターンシップ(学部)	講義・演習	2	○						2		2		
デザインストラテジー基礎	講義・演習	2	○								2		

授 業 科 目	授業形態	単 位 数	必修 指定	毎 週 時 間 数								備 考
				1年次		2年次		3年次		4年次		
				前	後	前	後	前	後	前	後	
芸術工学特別演習 1	講義・演習	1	学 部 内 自 由 科 目	1	1	1	1	1	1	1	1	
芸術工学特別演習 2	講義・演習	1		1	1	1	1	1	1	1	1	
芸術工学特別演習 3	講義・演習	1		1	1	1	1	1	1	1	1	
芸術工学特別演習 4	講義・演習	1		1	1	1	1	1	1	1	1	
芸術工学特別演習 5	講義・演習	1		1	1	1	1	1	1	1	1	
芸術工学特別演習 6	講義・演習	1		1	1	1	1	1	1	1	1	
芸術工学特別演習 7	講義・演習	1		1	1	1	1	1	1	1	1	
芸術工学特別演習 8	講義・演習	1		1	1	1	1	1	1	1	1	
芸術工学特別演習 9	講義・演習	1		1	1	1	1	1	1	1	1	
芸術工学特別演習10	講義・演習	1		1	1	1	1	1	1	1	1	
芸術工学特別演習11	講義・演習	2		2	2	2	2	2	2	2	2	
芸術工学特別演習12	講義・演習	2		2	2	2	2	2	2	2	2	
芸術工学特別演習13	講義・演習	2		2	2	2	2	2	2	2	2	
芸術工学特別演習14	講義・演習	2		2	2	2	2	2	2	2	2	
芸術工学特別演習15	講義・演習	2		2	2	2	2	2	2	2	2	
芸術工学特別演習16	講義・演習	2		2	2	2	2	2	2	2	2	
芸術工学特別演習17	講義・演習	2		2	2	2	2	2	2	2	2	
芸術工学特別演習18	講義・演習	2		2	2	2	2	2	2	2	2	
芸術工学特別演習19	講義・演習	2		2	2	2	2	2	2	2	2	
芸術工学特別演習20	講義・演習	2		2	2	2	2	2	2	2	2	

注1) 「必修指定」の欄中○は必修科目，※1，※2は選択必修科目，○は選択科目であることを示す。
 選択必修科目は※1の科目から24単位，※2の科目から3単位を修得しなければならない。

注2) 備考欄の◆印は，学科間共通教育科目を示す。

注3) 卒業研究Ⅱの履修については，卒業研究Ⅰの単位修得を条件とする。

【環境設計学科】開設学期別・必修選択別専攻教育科目一覧表

	授業科目	授業形態	単位数	時間数	必修指定
1年前期	環境設計基礎Ⅰ	講義	2	2	◎
	環境設計基礎Ⅱ	講義	2	2	◎
1年後期	環境設計基礎Ⅱ	講義	2	2	◎
	構造理論	講義	2	2	◎
2年前期	環境材料論	講義	2	2	※1
	環境調整システム論	講義	2	2	※1
	空間デザイン実習	演習	2	4	◎
	空間プロジェクト	演習	4	6	◎
	緑地環境実習	演習	1	2	※2
2年後期	知覚心理学	講義	2	2	○
	環境保全論	講義	2	2	※1
	建築デザイン計画論	講義	2	2	※1
	緑地環境設計論	講義	2	2	※1
	環境構法論	講義	2	2	※1
	環境人類学	講義	2	2	※1
	都市環境設計論	講義	2	2	※1
	環境社会経済デザイン論	講義	2	2	※1
	建築法規	講義	1	2	○
	空間情報分析実習	演習	2	4	◎
	建築プロジェクト	演習	4	6	◎
	基礎造形	演習	2	4	○
	環境形成史	講義	2	2	※1
	建築空間設計論	講義	2	2	※1
3年前期	構法設計論	講義	2	2	○
	ランドスケーププロジェクト	演習	4	6	◎
	環境設計文献講読	演習	2	2	※2
	環境テクノロジー実習	演習	2	4	※2
	主観評価法	講義	2	2	○
3年後期	推測統計学	講義	2	2	○
	芸術文化環境論	講義	2	2	○
	設備計画論	講義	2	2	○
	歴史環境設計論	講義	2	2	※1
	環境文化財論	講義	2	2	※1
	環境倫理学	講義	2	2	※1
	環境情報論	講義	2	2	※1
	構造システム論	講義	2	2	※1
	ポートフォリオマネジメント	講義・演習	2	2	※1
	建築生産	講義	2	2	○
都市プロジェクト	演習	4	6	◎	
歴史環境実習	演習	1	2	※2	

	授業科目	授業形態	単位数	時間数	必修指定
3.4年	インターンシップ(学部)	講義・演習	2	2	○
	環境総合プロジェクト	演習	4	6	○
4年前期	卒業研究Ⅰ	演習	2	4	◎
	卒業研究Ⅱ	演習	4	8	◎
	デザインストラテジー基礎	講義・演習	2	2	○
4年後期	卒業研究Ⅰ	演習	2	4	◎
	卒業研究Ⅱ	演習	4	8	◎
全学年前期・後期	芸術工学特別演習 1	講義・演習	1	1	学部内自由科目
	芸術工学特別演習 2	講義・演習	1	1	
	芸術工学特別演習 3	講義・演習	1	1	
	芸術工学特別演習 4	講義・演習	1	1	
	芸術工学特別演習 5	講義・演習	1	1	
	芸術工学特別演習 6	講義・演習	1	1	
	芸術工学特別演習 7	講義・演習	1	1	
	芸術工学特別演習 8	講義・演習	1	1	
	芸術工学特別演習 9	講義・演習	1	1	
	芸術工学特別演習 10	講義・演習	1	1	
	芸術工学特別演習 11	講義・演習	2	2	
	芸術工学特別演習 12	講義・演習	2	2	
	芸術工学特別演習 13	講義・演習	2	2	
	芸術工学特別演習 14	講義・演習	2	2	
	芸術工学特別演習 15	講義・演習	2	2	
	芸術工学特別演習 16	講義・演習	2	2	
	芸術工学特別演習 17	講義・演習	2	2	
	芸術工学特別演習 18	講義・演習	2	2	
	芸術工学特別演習 19	講義・演習	2	2	
	芸術工学特別演習 20	講義・演習	2	2	

(2) 工業設計学科

ア. 卒業時の教育達成目標

工業設計学科は、理想的な製品や生活環境を計画・設計する学科です。科学、工学、感性の観点から、「モノ」「コト」「空間」のデザインにアプローチすることにより望ましい生活、社会の構築に貢献できる、エンジニアやプランナーなども含む広義のデザイナー、研究者の育成を目標としています。

上記の教育目標の達成に向けて、工業設計学科では、次の3つの分野を総合的に習得します。

人間工学分野における科学的アプローチにより、安全で快適な生活環境や製品を創造するために、人間の形態的、生理的、心理的、行動的特性についての知識を身につけ、それらに関する科学的な研究方法を習得します。

知的機能工学分野における工学的アプローチにより、高度な機能を実現するために、力学や制御などの基礎学問、測定理論、データ処理技術と解析に必要な基礎数理及びそれらを支援するコンピュータ利用技術を習得します。

インダストリアルデザイン分野における感性的アプローチにより、デザイン理論を踏まえ、生活空間や生活機器をデザインするための調査・分析手法、デザインのプロセスと表現方法を習得します。

さらに、上記の3分野を統合するプロジェクトや演習などを通して、社会の複合的な課題を解決する能力を身につけます。卒業生は、製造業関連（情報機器、家電、自動車、オフィス、住宅、家具、玩具、服飾など）の企画・開発・設計部門やICT関連企業の開発・設計部門、デザイン事務所、広告・マーケティング調査関連、都市・インフラ関連（鉄道、エネルギー、都市開発など）、公務員（特許庁をはじめとする国、県、市など）、大学などの教育機関及び産官民の研究所などの幅広い分野での活躍が期待されます。

イ. 10～20年先の卒業生の将来像をイメージした教育目標

人間、社会、環境及び技術の諸要素が複雑に絡み合う時代にあって、人類が解決しなければならない課題はますます複合的になり、多様な専門分野を横断する柔軟な思考力と実行力、幅広い視野が不可欠になると考えられます。

このような背景から、工業設計学科では、人間工学分野の科学的、知的機能工学分野の工学的、デザイン分野の感性的なアプローチによる総合的なデザイン方法に基づいた総合した広い視野をもって、環境や社会、人々の生活の諸問題を発見し、解決に向けての具体的な対策を提案できる能力を身につけた人材の育成を目標としています。

ウ. 履修進行条件

3年次以降に開設される専攻教育科目及び卒業研究の着手条件については、「履修細目一覧（基幹教育科目）」、「専攻教育科目配当表」と次に示す履修条件等のとおりです。

なお、このことについては、各学科で学年の初めにガイダンスを行って説明をしますので、ガイダンスには必ず出席してください。

(ア) 3年次以降に開設される専攻教育科目の履修条件

3年次以降に開講される専攻教育科目を履修するためには、2年次終了までに44単位を、次の条件①と②の両方を満たすように修得しておかなければならない。

① 「履修細目一覧（基幹教育科目）」で示した卒業要件のうち、基幹教育科目について、基幹教育セミナー、課題協学科目、言語文化科目の言語文化基礎科目（注1）、文系ディシプリン科目、理系ディシプリン科目（注2）、サイバーセキュリティ科目、健康・スポーツ科目、総合科目の卒業要件単位を修得し、かつ、その他を2単位以上修得していること。

（注1）ただし、第1外国語については、卒業要件8単位のうち学術英語A・リセプション（1）、学術英語A・プロダクション（1）、学術英語B・インテグレート（各1）の4単位のみを算入する。

（注2）ただし、学科の卒業要件単位のうち、数理統計学、空間表現実習Ⅱ、デザイン史以外の科目の単位のみを算入する。

② 1年次に開講する専攻教育科目の必修科目の単位を全て修得していること。
ただし、①および②の条件を満たせば、学年途中であっても3年次以降に開講される専攻教育科目を履修できる。

(イ) 卒業研究の着手条件

4年次前期から着手する卒業研究について、次のとおり定められています。

3年次終了の時点において次の条件①と②の両方を満たしていること。

① 総修得単位数が102単位以上であること。

② 1年次から3年次終了までに開設されている基幹教育科目（高年次基幹教育科目を除く）及び専攻教育科目の必修科目の全てを修得していること。

※ただし、上記②において4単位以内を未修得の場合は、上記①において112単位以上を修得しておくこと。

エ. 卒業研究について

4年次になると、必修となっている卒業研究Ⅰ及び卒業研究Ⅱを履修することになります。

卒業研究Ⅰ・Ⅱは学科で定めた方法により、通常4年次前期から特定のテーマに

ついて研究を行い、例年2月中旬に学科ごとに卒業研究発表会や卒業研究展を開催し、研究等の成果を発表することになっています。卒業研究は、卒業研究Ⅱが卒業研究Ⅰの単位修得を履修条件としているため、必ず卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱの順で修得していくことになります。

また、卒業研究Ⅰについては、学生交流協定校に留学する場合に限り、多様なメディアを高度に利用した（例えばWebカメラを利用した）遠隔講義によって本学部の指導教員から研究指導を受けることにより、留学中に当該科目を履修することができます。

先輩たちがどのような研究を行ってきたのか興味のある方は、クラス担任や学務課教務係にお尋ねください。

オ. 履修細目等

【工業設計学科】履修細目一覧（基幹教育科目）

薄灰色の枠は2年次以降の授業科目等を示す。

卒業要件単位数	科目区分	科目区分毎の最低修得単位数	授業科目 ※1 (科目名の右欄にある括弧付き数字は単位数)		
卒業要件 128単位	基幹教育 セミナー	1単位	【必修科目】基幹教育セミナー(1)		
		課題協学科目	2.5単位	【必修科目】課題協学科目(2.5)	
	基幹教育科目 48単位 〔1年次に 36.5単位 を修得〕	第1外国語 英語 8単位	言語文化 基幹 科目	学術英語A	学術英語A・リセッション(1)、学術英語A・プロダクション(1) 学術英語A・CALL(1)
				学術英語B	学術英語B・インテグレート(各1) 学術英語B・CALL(1)
				学術英語C	学術英語C・集中演習(各2)
				専門英語	専門英語(各1)
		第2外国語 1カ国語選択 4単位	ドイツ語	ドイツ語Ⅰ(各1)、ドイツ語Ⅱ(各1)、ドイツ語フラクティブⅠ(1) ドイツ語Ⅲ(各1)、ドイツ語フラクティブⅡ(1)	
			フランス語	フランス語Ⅰ(各1)、フランス語Ⅱ(各1)、フランス語プラティクⅠ(1) フランス語Ⅲ(各1)、フランス語プラティクⅡ(1)	
			中国語	中国語Ⅰ(各1)、中国語Ⅱ(各1)、中国語実践Ⅰ(1) 中国語Ⅲ(各1)、中国語実践Ⅱ(1)	
			ロシア語	ロシア語Ⅰ(各1)、ロシア語Ⅱ(各1)、ロシア語フォーラム(1) ロシア語Ⅲ(各1)	
			韓国語	韓国語Ⅰ(各1)、韓国語Ⅱ(各1)、韓国語フォーラム(1) 韓国語Ⅲ(各1)	
			スペイン語	スペイン語Ⅰ(各1)、スペイン語Ⅱ(各1)、スペイン語フォーラム(1) スペイン語Ⅲ(各1)	
			日本語	【外国人留学生対象科目】 日本語Ⅰ(1)、日本語Ⅱ(各1)、日本語Ⅲ(各1)、日本語Ⅳ(各1) 日本語Ⅴ(1)、日本語Ⅵ(1)、日本語Ⅶ(1)	
			言語文化自由選択科目	速習エスペラント、速習オランダ語以外は2年次以降に開講する。	
			言語文化古典語科目		
文系ディシ プリン科目	4単位		【選択必修科目】以下の科目は1年次に開講する。 哲学・思想入門② 社会思想史② 先史学入門② 歴史学入門② 文学・言語学入門② 芸術学入門② 文化人類学入門② 地理学入門② 社会学入門② 心理学入門② 現代教育学入門① 教育基礎学入門① 法学入門② 政治学入門② 経済学入門② 経済学入門② The Law and Politics of International Society②		
理系ディシ プリン科目	21単位	13単位	【必修科目①】以下の科目は1年次に開講する。 微分積分学・同演習A(1.5) 微分積分学・同演習B(1.5) 線形代数学・同演習A(1.5) 線形代数学・同演習B(1.5) 図形科学(1.5) 空間表現実習Ⅰ② 情報科学(1.5) 自然科学総合実験(基礎)(1) 自然科学総合実験(発展)(1)		
		2.5単位	【選択必修科目】以下の科目は1年次に開講する。(※3) 基幹物理学ⅠA(1.5) 基幹物理学ⅠA演習(1) 基幹物理学ⅠB(1.5) 基幹物理学ⅠB演習(1) 基礎生物学概要(1.5) 集団生物学(1.5)		
		5.5単位	【必修科目②】以下の科目は2年次以降に開講する。 数理統計学(1.5) 空間表現実習Ⅱ② デザイン史②		
サイバーセキュ リティ科目	1単位	【必修科目】サイバーセキュリティ基礎(1)			
健康・スポーツ 科目	1単位	【必修科目】健康・スポーツ科学演習(1)			
※6 総合科目 高年次基幹 教育科目	1.5単位	フロンティア科目			
	2単位 ※4	オープン科目			
	2単位	言語文化科目、文系ディシプリン科目、理系ディシプリン科目、健康・スポーツ科目、総合科目 から修得する。 言語文化科目、文系ディシプリン科目、理系ディシプリン科目、健康・スポーツ科目、総合科目、 高年次基幹教育科目から修得(※6)			
専攻教育科目	80単位	【1年次】 工業設計基礎演習Ⅰ(1) 工業設計基礎演習Ⅱ(1) 2年次以降の履修及び詳細は開設学期別・必修選択別専攻教育科目一覧表(18ページ) を参照			

- ※1 表中に記載されている科目以外にも開講される科目があるので、「平成30年度基幹教育履修要項」の「基幹教育科目開講一覧」を参照すること。
- ※2 第1・第2外国語の履修の詳細については「平成30年度基幹教育履修要項」を参照すること。
- ※3 選択必修科目は、「基幹物理学ⅠA(1.5)」と「基幹物理学ⅠA演習(1)」、「基幹物理学ⅠB(1.5)」と「基幹物理学ⅠB演習(1)」、「基礎生物学概要(1.5)」と「集団生物学(1.5)」のいずれかの組み合わせで履修することが望ましい。
- ※4 高年次基幹教育科目は2年次以降に2単位以上修得すること。
- ※5 2年次以降において芸術工学部他学科・他学部の専攻教育科目を修得した場合は、「その他」の単位に含めることができる。
- ※6 総合科目、高年次基幹教育科目は、「平成30年度基幹教育履修要項」及びシラバスで授業概要等を確認し、履修計画を立てること。

【工業設計学科】専攻教育科目配当表

授 業 科 目	授業形態	単 位 数	必 修 指 定	毎 週 時 間 数								備 考	
				1年次		2年次		3年次		4年次			
				前	後	前	後	前	後	前	後		
人間工学概論	講義	2	◎			2							
人間工学設計法	講義	2	◎					2					
感性科学	講義	2	※1					2					
福祉人間工学	講義	2	※1		2								
行動生理学	講義	2	※1			2							
生理人類学	講義	2	※1			2							
環境人間工学	講義	2	※1					2					
聴覚生理学	講義	2	○		2								◆(音響設計学科開設科目)
人間工学研究法	講義	2	○					2					
人間工学測定演習	演習	2	○			4							
フィールド調査演習	演習	2	○				4						
生体情報処理演習	演習	2	○					4					
人間工学設計演習	演習	2	○						4				
デザイン理論	講義	2	◎		2								
生活機器デザイン論	講義	2	◎		2								
生活空間デザイン論	講義	2	◎		2								
現代生活デザイン論・演習	講義・演習	3	※2					4					
生活機器設計論・演習	講義・演習	3	※2				4						
生活空間設計論・演習	講義・演習	3	※2				4						
生活機器造形論・演習	講義・演習	3	※2					4					
生活空間造形論・演習	講義・演習	3	※2					4					
デザインシステム論・演習	講義・演習	3	※2						4				
インタラクションデザイン	講義	2	○			2							◆(芸術情報設計学科開設科目)
デザイン思考法	講義	2	○		2		2		2				
インダストリアルデザイン基礎演習A	演習	2	○		4								
インダストリアルデザイン基礎演習B	演習	2	○			4							
計画設計プロジェクト演習	演習	2	○						4				
工業設計力学Ⅰ	講義	2	※3		2								
工業設計力学Ⅱ	講義	2	※3			2							
設計多変量解析	講義	2	※3			2							◆
機能工学基礎	講義	2	※3					2					
機能デザイン論	講義	2	※3						2				
応用時系列解析	講義	2	※3						2				◆
構造理論	講義	2	○		2								◆(環境設計学科開設科目)
機械学習	講義	2	○						2				
デジタルモデリング演習	演習	2	○					4					
機能工学デザイン演習	演習	2	○						4				
工業設計基礎演習Ⅰ	演習	1	◎	2									
工業設計基礎演習Ⅱ	演習	1	◎		2								
工業設計モデリング演習	演習	1	○		2								
工業設計プロジェクト研究	演習	2	○						4				
卒業研究Ⅰ	演習	2	◎						4	4			
卒業研究Ⅱ	演習	4	◎						8	8			
知覚心理学	講義	2	○		2								
主観評価法	講義・演習	2	○					2					
インターンシップ(学部)	講義・演習	2	○					2		2			
デザインストラテジー基礎	講義・演習	2	○						2				
電子工学	講義・演習	2	○		2								

授 業 科 目	授業形態	単 位 数	必 修 指 定	毎 週 時 間 数								備 考		
				1年次		2年次		3年次		4年次				
				前	後	前	後	前	後	前	後			
情報理論	講義・演習	2	○					2						
推測統計学	講 義	2	○					2						
システム工学	講 義	2	○							2				
知的財産論	講 義	2	○					2						◆(芸術情報設計学科開設科目)
芸術工学特別演習 1	講義・演習	1	学 部 内 自 由 科 目	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
芸術工学特別演習 2	講義・演習	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
芸術工学特別演習 3	講義・演習	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
芸術工学特別演習 4	講義・演習	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
芸術工学特別演習 5	講義・演習	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
芸術工学特別演習 6	講義・演習	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
芸術工学特別演習 7	講義・演習	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
芸術工学特別演習 8	講義・演習	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
芸術工学特別演習 9	講義・演習	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
芸術工学特別演習10	講義・演習	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
芸術工学特別演習11	講義・演習	2		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
芸術工学特別演習12	講義・演習	2		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
芸術工学特別演習13	講義・演習	2		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
芸術工学特別演習14	講義・演習	2		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
芸術工学特別演習15	講義・演習	2		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
芸術工学特別演習16	講義・演習	2		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
芸術工学特別演習17	講義・演習	2		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
芸術工学特別演習18	講義・演習	2		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
芸術工学特別演習19	講義・演習	2		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
芸術工学特別演習20	講義・演習	2		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
<p>注1) 「必修指定」の欄中○は必修科目、※1～※3は選択必修科目、○は選択科目であることを示す。 選択必修科目は次のとおり修得しなければならない。 ・※1の科目から6単位 ・※2の科目から9単位 ・※3の科目から8単位</p> <p>注2) 備考欄の◆印は、学科間共通教育科目を示す。</p> <p>注3) 卒業研究Ⅱの履修については、卒業研究Ⅰの単位修得を条件とする。</p>														

【工業設計学科】開設学期別・必修選択別専攻教育科目一覧表

	授 業 科 目	授業形態	単 位 数	時 間 数	必 修 指 定
1年前期	工業設計基礎演習Ⅰ	演習	1	2	◎
	工業設計基礎演習Ⅱ	演習	1	2	◎
2年前期	聴覚生理学	講義	2	2	○
	構造理論	講義	2	2	○
	工業設計モデリング演習	演習	1	2	○
	知覚心理学	講義	2	2	○
	人間工学測定演習	演習	2	4	○
	インダストリアルデザイン基礎演習A	演習	2	4	○
	人間工学概論	講義	2	2	◎
	デザイン理論	講義	2	2	◎
	生活機器デザイン論	講義	2	2	◎
	生活空間デザイン論	講義	2	2	◎
2年後期	工業設計力学Ⅰ	講義	2	2	※3
	福祉人間工学	講義	2	2	※1
	インタラクティブデザイン	講義	2	2	○
	電子工学	講義・演習	2	2	○
	フィールド調査演習	演習	2	4	○
	インダストリアルデザイン基礎演習B	演習	2	4	○
	行動生理学	講義	2	2	※1
	生理人類学	講義	2	2	※1
	生活機器設計論・演習	講義・演習	3	4	※2
	生活空間設計論・演習	講義・演習	3	4	※2
3年前期	工業設計力学Ⅱ	講義	2	2	※3
	設計多変量解析	講義	2	2	※3
	機能工学基礎	講義	2	2	※3
	機能デザイン論	講義	2	2	※3
	主観評価法	講義・演習	2	2	○
	情報理論	講義・演習	2	2	○
	推測統計学	講義	2	2	○
	知的財産論	講義	2	2	○
	生体情報処理演習	演習	2	4	○
	デジタルモデリング演習	演習	2	4	○
3年後期	人間工学設計法	講義	2	2	◎
	感性科学	講義	2	2	※1
	環境人間工学	講義	2	2	※1
	現代生活デザイン論・演習	講義・演習	3	4	※2
	生活機器造形論・演習	講義・演習	3	4	※2
	生活空間造形論・演習	講義・演習	3	4	※2

	授 業 科 目	授業形態	単 位 数	時 間 数	必 修 指 定
3年前期	人間工学研究法	講義	2	2	○
	応用時系列解析	講義	2	2	※3
	機械学習	講義	2	2	○
	システム工学	講義	2	2	○
	人間工学設計演習	演習	2	4	○
	計画設計プロジェクト演習	演習	2	4	○
2-4年	機能工学デザイン演習	演習	2	4	○
	デザインシステム論・演習	講義・演習	3	4	※2
3.4年	デザイン思考法	講義	2	2	○
	インターンシップ(学部)	講義・演習	2	2	○
4年前期	デザインストラテジー基礎	講義・演習	2	2	○
	工業設計プロジェクト研究	演習	2	4	○
	卒業研究Ⅰ	演習	2	4	◎
4年後期	卒業研究Ⅱ	演習	4	8	◎
	卒業研究Ⅰ	演習	2	4	◎
	卒業研究Ⅱ	演習	4	8	◎
全学年前期・後期	芸術工学特別演習 1	講義・演習	1	1	学 部 内 自 由 科 目
	芸術工学特別演習 2	講義・演習	1	1	
	芸術工学特別演習 3	講義・演習	1	1	
	芸術工学特別演習 4	講義・演習	1	1	
	芸術工学特別演習 5	講義・演習	1	1	
	芸術工学特別演習 6	講義・演習	1	1	
	芸術工学特別演習 7	講義・演習	1	1	
	芸術工学特別演習 8	講義・演習	1	1	
	芸術工学特別演習 9	講義・演習	1	1	
	芸術工学特別演習 10	講義・演習	1	1	
	芸術工学特別演習 11	講義・演習	2	2	
	芸術工学特別演習 12	講義・演習	2	2	
	芸術工学特別演習 13	講義・演習	2	2	
	芸術工学特別演習 14	講義・演習	2	2	
	芸術工学特別演習 15	講義・演習	2	2	
	芸術工学特別演習 16	講義・演習	2	2	
	芸術工学特別演習 17	講義・演習	2	2	
	芸術工学特別演習 18	講義・演習	2	2	
	芸術工学特別演習 19	講義・演習	2	2	
	芸術工学特別演習 20	講義・演習	2	2	

(3) 画像設計学科

ア. 卒業時の教育達成目標

画像設計学科では、画像に関する総合的な専門知識と先端の画像処理技術を学び、ますます高度化、多様化する現代の情報社会で縦横に設計する能力を備えた人材の育成を目指しています。

人間生活に関わる視覚情報を創造的に構成伝達するための計画・設計能力の育成を目的に、人間の視知覚の特性を理解し、理論的で科学的な思考力を持ち、先端的な画像処理技術を修得し、総合的な専門知識と高度な設計能力を持った画像設計の専門家を養成します。

そのため、本学科では、視覚情報がどのように知覚され、判断されるかを総合的に理解し、画像情報の生成や自然界・社会からの獲得、認識・理解、処理、表示、伝達の理論及び手法を修得し、人間のイメージを視覚的に具体化し伝達するための表現能力を高めるための講義、演習、実習および実験科目を開設しています。

本学科の教育課程を修了した学生が、視覚情報を主体的に処理し得る能力を備えた創造性の高い画像設計の専門家であると評価されるような教育の実施を目指しています。

教育の効果として、本学科が提供する教育課程を修めた卒業生は、

- ① 広報、広告、宣伝等の企画・調査・製作
- ② 印刷媒体の企画・編集・レイアウト、サインシステムの研究開発
- ③ 多様な視覚媒体による芸術活動及びその応用展開
- ④ 流通及び市場活動における展示計画
- ⑤ 視聴覚教育など情報産業における視覚伝達法の開発計画
- ⑥ 画像(映像・印刷・医用・工業用その他)の電子的情報処理方式のハードウェア・ソフトウェアの研究設計開発
- ⑦ 画像通信ネットワークシステムの研究開発
- ⑧ 光学的情報表示システムの研究開発

などの幅広い分野で活躍できることが期待されており、そのような教育を提供することを目指しています。

イ. 10～20年先の卒業生の将来像をイメージした教育目標

ますます複雑化、多様化していく情報社会において、人間の視知覚の特性を理解し、視覚文化とその歴史をよく知り、理論的で科学的な思考力を持った画像に関する先端的設計能力を有する人材が、よりいっそう必要となってきました。

画像設計学科では、感覚受容から美的感性に至る人間の視覚情報処理、情報や人間のイメージを視覚的に具体化する方法とその表現方法、及び情報を獲得、加工、処理、表示、伝送するためのコンピュータを基盤とした方法とそのシステムの設計

について教育を行い、更にそれらを高い次元でまとめることのできる能力を養成します。

教育を通して、人間に適合した豊かな視覚情報の設計能力を養うことによって、印刷、出版、照明、映像、展示、広報、広告、宣伝、マスコミ、サイン関係、コンピュータグラフィックス、コンピュータソフトウェア、電気機器、電気・通信、画像解析等の分野で、情報社会をリードするような役割を果たすことができる人材の養成を目標としています。

ウ. 履修進行条件

3年次以降に開設される専攻教育科目及び卒業研究の着手条件については、「履修細目一覧（基幹教育科目）」、「専攻教育科目配当表」と次に示す履修条件等のとおりです。

なお、このことについては、各学科で学年の初めにガイダンスを行って説明をしますので、ガイダンスには必ず出席してください。

(ア) 3年次以降に開設される専攻教育科目の履修条件

3年次以降に開講される専攻教育科目を履修するためには、2年次終了までに44単位を、次の条件①と②の両方を満たすように修得しておかなければならない。

- ① 「履修細目一覧（基幹教育科目）」で示した卒業要件のうち、基幹教育科目について、基幹教育セミナー、課題協学科目、言語文化科目の言語文化基礎科目（注1）、文系ディシプリン科目、理系ディシプリン科目（注2）、サイバーセキュリティ科目、健康・スポーツ科目、総合科目の卒業要件単位を修得し、かつ、その他を2単位以上修得していること。

（注1）ただし、第1外国語については、卒業要件8単位のうち学術英語A・リセプション（1）、学術英語A・プロダクション（1）、学術英語B・インテグレイト（各1）の4単位のみを算入する。

（注2）ただし、学科の卒業要件単位のうち、数理統計学、デザイン史以外の科目の単位のみを算入する。

- ② 1年次に開講する専攻教育科目の必修科目の単位を全て修得していること。
ただし、①および②の条件を満たせば、学年途中であっても3年次以降に開講される専攻教育科目を履修できる。

(イ) 卒業研究の着手条件

4年次前期から着手する卒業研究について、次のとおり定められています。

3年次前期終了の時点において次の条件①と②の両方を満たしていること。

- ① 総修得単位数が83単位以上であること。
② 1年次、2年次、3年次前期に開設されている専攻教育科目の必修科目及び選

択必修科目のすべての単位（26単位）のうち22単位以上を修得していること。
※上記①の単位数に算入できる単位数は、卒業要件である必要修得単位数表に記載されている各々の科目区分に対する単位数（基幹教育科目及び専攻教育科目の欄の数値）を上限とする。

工. 卒業研究について

4年次になると、必修となっている卒業研究Ⅰ及び卒業研究Ⅱを履修することになります。

卒業研究Ⅰ・Ⅱは学科で定めた方法により、通常4年次前期から特定のテーマについて研究を行い、例年2月中旬に学科ごとに卒業研究発表会や卒業研究展を開催し、研究等の成果を発表することになっています。卒業研究は、卒業研究Ⅱが卒業研究Ⅰの単位修得を履修条件としているため、必ず卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱの順で修得していくことになります。

また、卒業研究Ⅰについては、学生交流協定校に留学する場合に限り、多様なメディアを高度に利用した（例えばWebカメラを利用した）遠隔講義によって本学部の指導教員から研究指導を受けることにより、留学中に当該科目を履修することができます。

先輩たちがどのような研究を行ってきたのか興味のある方は、クラス担任や学務課教務係にお尋ねください。

オ. 履修細目等

【画像設計学科】履修細目一覧（基幹教育科目）

薄灰色の枠は2年次以降の授業科目等を示す。

卒業要件単位数		科目区分	科目区分毎の最低履修単位数	授業科目 ※1 (科目名の右隣にある括弧付き数字は単位数)	
卒業要件 128単位	基幹教育科目 48単位 (1年次に36単位を修得)	基幹教育セミナー	1単位	【必修科目】基幹教育セミナー(1)	
		課題協同学科目	2.5単位	【必修科目】課題協同学科目(2.5)	
		第1外国語 英語 8単位	言語文化科目 ※2	学術英語A	学術英語A・リセプション(1), 学術英語A・プロダクション(1) 学術英語A・CALL(1)
				学術英語B	学術英語B・インテグレート(各1) 学術英語B・CALL(1)
				学術英語C	学術英語C・集中演習(各2)
				専門英語	専門英語(各1)
			ドイツ語	ドイツ語Ⅰ(各1), ドイツ語Ⅱ(各1), ドイツ語プラクティクムⅠ(1) ドイツ語Ⅲ(各1), ドイツ語プラクティクムⅡ(1)	
			フランス語	フランス語Ⅰ(各1), フランス語Ⅱ(各1), フランス語プラクティクⅠ(1) フランス語Ⅲ(各1), フランス語プラクティクⅡ(1)	
			中国語	中国語Ⅰ(各1), 中国語Ⅱ(各1), 中国語実践Ⅰ(1) 中国語Ⅲ(各1), 中国語実践Ⅱ(1)	
			ロシア語	ロシア語Ⅰ(各1), ロシア語Ⅱ(各1), ロシア語フォーラム(1) ロシア語Ⅲ(各1)	
			韓国語	韓国語Ⅰ(各1), 韓国語Ⅱ(各1), 韓国語フォーラム(1) 韓国語Ⅲ(各1)	
			スペイン語	スペイン語Ⅰ(各1), スペイン語Ⅱ(各1), スペイン語フォーラム(1) スペイン語Ⅲ(各1)	
		日本語	【外国人留学生対象科目】 日本語Ⅰ(1), 日本語Ⅱ(各1), 日本語Ⅲ(各1), 日本語Ⅳ(各1) 日本語Ⅴ(1), 日本語Ⅵ(1), 日本語Ⅶ(1)		
		言語文化自由選択科目	速習エスプラント, 速習オランダ語(1)	速習エスプラント, 速習オランダ語(1)以外は2年次以降に開講する。	
		言語文化古典語科目			
文系ディシプリン科目	4単位	【選択必修科目】以下の科目は1年次に開講する。 哲学・思想入門② 社会思想史② 先史学入門② 歴史学入門② 文学・言語学入門② 芸術学入門② 文化人類学入門② 地理学入門② 社会学入門② 心理学入門② 現代教育学入門① 教育基礎学入門① 法学入門② 政治学入門② 経済学入門② 経済学入門② The Law and Politics of International Society②			
理系ディシプリン科目	17.5単位	9.5単位	【必修科目①】以下の科目は1年次に開講する。 微分積分学・同演習A(1.5) 微分積分学・同演習B(1.5) 線形代数学・同演習A(1.5) 線形代数学・同演習B(1.5) 情報科学(1.5) 自然科学総合実験(基礎)(1) 自然科学総合実験(発展)(1)		
		4.5単位	【選択必修科目】以下の科目は1年次に開講する。 基幹物理学ⅠA(1.5) 基幹物理学ⅠA演習(1) 基幹物理学ⅠB(1.5) 基幹物理学ⅠB演習(1) 基礎化学熱力学(1.5) 細胞生物学(1.5) 集団生物学(1.5) 地球と宇宙の科学(1) 地球科学(1)		
	3.5単位	【必修科目②】以下の科目は2年次以降に開講する。 数理統計学(1.5) デザイン史②			
	サイバーセキュリティ科目	1単位	【必修科目】サイバーセキュリティ基礎講(1)		
健康・スポーツ科目	1単位	【必修科目】健康・スポーツ科学演習(1)			
※5	総合科目	1.5単位	フロンティア科目 ユニバーサルデザイン研究(1) [推奨]		
	高年次基幹教育科目	2単位 ※3	オープン科目		
	その他	5.5単位	(1年次) 3単位 言語文化科目, 文系ディシプリン科目, 理系ディシプリン科目, 健康・スポーツ科目, 総合科目 言語文化科目, 文系ディシプリン科目, 理系ディシプリン科目, 健康・スポーツ科目, 総合科目, 高年次基幹教育科目から修得(※4)		
専攻教育科目	80単位	【1年次】 視覚芸術基礎Ⅰ② 視覚芸術基礎Ⅱ② 2年次以降の履修及び詳細は開設学期別・必修選択別専攻教育科目一覧表(25ページ)を参照			

- ※1 表中に記載されている科目以外にも開講される科目があるので、「平成30年度基幹教育履修要項」の「基幹教育科目開講一覧」を参照すること。
- ※2 第1・第2外国語の履修の詳細については「平成30年度基幹教育履修要項」を参照すること。
- ※3 高年次基幹教育科目は2年次以降に2単位以上修得すること。
- ※4 2年次以降において芸術工学部他学科・他学部専攻教育科目を修得した場合は、「その他」の単位に含めることができる。
- ※5 総合科目, 高年次基幹教育科目は、「平成30年度基幹教育履修要項」及びシラバスで授業概要等を確認し, 履修計画を立てること。

【画像設計学科】専攻教育科目配当表

授 業 科 目	授業形態	単 位 数	必 修 指 定	毎 週 時 間 数								備 考
				1年次		2年次		3年次		4年次		
				前	後	前	後	前	後	前	後	
視覚学	講義	2	◎			2						
視覚心理学	講義	2	※1					2				
視覚心理学演習	演習	2	○						2			
視覚生理システム学	講義	2	※1			2						
色彩学	講義	2	◎			2						
色彩学演習	演習	2	○					2				
画像論	講義	2	※1			2						
画像論演習	演習	2	○						2			
銀塩写真演習	演習	2	○						2			
視覚伝達論	講義	2	○					2				
映像表現プロデュース論	講義	2	※2			2						
拡張映像表現スタジオ演習	演習	2	○					2				
デジタルイメージリレーション論	講義	2	※2			2						
コンピュータアニメーション演習	演習	2	○						2			
グラフィックコミュニケーション論	講義	2	※2			2						
グラフィックデザイン演習	演習	2	○					2				
メディアコミュニケーション論	講義	2	※2			2						
メディア環境計画	講義	2	○						2			
芸術表現論	講義	2	※2			2						
現代芸術とコミュニケーション演習	演習	2	○					2				
心理学的思考法演習	演習	2	○					2				
視覚芸術学プロジェクト	演習	2	○						4			
画像工学基礎	講義	2	◎			2						
画像工学プログラミング	演習	2	◎			2						
画像メディア工学	講義	2	※3			2						
画像メディア工学演習	演習	2	○					2				
画像処理	講義	2	※3			2						
画像処理演習	演習	2	○					2				
グラフィックスアルゴリズム	講義	2	※3			2						
グラフィックスアルゴリズム演習	演習	2	○					2				
卒業研究Ⅰ	演習	2	◎						4	4		
卒業研究Ⅱ	演習	4	◎						8	8		
知覚心理学	講義	2	○			2						
主観評価法	講義・演習	2	○					2				
知的財産論	講義	2	○					2				◆(芸術情報設計学科開設科目)
コンピュータグラフィックス	講義	2	○			2						◆(芸術情報設計学科開設科目)
インターンシップ(学部)	講義・演習	2	○					2	2			
デザインストラテジー基礎	講義・演習	2	○						2			
統計・データ科学	講義	2	○					2				◆(芸術情報設計学科開設科目)
機械学習	講義	2	○					2				◆(芸術情報設計学科開設科目)
設計多変量解析	講義	2	○			2						◆(工業設計学科開設科目)
応用時系列解析	講義	2	○					2				◆
視覚芸術基礎Ⅰ	講義・演習	2	◎	2								
視覚芸術基礎Ⅱ	講義・演習	2	◎		2							
視覚芸術基礎Ⅲ	講義・演習	2	◎			4						

授 業 科 目	授業形態	単 位 数	必修 指定	毎 週 時 間 数								備 考		
				1年次		2年次		3年次		4年次				
				前	後	前	後	前	後	前	後			
芸術工学特別演習 1	講義・演習	1	学 部 内 自 由 科 目	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
芸術工学特別演習 2	講義・演習	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
芸術工学特別演習 3	講義・演習	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
芸術工学特別演習 4	講義・演習	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
芸術工学特別演習 5	講義・演習	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
芸術工学特別演習 6	講義・演習	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
芸術工学特別演習 7	講義・演習	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
芸術工学特別演習 8	講義・演習	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
芸術工学特別演習 9	講義・演習	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
芸術工学特別演習10	講義・演習	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
芸術工学特別演習11	講義・演習	2		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
芸術工学特別演習12	講義・演習	2		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
芸術工学特別演習13	講義・演習	2		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
芸術工学特別演習14	講義・演習	2		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
芸術工学特別演習15	講義・演習	2		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
芸術工学特別演習16	講義・演習	2		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
芸術工学特別演習17	講義・演習	2		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
芸術工学特別演習18	講義・演習	2		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
芸術工学特別演習19	講義・演習	2		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
芸術工学特別演習20	講義・演習	2		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	

注1) 「必修指定」の欄中○は必修科目，※1～※3は選択必修科目，○は選択科目であることを示す。
 選択必修科目は※1～※3の科目それぞれから各4単位修得しなければならない。
 注2) 備考欄の◆印は、学科間共通教育科目を示す。
 注3) 卒業研究Ⅱの履修については、卒業研究Ⅰの単位修得を条件とする。

【画像設計学科】開設学期別・必修選択別専攻教育科目一覧表

	授 業 科 目	授 業 形 態	単 位 数	時 間 数	必 修 指 定
1 年 前 期	視覚芸術基礎Ⅰ	講義・演習	2	2	◎
	視覚芸術基礎Ⅱ	講義・演習	2	2	◎
1 年 後 期	知覚心理学	講 義	2	2	○
	コンピュータグラフィックス	講 義	2	2	○
2 年 前 期	視覚学	講 義	2	2	◎
	画像工学基礎	講 義	2	2	◎
	画像工学プログラミング	演 習	2	2	◎
	視覚芸術基礎Ⅲ	講義・演習	2	4	◎
	デジタルイメージクリエーション論	講 義	2	2	※2
	メディアコミュニケーション論	講 義	2	2	※2
2 年 後 期	設計多変量解析	講 義	2	2	○
	色彩学	講 義	2	2	◎
	視覚生理システム学	講 義	2	2	※1
	画像論	講 義	2	2	※1
	映像表現プロテュース論	講 義	2	2	※2
	グラフィックコミュニケーション論	講 義	2	2	※2
	芸術表現論	講 義	2	2	※2
	画像メディア工学	講 義	2	2	※3
	画像処理	講 義	2	2	※3
	グラフィックスアルゴリズム	講 義	2	2	※3
3 年 前 期	色彩学演習	演 習	2	2	○
	拡張映像表現スタジオ演習	演 習	2	2	○
	グラフィックデザイン演習	演 習	2	2	○
	画像メディア工学演習	演 習	2	2	○
	画像処理演習	演 習	2	2	○
	グラフィックスアルゴリズム演習	演 習	2	2	○
	主観評価法	講義・演習	2	2	○
	知的財産論	講 義	2	2	○
	統計・データ科学	講 義	2	2	○
	視覚心理学	講 義	2	2	※1
	視覚心理学演習	演 習	2	2	○
	画像論演習	演 習	2	2	○
	銀塩写真演習	演 習	2	2	○
視覚伝達論	講 義	2	2	○	
3 年 後 期	コンピュータアニメーション演習	演 習	2	2	○
	メディア環境計画	講 義	2	2	○
	現代芸術とコミュニケーション演習	演 習	2	2	○
	心理学的思考法演習	演 習	2	2	○
	機械学習	講 義	2	2	○
	応用時系列解析	講 義	2	2	○
	視覚芸術学プロジェクト	演 習	2	4	○

	授 業 科 目	授 業 形 態	単 位 数	時 間 数	必 修 指 定
3.4年	インターンシップ(学部)	講義・演習	2	2	○
	デザインストラテジー基礎	講義・演習	2	2	○
4 年 前 期	卒業研究Ⅰ	演 習	2	4	◎
	卒業研究Ⅱ	演 習	4	8	◎
4 年 後 期	卒業研究Ⅰ	演 習	2	4	◎
	卒業研究Ⅱ	演 習	4	8	◎
全 学 年 前 期 ・ 後 期	芸術工学特別演習 1	講義・演習	1	1	学 部 内 自 由 科 目
	芸術工学特別演習 2	講義・演習	1	1	
	芸術工学特別演習 3	講義・演習	1	1	
	芸術工学特別演習 4	講義・演習	1	1	
	芸術工学特別演習 5	講義・演習	1	1	
	芸術工学特別演習 6	講義・演習	1	1	
	芸術工学特別演習 7	講義・演習	1	1	
	芸術工学特別演習 8	講義・演習	1	1	
	芸術工学特別演習 9	講義・演習	1	1	
	芸術工学特別演習10	講義・演習	1	1	
	芸術工学特別演習11	講義・演習	2	2	
	芸術工学特別演習12	講義・演習	2	2	
	芸術工学特別演習13	講義・演習	2	2	
	芸術工学特別演習14	講義・演習	2	2	
	芸術工学特別演習15	講義・演習	2	2	
	芸術工学特別演習16	講義・演習	2	2	
	芸術工学特別演習17	講義・演習	2	2	
	芸術工学特別演習18	講義・演習	2	2	
	芸術工学特別演習19	講義・演習	2	2	
	芸術工学特別演習20	講義・演習	2	2	

(4) 音響設計学科

ア. 卒業時の教育達成目標

本学科では、人間、社会において広い視野を有し、音に対する芸術的感性と音響設計学に関する専門的知識を兼ね備え、総合的な設計能力を有する音響設計の専門家を養成するという教育目的を掲げています。そのために社会で求められている指導的役割を果たすにふさわしい教養と音響に関する基本的知識を、共に兼ね備えた人材の育成を目指し、音文化学、音響環境学、音響情報学の三つの分野の教育カリキュラムが用意されています。また、三つの分野は、言語、音楽、音デザイン、物理音響、音環境、音響情報処理、聴覚の七つの領域で構成されています。

音文化学では、音声言語の体系的理解と音楽の表現方法や歴史的理論的理解に基づき、音を介して人間の精神活動の成果を生み出す音声言語文化、音楽文化に関する高度な教育研究を行います。主な研究分野は、作曲、音楽系メディアアート、音楽生態論、音楽分析、音楽美学、音楽マネジメント論、接触比較言語学、福祉言語学などです。

音響環境学では、人間にとって最適な音環境を構成するために、人間的側面からの評価と物理的側面からの解析・予測・計測・制御を通して、各種の音環境を計画・設計することに関する高度な教育研究を行います。主な研究分野は、建築音響学、音場制御、音響心理学、サウンドスケープ、音質評価、非線形現象論などです。

音響情報学では、聴覚情報を獲得し、体制化する知覚、認知の仕組み、および音響情報の抽出・処理・記録・伝達を含む音響機器の最適化に関する高度な教育研究を行います。主な研究分野は、知覚心理学、聴覚認知論、聴覚医学、楽器音響学、音響情報工学、音声情報工学などです。

本学科の教育課程を修了した学生は、上記三つの分野、およびそれらを構成する七つの領域を総合的に学習し、さらにその総合力を背景として、七つの領域のうち、少なくとも一つの領域に関して専門的な水準に達していると評価されるような人材となることを目指します。

イ. 10～20年先の卒業生の将来像をイメージした教育目標

卒業生は、音響機器・測定機器、情報システム、通信・自動車関連産業、放送、音響エンジニアリング、ソフトウェア・ゲーム産業、騒音制御関係、建築音響、楽器製造、家電産業、医療関係、更には芸術分野、ホールマネジメント、大学教員など幅広い分野で活躍しており、その要請にこたえるユニークな総合教育を提供して

います。今後の社会において、いわゆる感性産業など、感性的な要素と工学的な要素の融合がますます求められ、重要性を増すことを見据えて、感性・工学双方の領域にわたる複合的に編成された本学科のカリキュラムの上に、高度な専門性を備えた設計家養成のための教育目標を掲げています。

ウ. 履修進行条件

3年次以降に開設される専攻教育科目及び卒業研究の着手条件については、「履修細目一覧（基幹教育科目）」、「専攻教育科目配当表」と次に示す履修条件等のとおりです。

なお、このことについては、各学科で学年の初めにガイダンスを行って説明をしますので、ガイダンスには必ず出席してください。

(ア) 3年次以降に開設される専攻教育科目の履修条件

3年次以降に開講される専攻教育科目を履修するためには、2年次終了までに44単位を、次の条件①と②の両方を満たすように修得しておかなければならない。

- ① 「履修細目一覧（基幹教育科目）」で示した卒業要件のうち、基幹教育科目について、基幹教育セミナー、課題協学科目、言語文化科目の言語文化基礎科目（注1）、文系ディシプリン科目、理系ディシプリン科目（注2）、サイバーセキュリティ科目、健康・スポーツ科目、総合科目の卒業要件単位を修得し、かつ、その他を2単位以上修得していること。

（注1）ただし、第1外国語については、卒業要件8単位のうち学術英語A・リセプション（1）、学術英語A・プロダクション（1）、学術英語B・インテグレート（各1）の4単位のみを算入する。

（注2）ただし、学科の卒業要件単位のうち、数理統計学以外の科目の単位のみを算入する。

- ② 1年次に開講する専攻教育科目の必修科目の単位を全て修得していること。

ただし、①および②の条件を満たせば、学年途中であっても3年次以降に開講される専攻教育科目を履修できる。

(イ) 卒業研究の着手条件

4年次前期から着手する卒業研究について、次のとおり定められています。

3年次終了の時点において次の条件①～③のすべてを満たしていること。

- ① 総修得単位数が106単位以上であること。
② 1年次から3年次終了までに修得しておかなければならない専攻教育科目の必修科目の全てを修得していること。
③ 基幹教育科目については、高年次基幹教育科目を除き、卒業に必要な単位のすべてを修得していること。

※ただし、上記②と③に関わる単位については、②と③合わせて4単位以内を未修得の場合は、卒業研究の着手を認めることがある。

Ⅱ. 卒業研究について

4年次になると、必修となっている卒業研究Ⅰ及び卒業研究Ⅱを履修することになります。

卒業研究Ⅰ・Ⅱは学科で定めた方法により、通常4年次前期から特定のテーマについて研究を行い、例年2月中旬に学科ごとに卒業研究発表会や卒業研究展を開催し、研究等の成果を発表することになっています。卒業研究は、卒業研究Ⅱが卒業研究Ⅰの単位修得を履修条件としているため、必ず卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱの順で修得していくことになります。

また、卒業研究Ⅰについては、学生交流協定校に留学する場合に限り、多様なメディアを高度に利用した（例えばWebカメラを利用した）遠隔講義によって本学部の指導教員から研究指導を受けることにより、留学中に当該科目を履修することができます。

先輩たちがどのような研究を行ってきたのか興味のある方は、クラス担任や学務課教務係にお尋ねください。

オ. 履修細目等

【音響設計学科】履修細目一覧（基幹教育科目）

薄灰色の枠は2年次以降の授業科目等を示す。

卒業要件単位数	科目区分	科目区分毎の最低修得単位数	授業科目 ※1 (科目名の右隣にある括弧付き数字は単位数)	
卒業要件 128単位	基幹教育 セミナー	1単位	【必修科目】基幹教育セミナー(1)	
	課題協学科目	2.5単位	【必修科目】課題協学科目(2.5)	
	基幹教育科目 48単位 〔1年次に 36.5単位 を修得〕	第1外国語 英語 8単位	言語文化 基礎科目	学術英語A 学術英語A・リセプション(1)、学術英語A・プロダクション(1) 学術英語A・CALL(1)
				学術英語B 学術英語B・インテグレート(各1) 学術英語B・CALL(1)
				学術英語C 学術英語C・集中演習(各2)
				専門英語 専門英語(各1)
		第2外国語 1カ国語選択 4単位	言語文化科目 ※2	ドイツ語 ドイツ語Ⅰ(各1)、ドイツ語Ⅱ(各1)、ドイツ語プラクティクムⅠ(1) ドイツ語Ⅲ(各1)、ドイツ語プラクティクムⅡ(1)
				フランス語 フランス語Ⅰ(各1)、フランス語Ⅱ(各1)、フランス語プラクティクⅠ(1) フランス語Ⅲ(各1)、フランス語プラクティクⅡ(1)
				中国語 中国語Ⅰ(各1)、中国語Ⅱ(各1)、中国語実践Ⅰ(1) 中国語Ⅲ(各1)、中国語実践Ⅱ(1)
				ロシア語 ロシア語Ⅰ(各1)、ロシア語Ⅱ(各1)、ロシア語フォーラム(1) ロシア語Ⅲ(各1)
				韓国語 韓国語Ⅰ(各1)、韓国語Ⅱ(各1)、韓国語フォーラム(1) 韓国語Ⅲ(各1)
				スペイン語 スペイン語Ⅰ(各1)、スペイン語Ⅱ(各1)、スペイン語フォーラム(1) スペイン語Ⅲ(各1)
	言語文化自由選択科目	言語文化 基礎科目	日本語 【外国人留学生対象科目】 日本語Ⅰ(1)、日本語Ⅱ(各1)、日本語Ⅲ(各1)、日本語Ⅳ(各1) 日本語Ⅴ(1)、日本語Ⅵ(1)、日本語Ⅶ(1)	
			言語文化自由選択科目 速習エスプラント、速習オランダ語以外は2年次以降に開講する。	
	言語文化古典語科目	言語文化 基礎科目	速習エスプラント、速習オランダ語以外は2年次以降に開講する。	
	文系ディシ プリン科目	4単位	【選択必修科目】以下の科目は1年次に開講する。 哲学・思想入門② 社会思想史② 先史学入門② 歴史学入門② 文学・言語学入門② 芸術学入門② 文化人類学入門② 地理学入門② 社会学入門② 心理学入門② 現代教育学入門① 教育基礎学入門① 法学入門② 政治学入門② 経済学入門② 経済学入門② The Law and Politics of International Society②	
			【必修科目①】以下の科目は1年次に開講する。 微分積分学・同演習A(1.5) 微分積分学・同演習B(1.5) 線形代数学・同演習A(1.5) 線形代数学・同演習B(1.5) 基幹物理学ⅠA(1.5) 基幹物理学ⅠA演習(1) 基幹物理学ⅠB(1.5) 基幹物理学ⅠB演習(1) 情報科学(1.5) 自然科学総合実験(基礎)(1) 自然科学総合実験(発展)(1)	
理系ディシ プリン科目	17単位	14.5単位	【必修科目②】以下の科目は2年次以降に開講する。 無機物質化学(1.5) 有機物質化学(1.5) 基礎化学総合論(1.5) 基礎化学熱力学(1.5) 細胞生物学(1.5) 推異 集団生物学(1.5) 地球と宇宙の科学(1) 地球科学(1) プログラミング演習(1)	
	1単位	1.5単位	【必修科目③】以下の科目は2年次以降に開講する。 数理統計学(1.5)	
	サイバーセキュ リティ科目	1単位	【必修科目】サイバーセキュリティ基礎論(1)	
健康・スポー ツ科目	1単位	【必修科目】健康・スポーツ科学演習(1)		
※5	総合科目	1.5単位	フロンティア科目 オープン科目	
	高年次基幹 教育科目	2単位 ※3		
	その他	6単位 (1年次) 2単位	言語文化科目、文系ディシプリン科目、理系ディシプリン科目、健康・スポーツ科目、総合科目 から修得する。 言語文化科目、文系ディシプリン科目、理系ディシプリン科目、健康・スポーツ科目、総合科目、 高年次基幹教育科目から修得(※4)	
専攻教育科目	80単位	【1年次】 聴能形成Ⅰ(1) 音文化論演習② 2年次以降の履修及び詳細は開設学期別・必修選択別専攻教育科目一覧表(32ページ) を参照		

- ※1 表中に記載されている科目以外にも開講される科目があるので、「平成30年度基幹教育履修要項」の「基幹教育科目開講一覧」を参照すること。
- ※2 第1・第2外国語の履修の詳細については「平成30年度基幹教育履修要項」を参照すること。
- ※3 高年次基幹教育科目は2年次以降に2単位以上修得すること。
- ※4 2年次以降において芸術工学部他学科、他学部の専攻教育科目を修得した場合は、「その他」の単位に含めることができる。
- ※5 総合科目、高年次基幹教育科目は、「平成30年度基幹教育履修要項」及びシラバスで授業概要等を確認し、履修計画を立てること。

【音響設計学科】専攻教育科目配当表

授 業 科 目	授業形態	単 位 数	必 修 指 定	毎 週 時 間 数								備 考	
				1年次		2年次		3年次		4年次			
				前	後	前	後	前	後	前	後		
音楽学	講 義	2	○					2					
応用音楽学	講 義	2	○						2				
音声学	講 義	2	○			2							
音楽社会学	講 義	2	◎		2								
サウンド・パフォーマンス	演 習	2	○			4							
西洋音楽史	講 義	2	◎		2								
比較音楽理論	講 義	2	○			2							
音文化論演習	演 習	2	◎	2									
室内音響学	講 義	2	○				2						
騒音環境学	講 義	2	○					2					
非線形振動論	講 義	2	○						2				
応用音響理論	講 義	2	○					2					
音響構成	講義・実習	4	○							6			
聴覚生理学	講 義	2	◎		2							◆	
聴覚心理学	講 義	2	◎			2							
聴覚認知論	講 義	2	○					2					
楽器・音響機器論	講 義	2	○					2					
音響信号処理演習	講義・演習	2	◎		2								
デジタル信号処理	講 義	2	◎			2							
デジタル信号処理演習	演 習	2	○				2						
音響情報工学	講 義	2	○					2					
音響情報工学演習	演 習	2	○						2				
応用時系列解析	講 義	2	○						2				◆(工業設計学科開設科目)
電気工学	講義・演習	2	◎		2								
電気実験	実 験	1	◎					4					
聴能形成Ⅰ	実 習	1	○	2									
聴能形成Ⅱ	実 習	1	○		2								
音響理論演習Ⅰ	講義・演習	3	◎		4								
音響理論演習Ⅱ	講義・演習	3	◎			4							
音楽理論表現演習	講義・演習	2	◎		6								
音楽構造基礎演習	講義・演習	2	◎			6							
音響実験Ⅰ	実 験	3	◎					6					
音響実験Ⅱ	実 験	3	◎						6				
輪講	演 習	2	◎							2			
プログラミング言語	演 習	2	○			2							
卒業研究Ⅰ	演 習	2	◎							4	4		
卒業研究Ⅱ	演 習	4	◎							8	8		
知覚心理学	講 義	2	○		2								
主観評価法	講義・演習	2	◎				2						
インターンシップ(学部)	講義・演習	2	○					2		2			
デザインストラテジー基礎	講義・演習	2	○						2				
電子工学	講義・演習	2	◎			2							
情報理論	講義・演習	2	○					2					
推測統計学	講 義	2	○					2					
システム工学	講義・演習	2	○						2				
設計多変量解析	講 義	2	○			2							◆(工業設計学科開設科目)

授 業 科 目	授業形態	単 位 数	必修 指定	毎 週 時 間 数								備 考
				1年次		2年次		3年次		4年次		
				前	後	前	後	前	後	前	後	
芸術工学特別演習 1	講義・演習	1	学 部 内 自 由 科 目	1	1	1	1	1	1	1	1	
芸術工学特別演習 2	講義・演習	1		1	1	1	1	1	1	1	1	
芸術工学特別演習 3	講義・演習	1		1	1	1	1	1	1	1	1	
芸術工学特別演習 4	講義・演習	1		1	1	1	1	1	1	1	1	
芸術工学特別演習 5	講義・演習	1		1	1	1	1	1	1	1	1	
芸術工学特別演習 6	講義・演習	1		1	1	1	1	1	1	1	1	
芸術工学特別演習 7	講義・演習	1		1	1	1	1	1	1	1	1	
芸術工学特別演習 8	講義・演習	1		1	1	1	1	1	1	1	1	
芸術工学特別演習 9	講義・演習	1		1	1	1	1	1	1	1	1	
芸術工学特別演習10	講義・演習	1		1	1	1	1	1	1	1	1	
芸術工学特別演習11	講義・演習	2		2	2	2	2	2	2	2	2	
芸術工学特別演習12	講義・演習	2		2	2	2	2	2	2	2	2	
芸術工学特別演習13	講義・演習	2		2	2	2	2	2	2	2	2	
芸術工学特別演習14	講義・演習	2		2	2	2	2	2	2	2	2	
芸術工学特別演習15	講義・演習	2		2	2	2	2	2	2	2	2	
芸術工学特別演習16	講義・演習	2		2	2	2	2	2	2	2	2	
芸術工学特別演習17	講義・演習	2		2	2	2	2	2	2	2	2	
芸術工学特別演習18	講義・演習	2		2	2	2	2	2	2	2	2	
芸術工学特別演習19	講義・演習	2		2	2	2	2	2	2	2	2	
芸術工学特別演習20	講義・演習	2		2	2	2	2	2	2	2	2	

注1) 「必修指定」の欄中◎は必修科目、○は選択科目であることを示す。
注2) 備考欄の◆印は、学科間共通教育科目を示す。
注3) 卒業研究Ⅱの履修については、卒業研究Ⅰの単位修得を条件とする。

【音響設計学科】開設学期別・必修選択別専攻教育科目一覧表

授業科目		授業形態	単位数	時間数	必修指定	
1年前期	聴能形成Ⅰ	実習	1	2	○	
	音文化論演習	演習	2	2	◎	
1年後期	聴能形成Ⅱ	実習	1	2	○	
	知覚心理学	講義	2	2	○	
2年前期	西洋音楽史	講義	2	2	◎	
	音楽社会学	講義	2	2	◎	
	聴覚生理学	講義	2	2	◎	
	音響信号処理演習	講義・演習	2	2	◎	
	電気工学	講義・演習	2	2	◎	
	音響理論演習Ⅰ	講義・演習	3	4	◎	
	音楽理論表現演習	講義・演習	2	6	◎	
	2年後期	音声学	講義	2	2	○
比較音楽理論	講義	2	2	○		
プログラミング言語	演習	2	2	○		
設計多変量解析	講義	2	2	○		
サウンド・パフォーマンス	演習	2	4	○		
聴覚心理学	講義	2	2	◎		
デジタル信号処理	講義	2	2	◎		
電子工学	講義・演習	2	2	◎		
音響理論演習Ⅱ	講義・演習	3	4	◎		
音楽構造基礎演習	講義・演習	2	6	◎		
3年前期	音楽学	講義	2	2	○	
	室内音響学	講義	2	2	○	
	応用音響理論	講義	2	2	○	
	聴覚認知論	講義	2	2	○	
	楽器・音響機器論	講義	2	2	○	
	デジタル信号処理演習	演習	2	2	○	
	音響情報工学	講義	2	2	○	
	情報理論	講義・演習	2	2	○	
	推測統計学	講義	2	2	○	
	主観評価法	講義・演習	2	2	◎	
	電気実験	実験	1	4	◎	
	音響実験Ⅰ	実験	3	6	◎	
	3年後期	応用音楽学	講義	2	2	○
	騒音環境学	講義	2	2	○	
非線形振動論	講義	2	2	○		
音響情報工学演習	演習	2	2	○		
応用時系列解析	講義	2	2	○		
システム工学	講義・演習	2	2	○		
音響実験Ⅱ	実験	3	6	◎		

授業科目		授業形態	単位数	時間数	必修指定
3.4年	インターンシップ(学部)	講義・演習	2	2	○
	デザインストラテジー基礎	講義・演習	2	2	○
4年前期	音響構成	講義・実習	4	6	○
	輪講	演習	2	2	◎
	卒業研究Ⅰ	演習	2	4	◎
4年後期	卒業研究Ⅱ	演習	4	8	◎
	卒業研究Ⅰ	演習	2	4	◎
全学年前期・後期	卒業研究Ⅱ	演習	4	8	◎
	芸術工学特別演習 1	講義・演習	1	1	学部内自由科目
	芸術工学特別演習 2	講義・演習	1	1	
	芸術工学特別演習 3	講義・演習	1	1	
	芸術工学特別演習 4	講義・演習	1	1	
	芸術工学特別演習 5	講義・演習	1	1	
	芸術工学特別演習 6	講義・演習	1	1	
	芸術工学特別演習 7	講義・演習	1	1	
	芸術工学特別演習 8	講義・演習	1	1	
	芸術工学特別演習 9	講義・演習	1	1	
	芸術工学特別演習 10	講義・演習	1	1	
	芸術工学特別演習 11	講義・演習	2	2	
	芸術工学特別演習 12	講義・演習	2	2	
	芸術工学特別演習 13	講義・演習	2	2	
	芸術工学特別演習 14	講義・演習	2	2	
	芸術工学特別演習 15	講義・演習	2	2	
	芸術工学特別演習 16	講義・演習	2	2	
	芸術工学特別演習 17	講義・演習	2	2	
	芸術工学特別演習 18	講義・演習	2	2	
	芸術工学特別演習 19	講義・演習	2	2	
芸術工学特別演習 20	講義・演習	2	2		

(5) 芸術情報設計学科

ア. 卒業時の教育達成目標

芸術情報設計学科では、芸術や文化について理解を深め、コミュニケーションの形成に関する専門知識をもち、社会に新たな価値を創出することのできる総合力と企画力を備えたメディア環境の設計家を養成することを教育目標としています。

そのため、芸術・文化、コミュニケーション、情報通信、数理造形、コンピュータや情報デザイン関連の授業科目を開設するとともに、創造力を養うために感性と表現を重視した教育を行っています。また、全教員が参加する各種プロジェクト演習を通じて、独創的で人間性に富み、かつ論理的な課題解決案を提案できる実践的な能力の育成に取り組んでいます。

本学科の教育課程を修了した学生は、次のような能力を備えていると評価されることを目指しています。

- ① 芸術・文化を理解し、時代の要求を的確に企画・演出する基本的な能力
- ② 創造性に富み、人間性豊かなメディア環境を設計・計画する基本的な能力
- ③ 高度情報通信社会に応用できる数理工学分野の基本的な能力

卒業生は、次のような幅広い分野で活躍することが期待されており、すでに実績を上げています。

- ① 高度情報通信機能を備えた社会システムや生活システムの総合デザイン
- ② 演劇、音楽、スポーツなどイベントの企画・演出
- ③ 通信事業におけるマルチメディア・コミュニケーションデザイン
- ④ コンピュータ、情報家電メーカーのインタフェースデザイン
- ⑤ マスメディア、インターネット、電子出版、官公庁等における企画・演出
- ⑥ 博物館、美術館、文化会館等の企画・展示

イ. 10～20年先の卒業生の将来像をイメージした教育目標

芸術情報設計学科では、現在の高度情報通信網を基盤とする社会がより発展することを見据えて、人間とメディアの関係を調整し、人間や時代の要求をよりの確に企画・演出できる創造性豊かなメディア環境の設計家を育成する必要があると考えています。そのため、芸術的感性を養うことはもとより、情報倫理に通じ、より高度なコンピュータリテラシー、マルチメディア表現、情報の数理・工学的取り扱いを高める教育課程を整備・充実させ、エンタテインメント、マスメディア、デジタルアーカイブ、インターネット、情報家電等の分野、企業や大学などの研究機関、情報リテラシー教育の分野で活躍し、時代の牽引者となることのできる人材養成をめざします。

ウ. 履修進行条件

3年次以降に開設される専攻教育科目及び卒業研究の着手条件については、「履修細目一覧（基幹教育科目）」、「専攻教育科目配当表」と次に示す履修条件等のとおりです。

なお、このことについては、各学科で学年の初めにガイダンスを行って説明をしますので、ガイダンスには必ず出席してください。

(ア) 3年次以降に開設される専攻教育科目の履修条件

3年次以降に開講される専攻教育科目を履修するためには、2年次終了までに44単位を、次の条件①と②の両方を満たすように修得しておかなければならない。

① 「履修細目一覧（基幹教育科目）」で示した卒業要件のうち、基幹教育科目について、基幹教育セミナー、課題協学科目、言語文化科目の言語文化基礎科目（注1）、文系ディシプリン科目、理系ディシプリン科目（注2）、サイバーセキュリティ科目、健康・スポーツ科目、総合科目の卒業要件単位を修得し、かつ、その他を2単位以上修得していること。

（注1）ただし、第1外国語については、卒業要件8単位のうち学術英語A・リセプション（1）、学術英語A・プロダクション（1）、学術英語B・インテグレート（各1）の4単位のみを算入する。

（注2）ただし、学科の卒業要件単位のうち、数理統計学、デザイン史以外の科目の単位のみを算入する。

② 1年次に開講する専攻教育科目の必修科目の単位を全て修得していること。

ただし、①および②の条件を満たせば、学年途中であっても3年次以降に開講される専攻教育科目を履修できる。

(イ) 卒業研究の着手条件

4年次前期から着手する卒業研究について、次のとおり定められています。

3年次終了の時点において次の条件①と②の両方を満たしていること。

① 総修得単位数が104単位以上であること。

② 1年次から3年次終了までに開設されている基幹教育科目（高年次基幹教育科目を除く）及び専攻教育科目の必修科目の全てを修得していること。

※ただし、上記②において必修科目4単位以内を未修得の場合は、上記①において114単位以上を修得しておくこと。

エ. 卒業研究について

4年次になると、必修となっている卒業研究Ⅰ及び卒業研究Ⅱを履修することになります。

卒業研究Ⅰ・Ⅱは学科で定めた方法により、通常4年次前期から特定のテーマに

ついて研究を行い、例年2月中旬に学科ごとに卒業研究発表会や卒業研究展を開催し、研究等の成果を発表することになっています。卒業研究は、卒業研究Ⅱが卒業研究Ⅰの単位修得を履修条件としているため、必ず卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱの順で修得していくことになります。

また、卒業研究Ⅰについては、学生交流協定校に留学する場合に限り、多様なメディアを高度に利用した（例えばWebカメラを利用した）遠隔講義によって本学部の指導教員から研究指導を受けることにより、留学中に当該科目を履修することができます。

先輩たちがどのような研究を行ってきたのか興味のある方は、クラス担任や学務課教務係にお尋ねください。

オ. 履修細目等

【芸術情報設計学科】履修細目一覧（基幹教育科目） 薄灰色の枠は2年次以降の授業科目等を示す。

卒業要件単位数		科目区分	科目区分毎の最低修得単位数	授業科目 ※1 (科目名の右側にある括弧付き数字は単位数)		
卒業要件 128単位	基幹教育科目 48単位 〔1年次に36.5単位を修得〕	基幹教育セミナー	1単位	【必修科目】基幹教育セミナー(1)		
		課題協同学科目	2.5単位	【必修科目】課題協同学科目(2.5)		
		第1外国語 英語 8単位	言語文化科目 ※2	言語文化基礎科目	学術英語A	学術英語A・リセプション(1)、学術英語A・プロダクション(1) 学術英語A・CALL(1)
					学術英語B	学術英語B・インテグレート(各1) 学術英語B・CALL(1)
					学術英語C	学術英語C・集中演習(各2)
					専門英語	専門英語(各1)
					ドイツ語	ドイツ語Ⅰ(各1)、ドイツ語Ⅱ(各1)、ドイツ語プラクティクムⅠ(1) ドイツ語Ⅲ(各1)、ドイツ語プラクティクムⅡ(1)
			フランス語	フランス語Ⅰ(各1)、フランス語Ⅱ(各1)、フランス語プラクティクⅠ(1) フランス語Ⅲ(各1)、フランス語プラクティクⅡ(1)		
			中国語	中国語Ⅰ(各1)、中国語Ⅱ(各1)、中国語実践Ⅰ(1) 中国語Ⅲ(各1)、中国語実践Ⅱ(1)		
			ロシア語	ロシア語Ⅰ(各1)、ロシア語Ⅱ(各1)、ロシア語フォーラム(1) ロシア語Ⅲ(各1)		
			韓国語	韓国語Ⅰ(各1)、韓国語Ⅱ(各1)、韓国語フォーラム(1) 韓国語Ⅲ(各1)		
			スペイン語	スペイン語Ⅰ(各1)、スペイン語Ⅱ(各1)、スペイン語フォーラム(1) スペイン語Ⅲ(各1)		
		日本語	【外国人留学生対象科目】 日本語Ⅰ(1)、日本語Ⅱ(各1)、日本語Ⅲ(各1)、日本語Ⅳ(各1) 日本語Ⅴ(1)、日本語Ⅵ(1)、日本語Ⅶ(1)			
			言語文化自由選択科目	速習エスプレント、速習オランダ語以外は2年次以降に開講する。		
			言語文化古典語科目			
文系ディシプリン科目	4単位	【選択必修科目】以下の科目は1年次に開講する。 哲学・思想入門② 社会思想史② 先史学入門② 歴史学入門② 文学・言語学入門② 芸術学入門② 文化人類学入門② 地理学入門② 社会学入門② 心理学入門② 現代教育学入門① 教育基礎学入門① 法学入門② 政治学入門② 経済学入門② 経済学入門② The Law and Politics of International Society②				
理系ディシプリン科目	17.5単位	9.5単位	【必修科目①】以下の科目は1年次に開講する。 微分積分学・同演習A(1.5) 微分積分学・同演習B(1.5) 線形代数学・同演習A(1.5) 線形代数学・同演習B(1.5) 情報科学(1.5) 自然科学総合実験(基礎)① 自然科学総合実験(発展)①			
		4.5単位	【選択必修科目】以下の科目は1年次に開講する。 基幹物理学ⅠA(1.5) 基幹物理学ⅠA演習(1) 基幹物理学ⅠB(1.5) 基幹物理学ⅠB演習(1) 基礎化学熱力学(1.5) 基礎生物学概要(1.5) 集団生物学(1.5) デザイン思考① 推奨			
		3.5単位	【必修科目②】以下の科目は2年次以降に開講する。 数理統計学(1.5) デザイン史②			
サイバーセキュリティ科目	1単位	【必修科目】サイバーセキュリティ基礎論(1)				
健康・スポーツ科目	1単位	【必修科目】健康・スポーツ科学演習(1)				
※5	総合科目	1.5単位	フロンティア科目 オープン科目			
	高年次基幹教育科目	2単位 ※3				
	その他	5.5単位	(1年次)3.5単位 言語文化科目、文系ディシプリン科目、理系ディシプリン科目、健康・スポーツ科目、総合科目から修得する。 言語文化科目、文系ディシプリン科目、理系ディシプリン科目、健康・スポーツ科目、総合科目、高年次基幹教育科目から修得(※4)			
専攻教育科目	80単位	【1年次】 芸術情報設計概論② コンピュータ概論② 2年次以降の履修及び詳細は開設学期別・必修選択別専攻教育科目一覧表(39ページ)を参照				

- ※1 表中に記載されている科目以外にも開講される科目があるので、「平成30年度基幹教育履修要項」の「基幹教育科目開講一覧」を参照すること。
- ※2 第1・第2外国語の履修の詳細については「平成30年度基幹教育履修要項」を参照すること。
- ※3 高年次基幹教育科目は2年次以降に2単位以上修得すること。
- ※4 2年次以降において芸術工学部他学科・他学部専攻教育科目を修得した場合は、「その他」の単位に含めることができる。
- ※5 総合科目、高年次基幹教育科目は、「平成30年度基幹教育履修要項」及びシラバスで授業概要等を確認し、履修計画を立てること。

【芸術情報設計学科】専攻教育科目配当表

授 業 科 目	授業形態	単 位 数	必 修 指 定	毎 週 時 間 数				備 考				
				1年次		2年次			3年次		4年次	
				前	後	前	後		前	後	前	後
造形論	講義・演習	2	※1					2				
芸術学概論	講義	2	※1			2						
基礎造形（平面）	演習	2	◎			4						
基礎造形（立体）	演習	2	◎				4					◆
文化比較論	講義	2	※1			2						
演劇文化論	講義	2	※1				2					
比較映画・演劇文化演習	講義・演習	2	○					4				
芸術文化環境論	講義	2	※1			2						◆
フィールドワーク演習	講義・演習	2	○						4			
芸術文化施設論	講義	2	※1					2				
知的財産論	講義	2	※1					2				◆
画像論	講義	2	○						2			◆(画像設計学科開設科目)
デジタルコンテンツデザイン	講義・演習	2	※1			4						
デジタルコンテンツデザイン演習	演習	2	○					4				
コンピュータグラフィックス	講義	2	※1			2						
コンピュータグラフィックス演習	演習	2	○					4				
コンテンツ環境デザイン	講義	2	※1				2					
Webコンテンツデザイン演習	演習	2	○					4				
インタラクションデザイン	講義	2	※1				2					◆
インタラクティブインターフェース演習	演習	2	○						4			
バーチャルリアリティ	講義	2	※1					2				
メディアアート表現ワークショップ	演習	2	○					4				
コンピュータ概論	講義	2	◎		2							
プログラミング基礎	講義・演習	2	◎			4						
ソフトウェアアーキテクチャ	講義	2	※1					2				
メディア情報処理	講義	2	※1					2				
色彩学	講義	2	○						2			◆(画像設計学科開設科目)
知覚心理学	講義	2	○			2						
知覚情報処理工学	講義	2	※1						2			
人工生命デザイン	講義	2	※1					2				
機械学習	講義	2	※1						2			
統計・データ科学	講義	2	※1					2				
主観評価法	講義・演習	2	○					2				
設計多変量解析	講義	2	○				2					◆(工業設計学科開設科目)
応用時系列解析	講義	2	○						2			◆(工業設計学科開設科目)
芸術情報設計概論	講義・演習	2	◎	2								
芸術情報先端特別講義	講義	2	○			2						
芸術情報プロジェクト演習	演習	2	○					2				
芸術情報総合演習	演習	2	◎						2			
卒業研究Ⅰ	演習	2	◎						4	4		
卒業研究Ⅱ	演習	4	◎						8	8		
インターンシップ(学部)	講義・演習	2	○					2		2		
デザインストラテジー基礎	講義・演習	2	○							2		

授 業 科 目	授業形態	単 位 数	必修 指定	毎 週 時 間 数								備 考		
				1年次		2年次		3年次		4年次				
				前	後	前	後	前	後	前	後			
芸術工学特別演習 1	講義・演習	1	学 部 内 自 由 科 目	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
芸術工学特別演習 2	講義・演習	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
芸術工学特別演習 3	講義・演習	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
芸術工学特別演習 4	講義・演習	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
芸術工学特別演習 5	講義・演習	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
芸術工学特別演習 6	講義・演習	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
芸術工学特別演習 7	講義・演習	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
芸術工学特別演習 8	講義・演習	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
芸術工学特別演習 9	講義・演習	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
芸術工学特別演習10	講義・演習	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
芸術工学特別演習11	講義・演習	2		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
芸術工学特別演習12	講義・演習	2		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
芸術工学特別演習13	講義・演習	2		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
芸術工学特別演習14	講義・演習	2		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
芸術工学特別演習15	講義・演習	2		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
芸術工学特別演習16	講義・演習	2		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
芸術工学特別演習17	講義・演習	2		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
芸術工学特別演習18	講義・演習	2		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
芸術工学特別演習19	講義・演習	2		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
芸術工学特別演習20	講義・演習	2		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	

注1) 「必修指定」の欄中◎は必修科目，※1は選択必修科目，○は選択科目であることを示す。
 選択必修科目は※1の科目から20単位修得しなければならない。
 注2) 備考欄の◆印は、学科間共通教育科目を示す。
 注3) 卒業研究Ⅱの履修については、卒業研究Ⅰの単位修得を条件とする。

【芸術情報設計学科】開設学期別・必修選択別専攻教育科目一覧表

	授 業 科 目	授業形態	単 位 数	時 間 数	必 修 指 定
1 年 前 期	芸術情報設計概論	講義・演習	2	2	◎
	コンピュータ概論	講 義	2	2	◎
2 年 前 期	知覚心理学	講 義	2	2	○
	基礎造形（平面）	演 習	2	4	◎
	プログラミング基礎	講義・演習	2	4	◎
	芸術学概論	講 義	2	2	※1
	文化比較論	講 義	2	2	※1
	芸術文化環境論	講 義	2	2	※1
	コンピュータグラフィックス	講 義	2	2	※1
2 年 後 期	デジタルコンテンツデザイン	講義・演習	2	4	※1
	設計多変量解析	講 義	2	2	○
	芸術情報先端特別講義	講 義	2	2	○
	デジタルコンテンツデザイン演習	演 習	2	4	○
	コンピュータグラフィックス演習	演 習	2	4	○
	基礎造形（立体）	演 習	2	4	◎
	演劇文化論	講 義	2	2	※1
	コンテンツ環境デザイン	講 義	2	2	※1
	インタラクションデザイン	講 義	2	2	※1
	メディアアート表現ワークショップ	演 習	2	4	○
3 年 前 期	ソフトウェアアーキテクチャ	講 義	2	2	※1
	知的財産論	講 義	2	2	※1
	メディア情報処理	講 義	2	2	※1
	人工生命デザイン	講 義	2	2	※1
	主観評価法	講義・演習	2	2	○
	芸術情報プロジェクト演習	演 習	2	2	○
	比較映画・演劇文化演習	講義・演習	2	4	○
	Webコンテンツデザイン演習	演 習	2	4	○
	バーチャルリアリティ	講 義	2	2	※1
	統計・データ科学	講 義	2	2	※1
3 年 後 期	画像論	講 義	2	2	○
	色彩学	講 義	2	2	○
	フィールドワーク演習	講義・演習	2	4	○
	芸術情報総合演習	演 習	2	2	◎
	造形論	講義・演習	2	2	※1
	芸術文化施設論	講 義	2	2	※1
	インタラクティブインターフェース演習	演 習	2	4	○
	知覚情報処理工学	講 義	2	2	※1
	機械学習	講 義	2	2	※1
	応用時系列解析	講 義	2	2	○

	授 業 科 目	授業形態	単 位 数	時 間 数	必 修 指 定
3.4年	インターンシップ（学部）	講義・演習	2	2	○
	デザインストラテジー基礎	講義・演習	2	2	○
4 年 前 期	卒業研究Ⅰ	演 習	2	4	◎
	卒業研究Ⅱ	演 習	4	8	◎
4 年 後 期	卒業研究Ⅰ	演 習	2	4	◎
	卒業研究Ⅱ	演 習	4	8	◎
全 学 年 前 期 ・ 後 期	芸術工学特別演習 1	講義・演習	1	1	学 部 内 自 由 科 目
	芸術工学特別演習 2	講義・演習	1	1	
	芸術工学特別演習 3	講義・演習	1	1	
	芸術工学特別演習 4	講義・演習	1	1	
	芸術工学特別演習 5	講義・演習	1	1	
	芸術工学特別演習 6	講義・演習	1	1	
	芸術工学特別演習 7	講義・演習	1	1	
	芸術工学特別演習 8	講義・演習	1	1	
	芸術工学特別演習 9	講義・演習	1	1	
	芸術工学特別演習10	講義・演習	1	1	
	芸術工学特別演習11	講義・演習	2	2	
	芸術工学特別演習12	講義・演習	2	2	
	芸術工学特別演習13	講義・演習	2	2	
	芸術工学特別演習14	講義・演習	2	2	
	芸術工学特別演習15	講義・演習	2	2	
	芸術工学特別演習16	講義・演習	2	2	
	芸術工学特別演習17	講義・演習	2	2	
	芸術工学特別演習18	講義・演習	2	2	
	芸術工学特別演習19	講義・演習	2	2	
	芸術工学特別演習20	講義・演習	2	2	

4. 授業科目の履修について

(1) 授業時間割について

年度当初に『授業時間割』を学務課教務係で配布します（芸術工学部HPにも掲示）。学期の途中で時間割の変更（例えば、開講時限や教室の変更）を行う場合は、学務課掲示板でお知らせしますので注意してください。掲示板の場所は53ページをご覧ください。

集中講義（土日や夏季・冬季休業中に集中的に行う授業）の多くは、学期途中で実施日時・場所が決定します。決定次第、学務課掲示板に掲示しますので、特に注意してください。

時 限		1	2	3	4	5
授 業 時 間	開 始	8 : 40	10 : 30	13 : 00	14 : 50	16 : 40
	終 了	10 : 10	12 : 00	14 : 30	16 : 20	18 : 10

芸術工学部HP <http://www.design.kyushu-u.ac.jp>
→「学生向け情報」→「教務関係」→「時間割」



(2) 授業日程について

『授業日程』を学務課掲示板及び芸術工学部ホームページに掲示しています。授業開始・終了日、夏季・冬季休業期間、曜日を振り替えて授業を行う日を掲載しています。

芸術工学部HP <http://www.design.kyushu-u.ac.jp>
→「学生向け情報」→「教務関係」→「学年暦・授業日程」



(3) 履修登録について

- ① 授業を履修する場合は、入学時に配付する『学務情報システムの利用の手引き』により、学務課掲示板に示された履修登録期間に学生ポータルシステムにて履修登録を行ってください。集中講義も履修登録期間中に登録してください。
- ② 年度当初に履修解説（ガイダンス）を行い、新年度の履修に関する注意事項を連絡しますので必ず出席してください。

(4) 履修登録上の注意事項

履修登録を行う学生は次のことに注意してください。

- ① 授業時間割上、同一時間帯に開設される授業科目については、重複して履修

登録することはできない。

- ② 履修修正期間終了後に履修登録を変更することは、原則、認められない。
- ③ 履修登録しても実際には履修しなかった授業の成績は不合格となり、その成績もGPAに算入される。本学部の専攻教育科目の履修を中止する場合は、履修登録確認期間に芸術工学部学務課教務係へ申し出ること。この期間に履修中止ができなかった場合は各学期終了の2週間前から履修中止を芸術工学部学務課教務係に申し出ること。
- ④ 科目区分ごとに定められた必要修得単位数に留意した上で、履修登録は学生自身が立てた履修計画に基づき、自己の責任において登録を行うこと。
- ⑤ 学習時間を確保し、適正な単位認定を受けるために、年間44単位を修得することを目途とし、登録した科目の履修に努めること。44単位以上履修登録を行うことを希望する場合は、本学部の特色と理念を踏まえてこれを認める。ただし、履修が不可能と思われる科目数を過剰に履修登録した者に対しては、履修指導を行うことがある。

(5) 自然災害等による休講等の措置について

芸術工学部では、台風・積雪及び地震等による休講等の措置について必要な事項を定めています。

芸術工学部HP <http://www.design.kyushu-u.ac.jp>

→「学生向け情報」→「教務関係」→「自然災害等による休講等」



(6) 授業や定期試験等における欠席について

授業や定期試験などの出欠状況は、各授業科目の担当教員が確認・管理し、成績評価に反映しますので、次のことに注意してください。

欠席届は学務課教務係で配布しています。また、芸術工学部HPにも掲載しています。

芸術工学部HP <http://www.design.kyushu-u.ac.jp>

→「学生向け情報」→「教務関係」→「公認欠席」



- ① やむを得ない理由で欠席や遅刻をした場合は、その旨を授業科目の担当教員へ直接連絡してください。
- ② 以下の理由により授業等を欠席する場合は、公認欠席として認められます。
 - i) 新型インフルエンザなどの感染症（学校保健安全法施行規則第18条に規定する感染症）にかかった場合
 - ii) 新型インフルエンザなどの感染症にかかったおそれがあり、大学から出校停止を指示された場合

- iii) 裁判員候補者として裁判所に出向く場合及び裁判員として職務に従事する場合
- iv) 2親等以内の親族が死亡した場合（原則として最長1週間とする）
- v) 天災・交通機関の障害による場合

必要に応じて提出してもらう書類がありますので、詳しくは学務課教務係で確認してください。なお、上記以外の理由の場合は公認欠席として認められません。

公認欠席の取扱いとしては、授業については欠席扱いになりませんが、担当教員の指示により、補講への出席やレポート等の提出が求められることがあります。また、試験を受けられなかった場合には、担当教員の指示する方法により、追試験が行われますので、ご注意ください。

公認欠席と認められるためには「欠席届」の提出が必要です。

- ③ インフルエンザ等の感染症にかかった場合は、以下の手続きにより公認欠席が認められますので、必ず下記手順に従って手続きをしてください。
 - i) インフルエンザにかかったと思ったら、必ず医療機関で診断を受けてください。
 - ii) インフルエンザと診断されたら、必ず学務課教務係（092-553-4460）に連絡してください。
 - iii) 解熱後48時間以降に、学務課教務係で公認欠席の手続きをしてください。
公認欠席の申請には「欠席届」が必要です。
- ④ 定期試験における欠席（公認欠席の場合を除く）の場合、定期試験の開始時刻までに学務課教務係（092-553-4418）へ連絡のあった学生については、関係する試験科目等の担当教員へ学務課教務係から連絡を行います。試験後については学生が直接担当教員へ連絡を行ってください。

(7) 特定授業科目の前提条件

専攻教育科目の履修に当たって、事前に修得しておくことを前提とする関連授業科目（基幹教育科目を含む）を次のとおり指定しますので、注意してください。

単位を修得しておく 関連授業科目 履修しようとする 専攻教育科目	基幹教育科目	専攻教育科目	
	基幹物理学 I A 基幹物理学 I A 演習 基幹物理学 I B 演習	電気工学	電子工学
電気工学	○		
電子工学	○	○	
電気実験	○	◎	◎

(注) ◎印は、単位修得を前提とする科目

○印は、履修していることが望ましい科目

[ただし、電気実験に関しては、電気工学または電子工学の単位を修得しておくこと。]

(8) 授業計画書（シラバス）の活用

授業計画書（シラバス）は、授業科目の目標、授業の概要、授業計画、使用するテキスト、成績評価基準等について、あらかじめ学生の皆さんに紹介することを目的として作成されたものです。本学部ホームページに公開しているので、履修登録に当たってよく読んで理解し、計画的で効果的な学習を進めてください。

シラバスは、原則として年度の初めに作成して公開しますが、授業科目の担当教員の判断によって、学期の途中で内容が変更されることもありますので、注意してください。シラバスに関して不明な点は、学務課教務係へお問い合わせください。

芸術工学部HP <http://www.design.kyushu-u.ac.jp>

→「学生向け情報」→「教務関係」→「シラバス」



(9) 試験について

試験は、定期試験及び定期試験実施後に行う追試験並びに口頭試験があります。

定期試験は、授業科目の学習達成度を評価することを目的として、各授業期間末の定められた期間に実施します。

追試験は、疾病その他のやむを得ない事情により定期試験を受験できなかった学生に対して行う試験です。追試験は、当該授業科目の担当教員の判断により行いますので、追試験の受験を希望する学生は、速やかに担当教員へ申し出てください。

口頭試験は、学科ごとに高年次学生（原則として3年次学生）を対象として実施されるもので、詳細については後述（46ページ）します。

定期試験と追試験は、筆記試験により行います。ただし、授業科目によっては、作品、レポート、小テスト等の審査をもってこれに代えることがありますので、担当教員の指示に従ってください。

(10) 定期試験における受験上の注意について

試験を受験する場合は、次の受験上の注意を遵守してください。

[受験上の注意]

芸術工学部で開設されている授業科目の定期試験等（筆記試験に限る。）を受験する時は、次の事項を遵守しなければならない。

- ① 学生証を持参すること。受験中は、机上に提示しておくこと。
- ② 試験期間中に学生証を紛失したり、忘れたりした者は、受験前に学務課教務係へ連絡し、学生証不携帯届を発行してもらうこと。
- ③ 試験場では監督者の指示に従うこと。
- ④ 試験開始後20分を経過してからの試験場への入室は認めない。また、試験開始後20分を経過しないうちに試験場から退室することは認めない。

- ⑤ 学期の初めに履修登録を行っていない科目は受験できない。
- ⑥ 不正行為は絶対に行ってはならない。定期試験等における不正行為者に対する処分等については、関係規則に従って退学を含め厳格に対処する。

(11) 成績評価及び修得単位の確認について

授業科目の成績は、シラバスに記載された成績評価基準により、試験の結果及び平素の学修状態等を総合して評価されます。

卒業要件や履修進行の条件等を確認するために、自らの責任で単位修得の確認を行い、常に自分自身の履修状況を認識しておくようにしてください。

不明な点は、クラス担任や学務課教務係職員に気軽に相談してください。

特に、編入学生や既修得単位の認定を受けた学生、留学した学生などは、修得単位に誤りがないか、よく確認する必要がありますので、留意してください。

(12) 成績確認期間について

芸術工学部では、定期試験終了後に成績確認期間を設けています。当該学期で履修した科目の成績についての問い合わせは、この期間に科目の担当教員へ申し出てください。この期間終了後の申し出には一切応じられませんので、注意してください。

具体的な期間については、4月に行われる各学年のガイダンスで説明がありますので、ガイダンスの際に確認してください。

(13) GPA (Grade Point Average) 制度について

GPA制度は、外国の多くの大学が採用している制度であり、国際的な成績評価システムです。GPAとは成績評価を5段階(A・B・C・D・F)とし、それぞれを4~0までのGP(Grade Point)に置き換えて単位数を掛け、その合計を履修登録単位数の合計で割った平均点です。GPAにより、学生自らが学業成績の状況を的確に把握することで、適切な履修計画を立て、履修登録した科目を自主的に意欲的に学修することが期待されます。

① 成績等の表示

評 語			GP
A	Excellent	基準を大きく超えて優秀である	4
B	Good	基準を超えて優秀である	3
C	Satisfactory	望ましい基準に達している	2
D	Pass	単位を認める最低限の基準には達している	1
F	Fail	基準を大きく下回る	0
W	Withdrawal	履修中止	—
R	Recognition	認定科目	—

② GPAの算出方法

$$\text{GPA} = \frac{(\text{Grade Point} \times \text{単位数}) \text{の総和}}{\text{履修登録単位数}}$$

(GPA算出例)

科目名	成績	単位数 (a)	GP (b)	(a × b)
〇〇基礎	A	2単位	4	8
△△基礎	B	2単位	3	6
□□基礎	C	2単位	2	4
××演習	D	1単位	1	1
××演習	F	1単位	0	0
計		8単位		19

$$\text{GPA} = 19 \div 8 \text{ 単位} = \underline{2.38}$$

③ GPA対象外科目

- ・ 評点を付さずに「合・否」等で評価する科目（合否判定科目等）
- ・ 本学以外で修得した科目を単位として認めたもの
- ・ 「インターンシップ (学部)」(全学科)
- ・ 「卒業研究 I, II」(全学科)

④ GPAに関する注意事項

科目の評価が「F」あるいは「D」である場合に再履修することができます。その場合の評価（GP）は再履修によって得た評価に置き換え、GPAに算入します。

履修を途中で「放棄」した場合には、不合格「F」の評価となり、GPAの値に反映されます。就職時に企業等に提出することになる「成績証明書」には「W」（履修中止）以外の全ての評価を記載します。（「F」（不合格）も記載します。）

(14) インターンシップについて

インターンシップとは、自らの専門分野における高度な知識・技術に触れながら、将来のキャリアに関連した実務能力を高め、さらに自己職業適性や将来設計について考えるために、企業、行政機関、公益法人等の団体などにおいて実習・研修的な就業体験を行うものです。

インターンシップによる単位認定を希望する方は、3・4年次に開設する授業科目「インターンシップ (学部)」を履修登録してください。

また、「インターンシップ」に関する説明会を4月下旬頃に実施しますので、履修希望者は参加してください。インターンシップの手続き等については説明会で説明します。

なお、詳細は学務課教務係（092-553-4631）にお問い合わせください。

【インターンシップの流れ】

- ① 履修登録〔前期の履修登録期間〕
- ② インターンシップ説明会〔4～5月〕
- ③ 受入れ機関の調査と申込み
- ④ 受入れ機関の決定、研修期間・内容の調整（マッチング）
- ⑤ 「学研災付帯賠償責任保険」の加入（学研災加入者）または同内容の別保険
- ⑥ 誓約書・履修申込書の提出（提出先：学務課教務係）〔マッチング完了後〕
- ⑦ インターンシップ研修実施
- ⑧ インターンシップ終了報告書の提出（提出先：学務課教務係）
〔インターンシップ終了後2週間以内に学務課教務係に提出〕
- ⑨ 成績評価（2月）

（15）口頭試験について

高年次学生を対象として、学科ごとに口頭試験を実施します。

原則として、各学科で定めた対象年次（3年次）の学生は全て参加しなければなりません。

前年度までの実績では、各学科ともに3年次後期に口頭試験を実施しており、各学科で定めた実施要領等に基づき行われていますが、今後試験内容の充実を図るために実施方法等を変更する場合がありますので、注意してください。

口頭試験の目的は、学生がそれまでに学習してきた知識について、授業科目の枠を超えた創造的活用力の修得状況を確認・評価することです。複数の教員が一人ひとりの学生に対して、特定の用語やそれに関係する事項について多方面から口頭による質問を行い、用語の意味、現象の原理・仕組み等が理解できているか、また、それらの理解を基に創造的な発想・手法により課題解決へと導いていく能力を有しているかどうかについて試験を行います。

試験は、「芸術工学部及び各学科で必須の知識として求められる事柄で構成されるキーワード」（必修キーワード）をあらかじめ学生に公表し、そのキーワードを基に質問していく形式で行われます。

口頭試験の実施方法や試験結果の活用については、学科ごとに定められた実施要領等を基に取り扱われます。口頭試験の実施時期が近づいたら、学科ごとに対象年次学生を集めて説明会を開催したり、実施要領等を掲示するなどしてお知らせします。

前年度の口頭試験に出題されたキーワード集は、学務課教務係で配布していますので、今後の学習の参考のためにも是非活用してください。

(16) 長期履修制度について

長期履修制度とは、学生が障がい等を有する等の事情により、修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了することを希望する旨を申し出たときは、芸術工学部教授会の定めるところにより、その計画的な履修を認めることができる制度です。

この制度により、長期履修を認められた者が修了するまで、1年間に納める授業料の額は、修業年限（4年）分の授業料を、計画的に履修することを認められた一定の期間の年数（5年、6年、7年又は8年）で除した額となります。

詳細は学務課教務係にお問い合わせください。

5. 資格について

(1) 取得できる資格

資格	対象学科	要件等
2級建築士(受験資格) 木造建築士(受験資格)	環境設計学科	指定科目の単位を修得して卒業
1級建築士(受験資格)	環境設計学科	指定科目の単位を修得して卒業後、建築実務の経験2年以上。
インテリアプランナー (登録資格)	環境設計学科 工業設計学科	次の全てを満たすこと。 ・インテリアプランナー試験に合格 ・インテリア・建築に関する科目の単位を修得して卒業

ア. 建築士受験資格の指定科目（環境設計学科）

指定科目については、別途掲示によりお知らせします。

イ. インテリアプランナー登録資格に係る課程として必要な科目

（環境設計学科、工業設計学科）

必要科目については、別途掲示によりお知らせします。

(2) 教育職員免許について

芸術工学部は「教職課程」を開設していません。免許を取得する場合は、教職課程を開設している学部や大学において必要な単位を修得して、都道府県教育委員会へ免許申請を行う方法があります。

第 2 章

大橋キャンパスでの学生生活

1. 学生サービスを行う部署と担当業務

	担 当	担 当 業 務
学 務 課	教 務 係	履修登録、授業・定期試験、成績管理、★証明書関係、 休学・退学・復学、学位論文審査、講義室管理、非常勤講師 ほか
	学 生 係	入学料・授業料免除、奨学金、留学関係、就職関係、 課外活動施設・物品貸出、★通学定期券、 学生教育研究災害傷害保険加入、何でも相談窓口 ほか
	入 学 試 験 係	入学試験に関すること、研究生、公開講座、出前授業
	外国人留学生・研究者 サポートセンター	日々の生活に関する各種情報提供・支援、窓口での通訳、 在留期間更新・資格外活動許可等に係る相談・支援 ほか
	グローバル学生交流 センター	留学に関する情報提供 ほか
総 務 課	庶 務 係	学部内アルバイトの任用
	企 画 ・ 広 報 係	日本学術振興会特別研究員関係
	経 理 係	学部内アルバイト給与の支給（口座登録）
	用 度 係	施設の時間外使用届
	大 橋 保 全 係	☆電子錠の登録申請

★成績証明書(和文・英文)・在学証明書(和文・英文)・卒業見込証明書(和文のみ)・学生旅客運賃割引証については、自動発行機により発行。

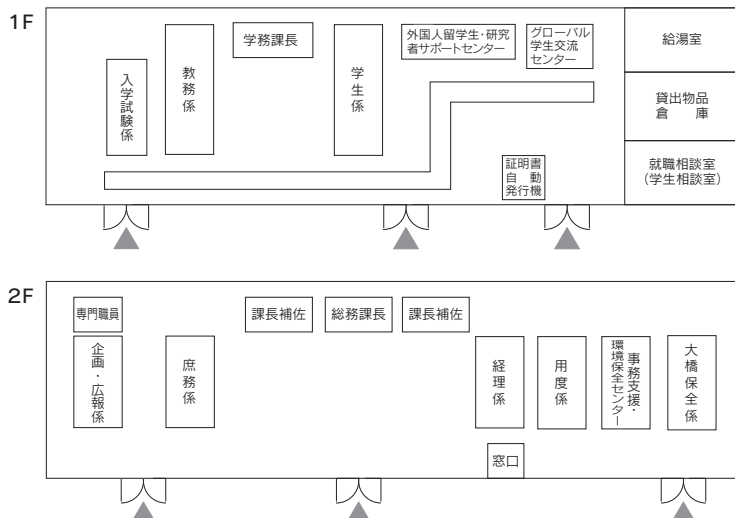
☆電子錠の登録申請書は、芸術工学部ホームページでダウンロードできます。

芸術工学部HP <http://www.design.kyushu-u.ac.jp>

→「学生向け情報」→「学生支援」→「電子錠登録申請書」



事務棟



2. 修学上の諸手続

(1) (標準) 修業年限及び在学期間の限度

	(標準) 修業年限	在学期間の限度
学 部	4 年	8 年
修 士 課 程	2 年	4 年
博 士 後 期 課 程	3 年	6 年

※休学期間は在学期間に含まれません。

(2) 休学・復学・退学手続について

休学・復学・退学に関する様式は学務課教務係で配布しています。また、芸術工学部HPにも掲載しています。

芸術工学部HP <http://www.design.kyushu-u.ac.jp>

→「学生向け情報」→「教務関係」→「休学・復学・退学」



ア. 休学手続

疾病又は経済的理由などのため2か月以上修学できない場合は、学部長の許可を得て、休学することができます。

休学手続は、クラス担任又は研究指導教員と相談して、学務課教務係に「休学願」を提出してください。疾病の場合は、医師の診断書を併せて提出してください。

〔手続時期〕

前期（4月1日～）を休学する場合は2月末日まで

後期（10月1日～）を休学する場合は8月末日まで

※各学期の開始前に休学を申請した場合は、休学期間の授業料は免除となりますが、学期開始後に休学を申請した場合は、その学期の授業料は免除になりませんので注意してください。

イ. 復学手続

休学者が休学期間中に復学する場合は「復学願」を提出してください。

また、休学期間が満了の場合は「復学届」を提出してください。

〔手続時期〕

後期（10月1日～）から復学する場合は8月末日まで

前期（4月1日～）から復学する場合は2月末日まで

ウ. 退学手続

退学する場合は、クラス担任又は研究指導教員と相談して、学務課教務係に「退学願」を提出してください。

ただし、授業料を納付していない場合は退学を許可しません。

〔手続時期〕

前期末（9月30日）に退学を希望する場合は8月末日まで

後期末（3月31日）に退学を希望する場合は2月末日まで

（3）現住所、電話番号（携帯電話番号）、メールアドレス、本籍地、保証人及び保証人住所等の変更、改姓、在留カードの変更手続き

現住所、電話番号（携帯電話番号）、メールアドレス、本籍地、保証人及び保証人住所等の変更、改姓、在留カードの変更があった場合は学務課学生係に届け出てください。

（4）授業料の納付

授業料は4月及び10月に各学期分の授業料を納付しなければなりません。なお、申し出により4月に後期分の授業料を併せて納付できます。

ア. 納付期間	前期	4月1日～4月30日
	後期	10月1日～10月31日

イ. 納入方法	口座振替
	… 学生もしくは保護者（保証人）名義の金融機関の口座から 本学の銀行口座へ口座振替

- 注）・原則、授業料の納付は口座振替により納付してください。特別な事情により、口座振替による納付が難しい場合は、銀行の窓口からの振込みにより納付してください。（銀行の窓口からの振込→大学が開設している口座へ振込）
- ・ 授業料を上記期間に納付しない場合は、本学から本人及び保証人に督促します。督促を受けたら、速やかに授業料を納付してください。なお、それでも授業料が納付されない場合は、「除籍」となります。
 - ・ 授業料の納付、手続きについて不明な点は、九州大学財務部経理課収入係（092-642-2175）にお問い合わせください。

(5) その他の諸手続

これまでに述べた手続き以外にも皆さんが学生生活を送る上で様々な手続きが必要になってきます。以下に代表的なものを載せていますので参考にしてください。分からないことがあれば、気軽に学務課職員に声をかけてください。

掲示・施設使用等

種 別	担当課・係	期 日	備 考
掲示許可願	学務課学生係	その都度	多次元・7号館・厚生施設棟に掲示できます
施設使用許可願		使用日の 3日前(土日 祝日を除く) まで	サークル等で施設の使用を申し込む場合
施設の時間外 使用届			21時以降翌朝9時までの間または土曜日、 日曜日、祝日に施設を使用する場合(研究 室等除く)
学内・外催物 開催届		その都度	顧問教員を経由すること
施設の時間外 使用届	総務課用度係	当日の 17時まで	研究室等を21時以降に使用する場合

3. クラス担任の紹介

クラス担任は、4年間の学生生活における種々の疑問や悩みごとについて、皆さんの相談相手となり、修学に専念できるようにするためにおかれているものです。皆さんが、大学生活に悩みや心配事を感じた時はクラス担任へ気軽に相談してください。きっと皆さんにとって役に立つアドバイスを与えてくれることでしょう。

平成30年度入学生のクラス担任教員は次のとおりです。

環境設計学科	カトウ 加藤	ユウキ 悠希 准教授	T E L : 092-553-4487 E-mail : kato@design.kyushu-u.ac.jp
工業設計学科	ヒライ 平井	ヤスユキ 康之 教授	T E L : 092-553-4526 E-mail : hirai@design.kyushu-u.ac.jp
画像設計学科	モリモト 森本	ユウキ 有紀 助教	T E L : 092-553-4434 E-mail : morimoto@design.kyushu-u.ac.jp
音響設計学科	レメイ Remijn Gerard	ジェラード 准教授	T E L : 092-553-9462 E-mail : remijn@design.kyushu-u.ac.jp
芸術情報設計学科	イナムラ 稲村	トクシユウ 徳州 助教	T E L : 092-553-4629 E-mail : inamura@design.kyushu-u.ac.jp

4. 大橋キャンパスにおける学生への連絡方法等

(1) 連絡方法

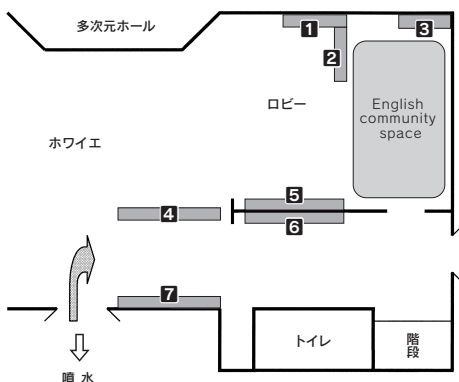
大学から学生の皆さんに対し、下記により、授業や学生生活上の重要事項などをお知らせしますので、1日に一度は必ずチェックしてください。

連絡方法	場 所		
学生ポータルシステム	(使用方法ホームページ) http://www.kyushu-u.ac.jp/student/portal/index.php	(パソコン) https://ku-portal.kyushu-u.ac.jp/campusweb/top.do	(携帯電話) https://ku-portal.kyushu-u.ac.jp/campusweb/sptop.do
			
※住所や連絡先を変更した場合は、必ず学務課学生係に届けてください。 ※学生ポータルシステムからの連絡（メール）は、初期設定では学生番号のメールアドレスに送られます。通常使用しているメールアドレスへ転送するようにしておくなど、常に見られる状態にしておいてください。			
多次元棟学務課掲示板	多次元デザイン実験棟1階ロビー（下図参照）		
学科掲示板	環境設計学科：2号館2階 画像設計学科：2号館2階 芸術情報設計学科：5号館1階	工業設計学科：1号館2階 音響設計学科：3号館1階	

※緊急の要件は、直接、電話しますので、自宅または携帯電話の電話番号を必ず学務課学生係に届けてください。

(多次元デザイン実験棟)
学務課掲示板の場所

- 1 海外留学関係チラシ等
- 2 就職関係(留学生)
- 3 留学生関係
- 4 就職関係
- 5 学生生活関係
- 6 授業関係
- 7 授業料・学生生活関係



連絡事項	連絡方法
休講，時間割変更，講義室変更，補講，集中講義，定期試験	学生ポータルシステム 多次元棟学務課掲示板（授業関係）
レポート・課題，その他の授業連絡	多次元棟学務課掲示板（授業関係） 学科掲示板
学科・教員からの連絡	学科掲示板
授業料納付，授業料免除，学生生活に関する連絡 奨学金	多次元棟学務課掲示板 （授業料関係・学生生活関係）
留学生奨学金，留学生への連絡事項 海外留学	多次元棟学務課掲示板（留学生関係） 多次元棟学務課掲示板（海外留学関係）
就職情報	多次元棟学務課掲示板（就職関係） 学科掲示板
コンペ・公募，イベント等	多次元棟学務課掲示板（学生生活関係） 学務課学生係 学科掲示板

（2）郵便物等の取扱い

学生個人宛の郵便物や宅配便は取り扱いませんので，必ず自宅宛に配達するよう，発信元に知らせておいてください。なお，公認サークル宛の郵便物等は，学務課に設置してある各サークルのメールボックスに入れますので，定期的に見るようになっています。

（3）電話の取り次ぎ

学生個人あての電話連絡は取り次ぐことができません。緊急時の連絡方法などは自分の責任で確立しておいてください。

5. 諸証明の発行

（1）学生証

学生証は身分を証明する重要な証明書です。定期試験，履修登録の追加・変更，成績確認及び通学証明や学割証の発行などの際に必ず必要ですので，常に携帯するとともに，紛失や汚損のないよう大切に取り扱いってください。

万一，紛失又は汚損した場合には，速やかに学務課学生係へ届け出て，再交付を受けてください。

なお、再発行手数料として、2,000円の費用が必要となります。

学生証は、そのまま卒業まで使用できます。ただし、修業年限を超えて在学することとなったときは、4月上旬に学務課学生係の窓口で新たに学生証を発行します。(有効期間1年)

(2) 学生旅客運賃割引証 (学割証)

実習見学や帰省など下記の目的でJRを利用して旅行しようとする場合に交付を受けて使用できます。学務課で**自動発行機**により発行しています。

- 休暇、所用による帰省
- 実験実習及び試験などの正課の教育活動
- 学校が認めた特別教育活動又は体育・文化に関する正課外の教育活動
- 就職又は進学のための受験等
- 学校が修学上適当と認めた見学又は行事への参加
- 傷病の治療その他修学上支障となる問題の処理
- 保護者の旅行への随行

鉄道、航路または自動車線のいずれかの区間を**片道100km**を越えて利用する場合、2割引の割引普通乗車券が購入でき、有効期間は発行の日から3か月です。

割引証1枚で往復分を購入することができ、1人年間10枚まで利用できます。

不正使用は絶対にしないでください。

(3) 通学証明書

通学で利用する公共交通機関の通学定期車乗券を購入する場合には通学証明書が必要です。購入申込書を兼ねた用紙が学務課学生係にありますので、必要事項を記入の上、学生証と一緒に提出してください。

(4) 在学証明書・成績証明書等

種 別	担 当	証明書の発行
在 学 証 明 書	学務課教務係	和文・英文は学務課内の自動発行機により発行。
成 績 証 明 書	〃	和文・英文は学務課内の自動発行機により発行。
卒業(見込)証明書	〃	和文のみ学務課内の自動発行機により発行。
健康診断証明書	キャンパスライフ・健康支援センター 大橋分室	学務課内の自動発行機により発行。

6. 学生生活、修学及び就職指導等に関する相談

(1) 修学上の相談

本学部の教育課程の内容やその履修方法について、不明な点や履修上の疑問点等があれば、遠慮なく学務課教務係職員へ相談してください。修学上に生じる個別の問題等についても、必要に応じて授業の担当教員に連絡をとるなどの取り次ぎを行います。また、本学部では各学科にクラス担任教員（52ページ）を配置しています。

(2) なんでも相談窓口

学生生活上起こるどんな小さな疑問点や要望でも結構です。そのほか相談先がわからない場合等であっても、気軽に学務課学生係（10：00～16：00）に相談してください。

(3) オフィス・アワー制度

本学部では、教育改革の一環として「オフィス・アワー」の制度を設けています。大いに利用してください。

この「オフィス・アワー」制度は、教員と学生との信頼関係をより緊密なものとし、学生の皆さんが安心して学生生活を送ることができることを期待して各教員が研究室等で都合のよい日の一定時間（90分程度）を「オフィス・アワー」の時間帯に設定し、勉学、学生生活及び進路上的の問題や個人的な心配事などの相談に応じるものです。所属する学科にとらわれることなく、どこの学科の教員でも相談できることになっています。各教員の「オフィス・アワー」の時間帯などはシラバス等で案内しますので、有効に活用してください。

なお、相談をする時は、教員の研究室を訪ねてください。電話又は電子メールを利用してかまいません。

(4) ハラスメントの相談

九州大学では、ハラスメントに関する相談や苦情の申し出に対応するため、相談窓口・相談員を配置しています。相談員への相談は面談によるほか、電話、手紙、電子メールでもできます。また、相談は被害者本人だけでなく、被害者から相談を受けた人又は被害を目撃した第三者でもかまいません。

相談者のプライバシーは必ず守られますので、相談したことがあなたの不利益になることは決してありません。詳細については九州大学HPで確認してください。

九州大学HP <https://www.kyushu-u.ac.jp>

→「九州大学について」→「公表事項」

→「ハラスメントの防止・対策」



(5) 海外留学

九州大学では、国際的視野を持つ人材育成のため、大学間または部局間で学生交流協定を締結し、海外の大学との交換留学を奨励しています。

交換留学の場合、留学期間は1年以内で、一部の学生交流協定校を除き、九州大学に在学して授業料を納めていれば、留学先で授業料、検定料、入学料を納付する必要がありません。

また、留学先大学で修得した単位および在学期間は、九州大学の卒業要件として取り扱われます。ただし、修得単位の認定（単位互換）については、芸術工学部で審査があり、どこまで認定されるかは芸術工学部の判断となります。

協定校以外への留学は、留学先大学に授業料を納める必要があることから、留学期間によっては、休学の手続きが必要です。修得単位は、交換留学同様、審査を受けて認定が可能です。

(English Community Space)

平成26年度から、国際化促進のための取組として、大橋キャンパス内にEnglish Community Spaceを設置し、日本人学生と留学生が各種イベントを通じて多文化交流を行っています。English Community Spaceでは、いろいろな具材が混じった日本の“鍋”料理のように、多文化交流が進むようにというアイデアから、通称「CULTURE NABE」として活動しています。

例えばクッキングナイトのように外国の文化や料理を紹介するイベントなど皆さんが参加しやすい企画もたくさんあります。イベントの案内は、学生ポータルより随時お知らせしますので、ぜひご参加ください。

(GEIKO GLOBAL国際交流ポータルサイト)

芸術工学部・芸術工学府では、海外からの留学生や本学から海外の大学への交換留学を希望する学生の皆さんをサポートするポータルサイトを設置しています。

詳細は、芸術工学部HP (<http://www.design.kyushu-u.ac.jp>) から「留学関連情報」をご覧ください。



交換留学については、学務課へお問い合わせください。

【問い合わせ先】

学生係 TEL：092-553-4632 E-mail：gkggakusei@jimu.kyushu-u.ac.jp

教務係 TEL：092-553-4419 E-mail：gkgkyomu@jimu.kyushu-u.ac.jp

※留学に関するご相談は、グローバル学生交流センター（管理棟1階）まで

TEL：092-553-4477 E-mail：gbkoryu@jimu.kyushu-u.ac.jp

なお、留学に関する情報は、次の九州大学および芸術工学部のホームページをご覧ください。

九大生のための留学情報 http://www.isc.kyushu-u.ac.jp/intlweb/study		九州大学協定締結校 http://www.isc.kyushu-u.ac.jp/intlweb/agreeview/worldmap.php	
芸術工学部HP http://www.design.kyushu-u.ac.jp/		国際交流ポータルサイト http://www.gg.design.kyushu-u.ac.jp/	

(6) 留学生のサポートチーム制度

九州大学へ初めて入学する留学生には、学生のサポートチームが対応します。この新入留学生サポートチームは平成23年度からスタートしたもので、日本人学生や先輩留学生で構成し、新入留学生の勉学面や生活面での支援を行うものです。

サポートチームに関する質問等は外国人留学生・研究者サポートセンターへお問い合わせください。

7. その他

(1) 学生定期健康診断

毎年4月には、病院地区および伊都地区で学生定期健康診断を実施しています。みなさんの健康をチェックするために必ず受診してください。毎年の健康診断は、学校保健安全法により義務づけられています。就職活動等において健康診断書が必要となります。健康診断を受診しなかった場合は大学から健康診断書を発行することができません。また、学生定期健康診断を受けた人は、健康診断証明書（無料）を自動発行機で受け取ることができます。

キャンパスライフ・健康支援センターHP

<http://www.chc.kyushu-u.ac.jp/student/index.html>

→ 「学生の方へ」 → 「学生健康診断」

(2) 就職支援

芸術工学部では、各学科に就職担当教員を配置して、就職相談・指導・支援にあたっています。なお、求人票などの就職関連資料は、学務課で配布するとともに、閲覧することができます。

芸術工学部の就職活動について

ア. 就職情報の入手について、必要な情報は学生ポータルシステムまたは掲示板により連絡します。

イ. 芸術工学部独自の情報については、芸術工学部HPから入手してください。

※芸術工学部独自のガイダンスや説明会の情報も発信します。

芸術工学部HP → 学生向け情報 → 学生支援 → 就職情報等一覧(学内限定サイト)

ウ. 芸術工学部独自の求人票は、学生係で閲覧することができます。

エ. 九州大学(学部指定なし)への求人票については、九州大学HPから入手してください。九州大学HPには、他にOB・OG名簿や就職活動に係る情報が掲載されているので、参照してください。

九州大学HP → 教育・学生支援 → 就職・キャリア支援

オ. 就職活動で不明な点は、大橋地区で相談ができます。月・水曜日12:00～16:00に受け付けています。受け付けは学務課学生係までお尋ねください。

また、九州大学には学務部学生支援課就職支援係が設置されており、①就職ガイダンス等の就職支援行事の開催、②各種就職情報の提供、③就職相談員の配置(大橋キャンパスには毎週月・水曜12:00～16:00に相談員を派遣)、など就職活動全般の支援を行っています。

学務部HP <http://www.kyushu-u.ac.jp>

→「教育・学生支援」→「就職・キャリア支援」の各項目



(3) 構内交通規制

ア. 自動車の入構

学生の自動車での入構は、原則として認めません。身体に障がいのある学生及び社会人の大学院学生については、例外として自動車による通学を認めることがあります。希望者は、学務課学生係にご相談ください。

また、実験機材の搬入等で一時的に入構を希望する場合は、事前に「臨時入構許可申請書」を入構の3日前までに学務課学生係へ提出し、許可を受けてください。

イ. 駐輪場

構内の通行や教育研究の妨げにならないよう自転車、バイクは、必ず所定の駐輪場に置いてください。なお、駐輪違反のバイク等には定期的に取り締りを実施し、空気を抜くなど厳しく対処します。

芸術工学部HPも参照してください。

芸術工学部HP <http://www.design.kyushu-u.ac.jp>

→「学生向け情報」→「学生支援」→「駐輪場・バイク置場」

(4) 学生生活上の注意事項

生活するうえでのトラブル回避や適切な対処のため、入学時に『学生生活ハンドブック』を配布しています。

HP上からダウンロードもできますので、いざという時のため、いつも手元に置くよう心がけてください。(ダウンロードの方法は以下のとおりです。)

九州大学HP <http://www.kyushu-u.ac.jp>

→「教育・学生支援」→「生活支援（キャンパスライフ）」

→「各種パンフレット・手引き等」→「学生生活ハンドブック（PDF）」

学生生活に関する各種相談の連絡先一覧表

連絡先	電話番号	相談内容
芸術工学部学務課学生係	092-553-4586	各種相談全般
大橋キャンパス警務員室	092-553-4428	休日、夜間の事件・事故の緊急通報
キャンパスライフ・健康支援センター大橋分室	092-553-4581	健康相談全般
学務部学生支援課	092-802-5961	悪質な勧誘・薬物の目撃など
学生相談室	092-802-5820	学生生活・修学相談全般
福岡市消費生活センター	092-781-0999	契約トラブル・悪質商法など
ミズ・リリーフ・ライン	092-632-7830	女性を狙った犯罪等の相談 (福岡県警)

8. 適正な研究の進め方を知ろう

「研究をする」とは、どんな活動でしょうか？研究を開始するためには、まず、研究対象についてこれまでにどんな研究が行われていて、何が判っているかを確認することが必要になります。あなたが研究対象とした事柄と同じ(ような)ことを研究してきた先人の成果・研究業績をまずはしっかりと確認する作業が必要です。先人の業績を無視したり、自分に都合の良いものだけを引用してはいけません。

適正な研究の進め方については、下記URLの「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドラインの決定について」を参考にしてください。

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/26/08/1351568.htm



9. サークル活動

サークル活動とは、正課外の活動として学生が自主的、組織的、継続的に営む団体の活動であり、その目的や内容等に対して大学が公認している活動です。

サークル活動の詳細については、芸術工学部HPを参考にしてください。

芸術工学部HP <http://www.design.kyushu-u.ac.jp>

→「学生向け情報」→「学生支援」→「課外活動」



団体（サークル）結成等

種 別	担当課・係	期 日	備 考
学生団体組織許可願	学務課学生係	その都度	規約及び構成員の名簿を添付のこと
学生団体継続許可願		3月末まで	

10. 大橋キャンパスの諸施設の利用について

大橋キャンパスには、次のような厚生施設や課外教育教養施設を整備しています。なお、施設の配置等については、巻末の図面を参照してください。

(1) 学生食堂および購買部

学生、教職員の福利厚生施設として、厚生施設棟1階に購買書籍部があります。

また、平成30年5月完成予定の「デザインコモン」1階に食堂及び売店、2階にキャンパスライフ・健康支援センター大橋分室が入居予定となっています。

詳細については、下記URLを参考にしてください。

<http://www.coop.kyushu-u.ac.jp/>



(2) キャンパスライフ・健康支援センター大橋分室

大学に入学し、生活習慣や住環境が変化すると、心身に大きな変化が生じることがあります。大学では皆さんの心身の健康維持を図り、健康診断、健康相談、救急処置、カウンセリング等を行うため、医師、保健師（看護師）、臨床心理士を配したキャンパスライフ・健康支援センターを設置しています。

詳細については、下記URLを参考にしてください。

<http://www.chc.kyushu-u.ac.jp>



(3) 附属図書館芸術工学図書館

附属図書館芸術工学図書館は、教育・研究に必要な図書、雑誌、文献等を収集、整理、保存して、広く学術研究、学習に利用することを目的とした共同利用施設です。

図書館の利用方法等について分からないことがあれば、遠慮なく芸術工学図書館1階の受付カウンターでお尋ねください。

芸術工学図書館ホームページには、利用案内及び館内図、開館スケジュールや各種サービス・催し等のお知らせを掲載していますので、ご覧ください。

芸術工学図書館HP

<https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/libraries/design>



芸術工学図書館受付カウンター

TEL：092-553-9490

(4) 工作工房

工作工房は主に、造形やデザインにおいて重要な素材に対する感性や表現力を身に付ける事を目的として、造形作品の制作やデザイン実習の課題制作の場として利用されています。

三階建ての工作工場の施設には、大型作業場、総合作業室、溶接作業室など10を超える作業室があり、それぞれの作業室には、用途に合わせて木材加工から金属加工、組み立て、塗装と、多岐にわたる機械類が設置されています。

現在、保有している機器の種類は20数種類、総台数は手持ちの電動工具を含めると100台を超え、ノミやノコギリ、カンナをはじめとした手道具も数多く用意しています。

このように工作工房は、たくさんの道具や工作機械をそろえた実習施設ですから、作業をされる皆さんにはそれなりの危険が伴うとともに経験や技術が必要となります。利用の際には、必ず以下の注意事項をよく読んで、教員や工房職員の説明や指導を理解したうえで作業にのぞむようにしてください。

ア. 利用上の注意

安全のための基本事項

実習作業を始める前には作業内容を十分に理解し余裕のある計画を立てておきましょう。それぞれの作業に適した服装や装備、相応な緊張感も必要となります。また作業中は自分自身の安全だけでなく周囲の作業者の安全にも注意し、作業環境の整理整頓を心がけてケガや事故のない作業環境を目指しましょう。

(ア) 服装について

服装は原則として、袖口や裾の広がっていない長袖、長ズボン等の実習作業に適した動きやすいものを着用してください。半ズボンやスカート等、安全を損なうような服装での作業は認めません。

- 作業服は油や塗料、粉じん、切削片等で汚れます。
- タオル等を使用するときは、首に巻いたり、腰に下げたりしないこと。きちんとポケットの中に入れるか、作業台の上に置いておくこと。またペンダントやネクタイ等も、回転する機械類に巻き込まれる危険性が高いのであらかじめ外しておくこと。
- 工房への入室は必ず靴履きとし、靴底が滑りやすい物やサンダルなどは禁止します。
- 頭髪の長い場合は、まとめるか作業帽を使用すること。

(イ) 作業について

工作工房には、簡単な手道具から複雑な加工を自動的に行うNC加工機まで、数多くの工具や機械があります。いずれも正しい操作法を守って使用すれば安全ですが、不注意や油断、誤った知識や操作法は機器を破損するばかりでなく、使用者自身や周辺の作業者を巻き込む大きな事故へとつながります。

工作工房における機器の使用は、必ず前もって教員又は工作工房職員より注意並びに操作法の指導を受けてください。また、説明等を受けていても、使用の際には必ず担当教員又は工作工房職員の許可を得てください。

- 工作工房にある機械器具は、必ず担当教員または工作工房職員の許可を得て使用すること。
- 作業を行う場合は、事前に作業工程や内容を担当教員又は工作工房職員と検討し、使用する機械や作業の準備をしておくこと。
- 機械の周辺に不要な材料や障害物があると危険なので、作業前には、必ず機械の周辺の整理整頓をすること。
- 工作機械類の誤った操作は大きな事故につながるため、機械の操作方法等を確認して作業に入ること。
- 2人以上で作業する場合は、必ず合図を行うなど各自の安全を確認した上で、機械を操作すること。
- 事故防止のため、当事者以外の人は作業中の機械には近づかないこと。
- 落下物や高温の切削片の飛散等に備え、作業に応じてヘルメットや作業帽、ゴーグル（保護眼鏡）やマスク、保護手袋等の安全保護具を着用すること。
- 作業終了後は、使用した機械器具および床などの清掃、後片付けを行い、必ず担当教員または工作工房職員の許可を得て退室すること。

- 指導を守らない、もしくは著しく安全を損なうような行為がある場合には、工房での作業を中止し、退出させる場合があります。
 - 授業以外の時間に工房を利用する場合には、担当教員の承認を得て利用すること。
- ※利用の手続きや利用の際の注意点は「イ．利用手続きについて」の項を参照してください。

(ウ) 工作機械の色分けについて

工作工房では、工作機械を危険度に応じて以下のように色分けし、それぞれの機械の操作部又は電源のスイッチの所にカラーシールを貼っています。使用に際しては経験や技術の習熟が必要とされるものもあり、事前に担当教員または工作工房職員と作業内容を打ち合わせた上で、許可または立ち会い、指導のもとに使用してください。

- (アカ) 危険度が高く、使用に当たっては専門的な知識と経験が必要であり、原則として関係教員または工作工房職員以外の使用を認めない。
- (オレンジ) 危険度が高く、使用に当たっては高度の知識と経験が必要であり、関係教員または工作工房職員の立ち会いのもとに使用が認められる。
- (キイロ) 使用法によっては危険な場合もあり、一定の知識と経験の積み重ねが必要とされ、関係教員または工作工房職員の指導のもとに使用が認められる。
- (アオ) 基礎的な知識と経験があれば、関係教員または工作工房職員に申し出ることによって使用が認められる。

※機器の色分け、必要とされる条件など、分からないことがあったら担当教員又は工作工房の職員にたずねてください。

イ．利用手続きについて

工作工房は全学共同の実習施設です。利用の際には安全に気を付けて、お互いに工具や機械、作業スペース等を譲り合って利用してください。下記の要項及び注意事項や手続きをよく理解した上で、利用申込み書類の提出をお願いします。

(ア) 利用できる時間等について

- 工作工房を利用することができる時間は、8時30分から17時まで。
16時30分には作業を終了し、機器等の後片付け並びに清掃を始めること。
- 平日の12時から13時までの1時間は昼休みのため、工作機械等の使用は禁止します。
- 休業日は土曜、日曜及び祝日、年末年始。

(イ) 授業以外での利用について

○ 時間内での利用について（平日の8時30分から17時までの利用）

- 時間内での利用を希望する場合は、工作工房利用申込書を工作工房管理室又は担当教員から受け取り、利用希望日前日の17時までに工作工場の管理室まで提出すること。

休日明け初日の利用を希望する場合は、休日前までに書類を提出すること。

- 同じ時間帯に工作工房を利用する授業がある場合は、授業が優先される。
- 利用の際には、工作工房管理室で利用申込みの承認を確認すること。
- 作業内容や使用する機械等によっては、教員や工作工場の職員との打ち合わせが必要になります。

○ 時間外での利用について（平日の17時以降と休業日の利用）

- 時間外での利用を希望する場合は、工作工房時間外利用願いを工作工房管理室又は担当教員から受け取り、利用希望日前日の17時までに工作工場の管理室まで提出すること。

休日明け初日の利用を希望する場合は、休日前までに書類を提出すること。

- 17時以降の居残り作業は担当教員の監督下、20時までとする。
- 作業室等の鍵の引き渡し並びに返却は、担当教員が行う。

※上記項目以外の事については、時間内での利用についての条項に準じます。

工作工房HP

<http://www.design.kyushu-u.ac.jp/kyushu-u/about/facilities/handicraft>

参考資料「工作工房における実験・実習での安全の心得」「工作工房使用上の注意」を参照のこと

(5) デザイン基盤センター情報基盤室(情報統括本部大橋分室)の利用案内

ア. はじめに

デザイン基盤センター情報基盤室に設置している教育用端末は、講義やレポート作成及び情報収集などの学習・教育を目的に利用することができます。

イ. 教育用端末の設置場所と利用時間

デザイン基盤センター情報基盤室の教育用端末で皆さんが利用できる環境は以下のとおりです。表1に設置場所、表2に利用時間、表3に利用できる主なソフトウェアを記載しています。

オープン端末室は原則として講義等では利用されない自習のための部屋です。第1実習室は講義が優先されますので、講義を行っている時間帯は利用する事ができません。

表1 端末の設置場所

設置場所	端末台数	備考
情報基盤室 2階 第1実習室	54 (内1台は教壇脇に設置)	講義優先
情報基盤室 1階 オープン端末室	23	

表2 端末の利用可能時間

	平日	土曜 *	日曜・祝日
4～7月, 10～2月	8:30～20:50	8:30～16:50	終日閉館
8, 9, 3月	8:30～16:50	終日閉館	終日閉館

*土曜日に利用したい場合は学生証を入館用に登録する必要があるため、学生証を持参の上で事前に情報基盤室の事務室に申し出てください。

*上記の利用可能な時間帯であっても、端末の保守作業等により利用できない場合がありますのでご了承ください。

表3 利用できる主なソフトウェア

ソフトウェア名	概要
(Windows環境) Windows 10 Enterprise LTSC 64bit	
Microsoft Office 2016 Professional	Word, Excel, PowerPoint 等
Visual Studio 2015 Professional	ソフトウェア開発環境
Adobe Creative Cloud	Illustrator, Photoshop 等
Shade 3D Basic	3DCGソフト
MATLAB	数値計算・解析ソフト
SolidWorks EDU Edition	CADソフト

ウ. 利用方法

○ID・パスワード

教育用端末を利用するためには、利用者個人の認証を行うために全学共通のSSO-KIDとパスワードが必要です。SSO-KIDは各自の学生証の裏面に記載されています。

エ. 利用上の注意

- 教育用端末は設置されている目的以外に利用しないよう十分注意してください。
- 長時間の退席や退館の際は、セキュリティの観点から必ず端末からログアウトしてください。

- 多くの人が出入りするので、忘れ物をしないよう私物の管理は適切に行ってください。
- 臨時の休館等の情報基盤室からのお知らせは建物入口近くでの掲示の他、次の情報基盤室のWebサイトで行います。

<https://www.imo.design.kyushu-u.ac.jp>



(6) 体育施設

大橋キャンパスの体育施設には次のようなものがあります。

これらの体育施設の使用については、授業や公認サークルでの使用を優先します。したがって、授業や、公認サークルが使用しているときは、原則として使用できませんので、注意してください。

ア. 体育館

利用時間は次のとおりです。

平日 9:00～21:00

(時間外(21:00以降)の使用については学務課学生係へ願い出てください。)

土曜日・日曜日・祝日

開館しない。ただし、使用したい場合は、使用日の3日前(土・日・祝祭日を除く)までに学務課学生係へ願い出てください。

イ. 運動場

土曜日・日曜日・祝日に使用したい場合は、使用日の3日前(土・日・祝祭日を除く)までに学務課学生係へ願い出てください。

ウ. テニスコート

土曜日・日曜日・祝日に使用したい場合は、使用日の3日前(土・日・祝祭日を除く)までに学務課学生係へ願い出てください。

11. 安全の手引き

この便覧には「安全の手引き」の一部を掲載しています。詳細については芸術工学部HPも参照してください。

芸術工学部HP <http://www.design.kyushu-u.ac.jp>
→「学生向け情報」→「学生支援」→「安全の手引き」



<http://www.design.kyushu-u.ac.jp/kyoumu/anzentebiki.pdf>

(1) 学内生活及び研究活動における安全の心得

ア. 学内生活上の一般的心得

- (ア) 消火器、消火栓、火災報知器、非常電話、避難器具の設置場所を確認しておくとともに、これらの操作法についても熟知しておくこと。
 - (イ) 建物の館内は全館禁煙となっている。喫煙は屋外の必ず指定された場所で行い、煙草の吸殻、マッチ等の火気の後始末を確実に行うこと。
また、「火気厳禁」区域内では絶対に喫煙しないこと。
 - (ウ) 研究室や実験・実習室内の備品で地震の際に倒れる恐れのあるものは固定しておくこと。
 - (エ) 研究室や実験・実習室の整理整頓を常に心掛けること。
 - (オ) 大学施設の使用について、止むを得ず夜間学内に留まる場合は、自らの安全に十分に注意すること。
 - 止むを得ず時間外（21時以降）に使用する際は、^{*}施設管理者に了解を得た上で、事故や騒音等が発生しないよう適切な使用に努めること。なお、社会常識を逸脱した時間（0時以降）での使用や騒音等は厳に慎むこと。
 - 目的外で使用する場合は、時間内外を問わず、施設管理者に了解を得た上で、適切な使用に努めること。
- ※施設管理者 例 研究室…教員、教室…学務課
- (カ) 不審者に十分注意すること。
 - (キ) 飲酒について

未成年の飲酒は法律で禁止されています。十分に注意を払い、飲酒事故防止に努めてください。イッキ飲みや飲酒の強要は厳に慎んでください。懲戒の対象となる場合もあります。

また、次のことに注意すること。

- 飲めない人には、すすめない。
- 食べながら、ゆっくり飲む。

- 飲み過ぎないように、「ほろ酔い」で切りあげる。
- 飲酒・酒気帯び運転は、絶対しない。

(ク) 懲戒について

本学の規則に違反し、又はその本分に反する行為があったとき、退学や停学、訓告等懲戒の対象となる場合があります。例えば、窃盗（空き巣、置引き、万引き等）の犯罪行為を行った場合は、退学、停学又は訓告。他者に飲酒を強制し、死に至らしめた場合は、退学又は停学。インターネット等において誹謗中傷により他者の人格を傷つける行為等を行った場合は、退学、停学又は訓告の対象となります。

(ケ) キャンパス内での喫煙について

成人の喫煙については、指定された場所（多次元棟掲示板に掲示）で喫煙してください。

イ. 研究実験・実習のための一般的心得

芸術工学部HP <http://www.design.kyushu-u.ac.jp>

→ 「学生向け情報」 → 「学生支援」 → 「安全の手引き」

<http://www.design.kyushu-u.ac.jp/kyoumu/anzentebiki.pdf>

ウ. 被検（験）者の安全と権利の保護についての一般的心得

芸術工学部HP <http://www.design.kyushu-u.ac.jp>

→ 「学生向け情報」 → 「学生支援」 → 「安全の手引き」

<http://www.design.kyushu-u.ac.jp/kyoumu/anzentebiki.pdf>

エ. 火災防止対策のための一般的心得

芸術工学部HP <http://www.design.kyushu-u.ac.jp>

→ 「学生向け情報」 → 「学生支援」 → 「安全の手引き」

<http://www.design.kyushu-u.ac.jp/kyoumu/anzentebiki.pdf>

オ. 交通安全に関する一般的心得

学内外を問わず、交通安全には十分留意し、交通規則を遵守し、交通災害の防止に努めなければなりません。

また、事故を起こした場合又は事故に遭った場合は、必ず学務課学生係に相談してください。

(ア) 学内における注意事項

学内においては、教育・研究の場であることを自覚し、静穏な環境の維持と歩行者の安全な通行を確保するために、自動車・バイク・自転車等の車両の交通については以下の事項を遵守してください。

- 自動車での通学は、身体障がい者又は社会人大学院学生等のみ申請ができ、毎年度更新しなければならない。
- 道路標識に従って運転し、時速15km以下の速度で通行しなければならない。
- 駐車・駐輪場以外の場所に駐車してはならない。特に、消防車、救急車等の緊急時の活動を妨げないように、消火栓付近その他駐停車禁止場所での駐車を厳禁する。
- 本学が指定する構内指定区域外への進入を禁止する。
- 構内には自転車・バイク等を放置しないこと。
- むやみに警笛やエンジンの高音を発して、研究・教育活動を妨害してはならない。
- 事故に備えて、できるだけ任意保険に加入してください。
- 道路上及び広場等でのキャッチボール、ローラースケート、スケートボード等をしてはいけない。

(イ) 学外における注意事項

交通事故を起こさないためにも以下のことを心がけて運転してください。

- 人の生命の尊さを知って運転すること。
- 思いやりと譲り合いの気持ちを持って運転すること。
- 自分の運転能力にあった運転をすること。
- 心身の状態を良好に保って運転すること。
特に、過労、飲酒、病気、携帯電話等に注意すること。
- 常に冷静な気持ちを保って運転すること。
特に、「いそぎ・あせりの心理」、「怒りの心理」、「自己中心の心理」等に注意すること。

カ. 地震に対する安全対策

地震、台風、豪雨、噴火等の自然現象によってもたらされる災害は自然災害と呼ばれています。これらの自然災害の中で最も恐ろしいのは地震です。なぜなら、地震は、構造物の破壊、火災、地すべり崖崩れ、津波等の多岐にわたる災害をもたらす、そのいずれもが多数の人命を一瞬にして奪う可能性があるからです。また、そのような地震が「いつ」・「どこで」・「どのくらいの大きさ」で起こるかを予知することは不可能であるからです。身を護るため、被害を軽減させるために、万一の地震に備えて各自で常に対策を立てておきましょう。

地震に対する安全対策の詳細については、芸術工学部HPを参考にしてください。

芸術工学部HP <http://www.design.kyushu-u.ac.jp>

→「学生向け情報」→「学生支援」→「安全の手引き」

<http://www.design.kyushu-u.ac.jp/kyoumu/anzentebiki.pdf>

キ. コンピュータネットワークを活用する場合の一般的心得

近年のインターネットの普及に伴い、教育・研究などの目的に限らず、日常的にコンピュータネットワークを利用する機会が増えています。インターネットは大学内外を問わず世界各国で非常に多数の人が利用しているという性質上、一般社会と同じくネットワーク上での情報に関しても注意を払わなくてはなりません。

- (ア) 不用意に自己や他人の情報を公開しないこと。氏名・住所・電話番号・クレジットカードの番号などの情報は、商業的な目的だけでなく、時には犯罪に利用される危険がある。
- (イ) ネットワークを通して秘匿性の必要な情報をやりとりすることは極力避けるか、暗号化などの方策を施した方が無難である。第三者によって通信中の情報を受信・加工・捏造（ねつぞう）することが可能なことがある。
- (ウ) 悪意ある第三者やコンピュータウイルスなどによって、手元のコンピュータのソフトウェアやデータ環境が破壊されあるいは改竄（かいざん）されることがある。パスワードの管理やネットワークからのログインの許可体制に注意するとともに、出所不明なソフトウェアの使用は極力避けるなど注意を払うこと。
- (エ) 意識的、無意識的に関わらず、法に抵触する行為は避けること。例えば、
 - ホームページを制作する場合には、他人の音楽、絵画・漫画、写真などを使いがちであるが、著作権のあるものを使う場合は権利者の許諾を得ること。

- コンピュータ・プログラムも音楽や絵画と同じように著作物としての保護があるので、私的使用のための複製など法律が認めた一定の場合以外は、無断で複製しないこと。
 - 自分のホームページに他人の論文などを無断で引用できる場合があるが、それは引用する必然性があること、自分の論文が主で他人のそれは従であること。「」を付けるなど引用部分を明らかにすること、出所を明示するなどの条件を全てクリアしなければならないこと。
 - インターネットで他人のプライバシーを侵害するようなことをしたり、他人を誹謗（ひぼう）中傷したり、猥褻（わいせつ）な画像を流すなど、法令に違反するようなことは大学生として厳に慎むこと。
 - 古文書などのように著作権の保護期間の消滅しているもの（一般には著作者の死後50年間で消滅するものが多い）は自由に使えること。また、著作権の放棄をした著作物もその条件に従った範囲内での利用は可能であること。
- (オ) Twitter等のSNSは、不特定多数の人が閲覧できるサービスであるため、そのことを忘れずに軽率な書き込みをしないこと。社会的責任を問われる場合や、個人情報保護法などの法律に抵触する場合もあり、懲戒の対象となる場合がある。

ク. 海外渡航時の注意事項

- (ア) 海外渡航の届け出を学務課学生係へ提出する。
- (イ) 身の安全確保に十分注意を！
- (ウ) 無理なプランは避けましょう。
- (エ) 在外公館のアドバイスや勧告には従いましょう。
- (オ) 健康管理や携行医療品について、医師のアドバイスを受けましょう。
- (カ) 事件・事故にあったら、在外公館へ連絡・相談を！
- (キ) 外務省渡航登録サービス（3か月未満：たびレジ、3か月以上：在留届け）

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp>



(2) 緊急時の対応

芸術工学部HP <http://www.design.kyushu-u.ac.jp>

→ 「学生向け情報」 → 「学生支援」 → 「安全の手引き」

<http://www.design.kyushu-u.ac.jp/kyoumu/anzentebiki.pdf>

(3) 課外活動における安全の心得

芸術工学部HP <http://www.design.kyushu-u.ac.jp>

→ 「学生向け情報」 → 「学生支援」 → 「安全の手引き」

<http://www.design.kyushu-u.ac.jp/kyoumu/anzentebiki.pdf>

12. 受賞情報の報告について

学生の皆さんの作品・論文・研究成果等がコンペ等で表彰を受けた場合には、部局での学生表彰の資料に活用したり、芸術工学部HP等での公表をしたいので、その都度、クラス担任又は指導教員へ報告してください。

報告の様式は芸術工学部HPに掲載していますので、ダウンロードの上、必要情報を記入しクラス担任又は指導教員へ提出してください。

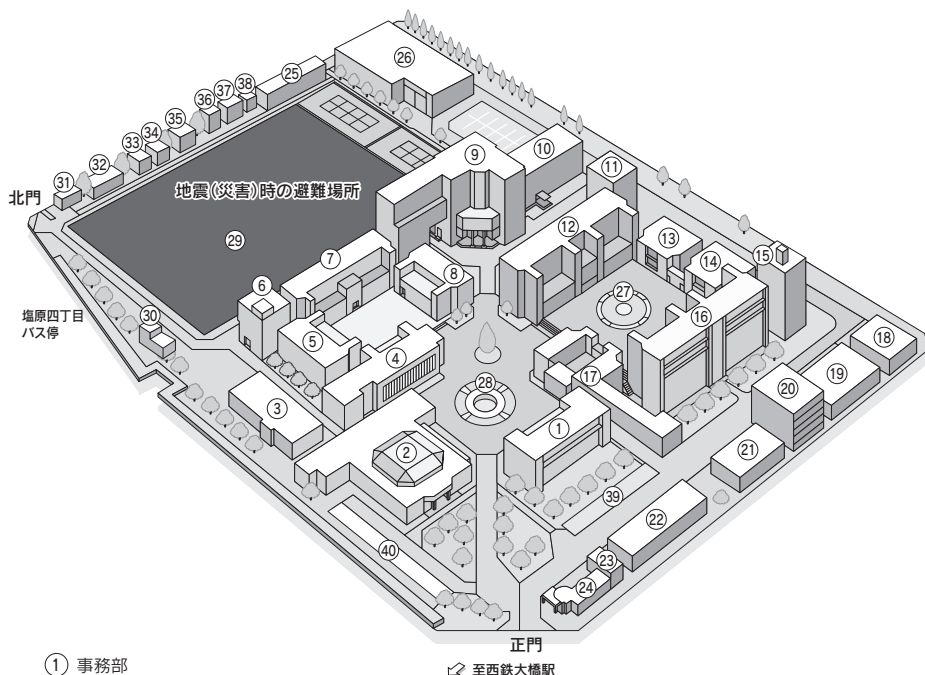
芸術工学部HP <http://www.design.kyushu-u.ac.jp>

→ 「学生向け情報」 → 「学生支援」 → 「受賞情報報告書」



付 録

1. 学内建物配置図



- | | | | |
|------------------------------------|--|--------------|------------|
| ① 事務部 | ⑩ 厚生施設棟
(食堂・売店・キャンパスライフ・健康支援センター大橋分室) | ⑮ 3号館 | ⑳ 噴水(池) |
| ② 多次元デザイン実験棟(講堂) | ⑪ 4号館 | ⑯ 1号館 | ㉑ グラウンド |
| ③ デザイン基盤センター情報基盤室
(情報統括本部 大橋分室) | ⑫ 2号館 | ⑰ 工作工房 | ⑳ 居住空間実験住宅 |
| ④ 附属図書館芸術工学分館 | ⑬ 画像特殊棟 | ⑱ 環境実験棟 | ㉒ 廃棄物置場 |
| ⑤ 8号館 | ⑭ 音響特殊棟 | ㉑ 印刷実験棟 | ㉓ // |
| ⑥ 産学連携センターデザイン総合部門 | | ㉒ 総合研究棟 | ㉔ 廃液倉庫 |
| ⑦ 7号館 | | ㉓ 環境適応研究実験施設 | ㉕ 返納倉庫 |
| ⑧ 6号館 | | ㉔ 設備棟 | ㉖ 自治会室 |
| ⑨ 5号館 | | ㉕ 車庫 | ㉗ 備蓄倉庫 |
| | | ㉖ 守衛所 | ㉘ 学生部倉庫 |
| | | ㉗ サークル共同施設 | ㉙ 倉庫 |
| | | ㉘ 体育館 | ㉚ バイク置場 |
| | | ㉙ フライバン | ㉛ デザインコモン |

※ 駐輪場は芸術工学部HPを参照してください。

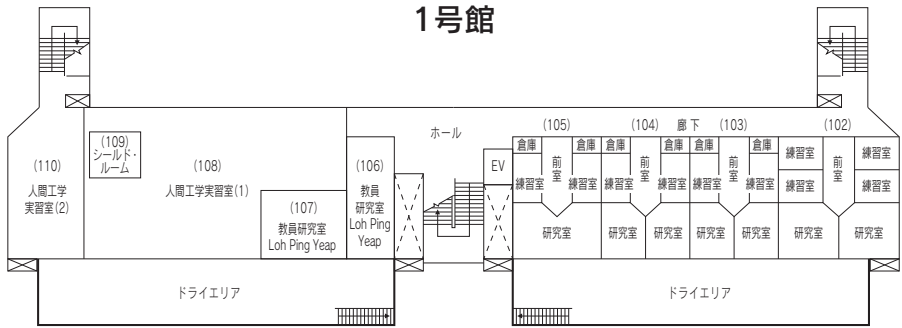
芸術工学部HP <http://www.design.kyushu-u.ac.jp>

→ 「学生向け情報」 → 「学生支援」 → 「駐輪場・バイク置場」

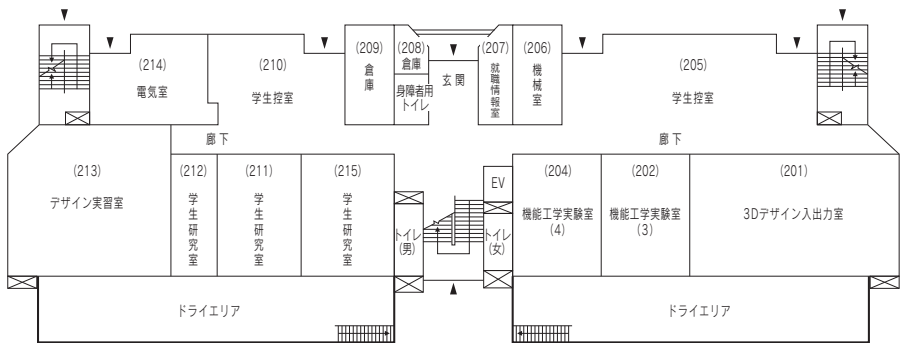


2. 各号館及び施設の平面図 (教員の異動等により、教員研究室等が) 変更する場合があります。)

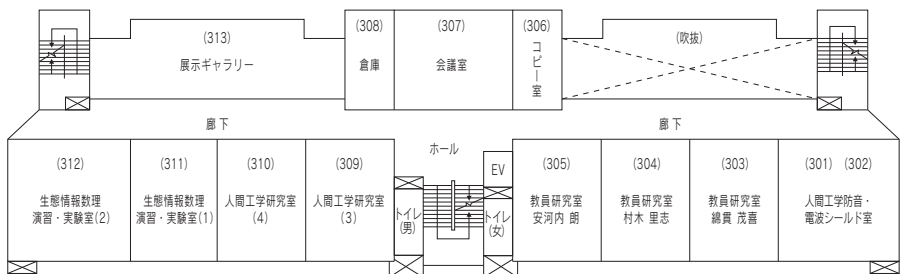
[平成30年3月現在]



1階

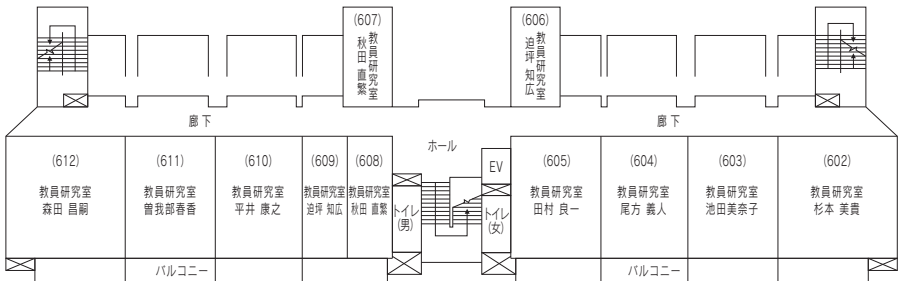
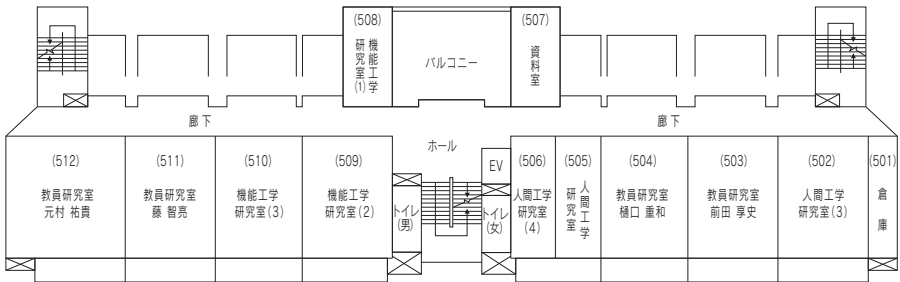
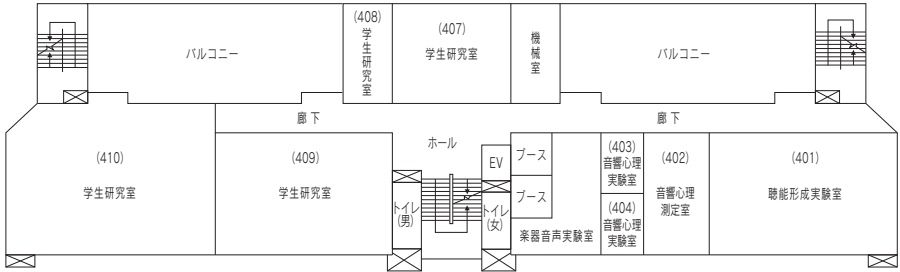


2階

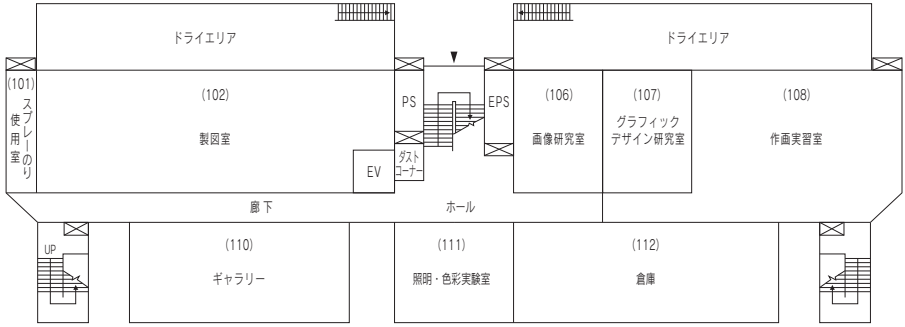


3階

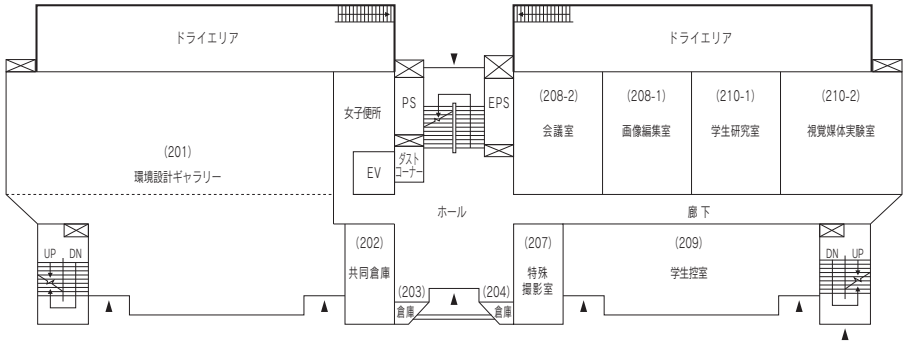
1号館



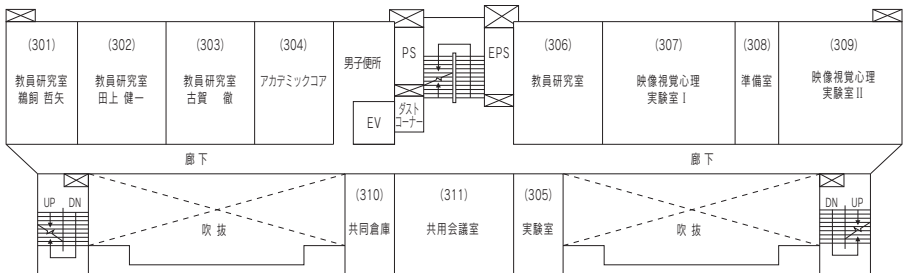
2号館



1階

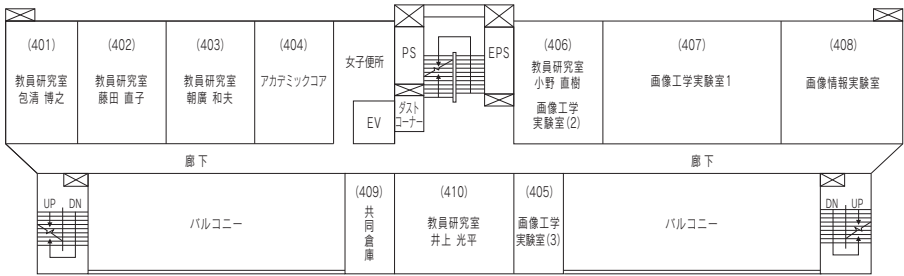


2階

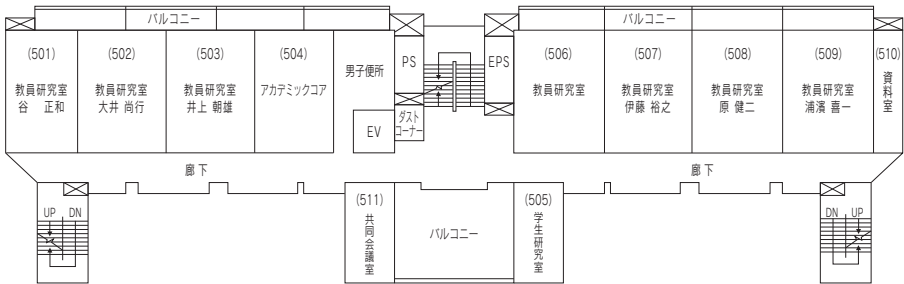


3階

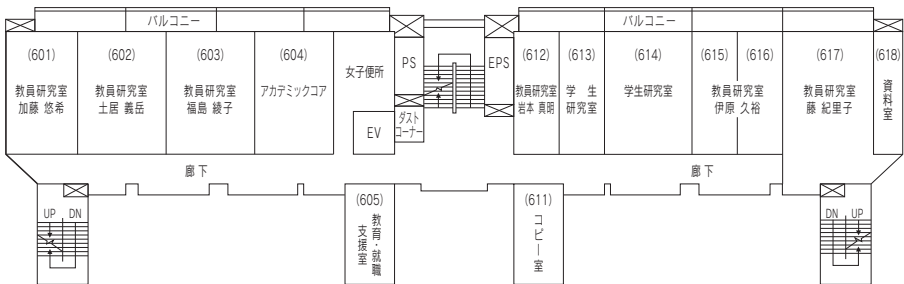
2号館



4階

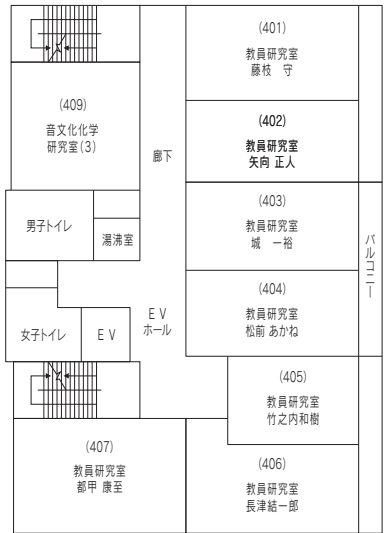
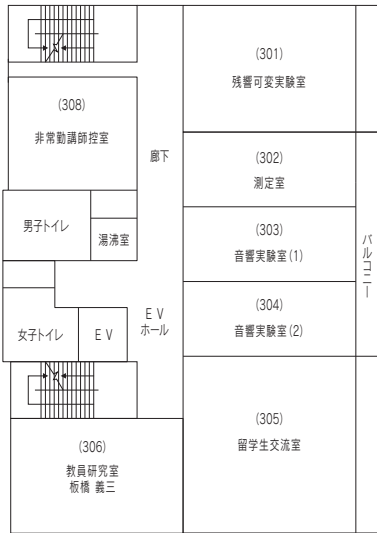
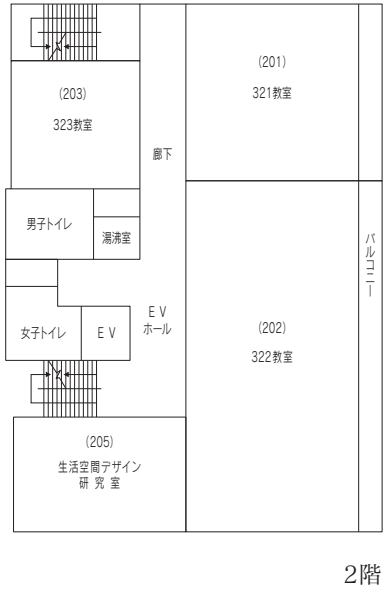
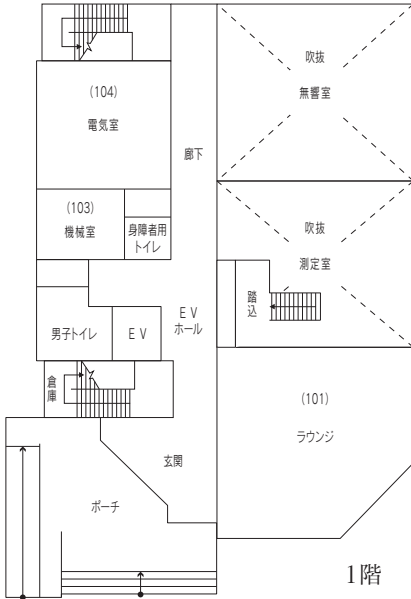


5階

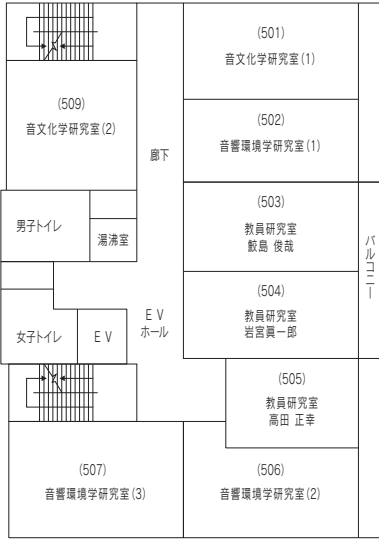


6階

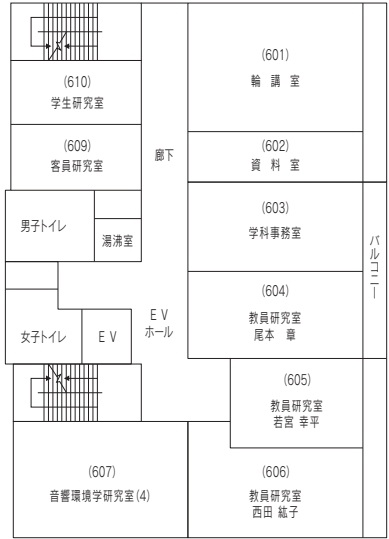
3号館



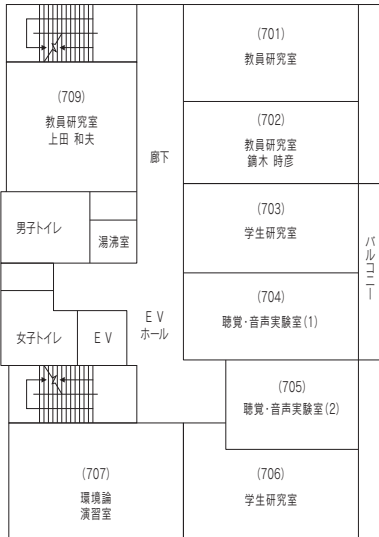
3号館



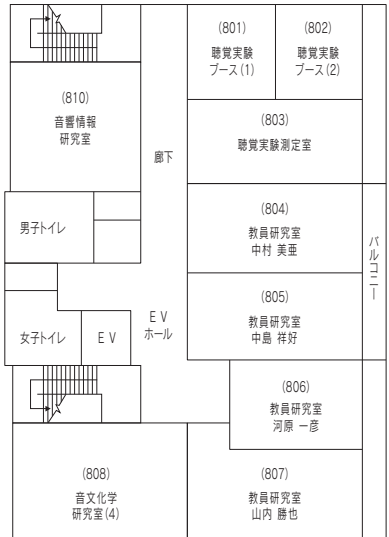
5階



6階

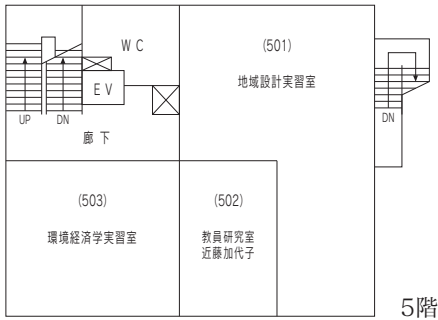
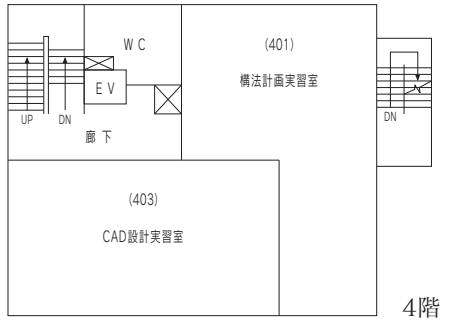
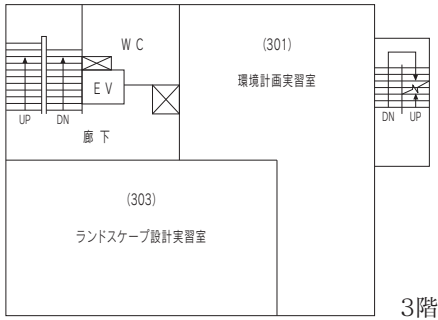
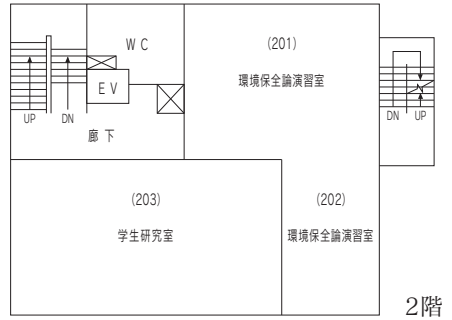
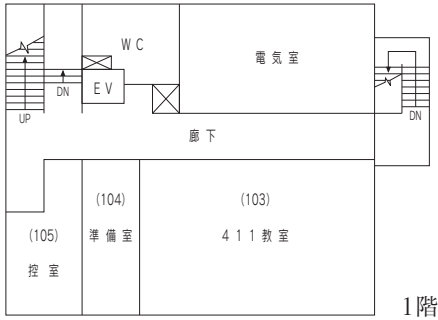


7階

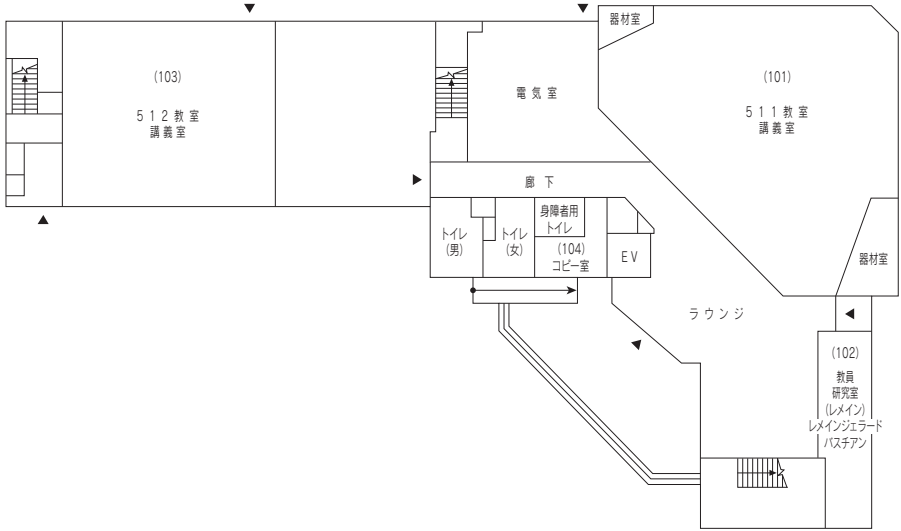


8階

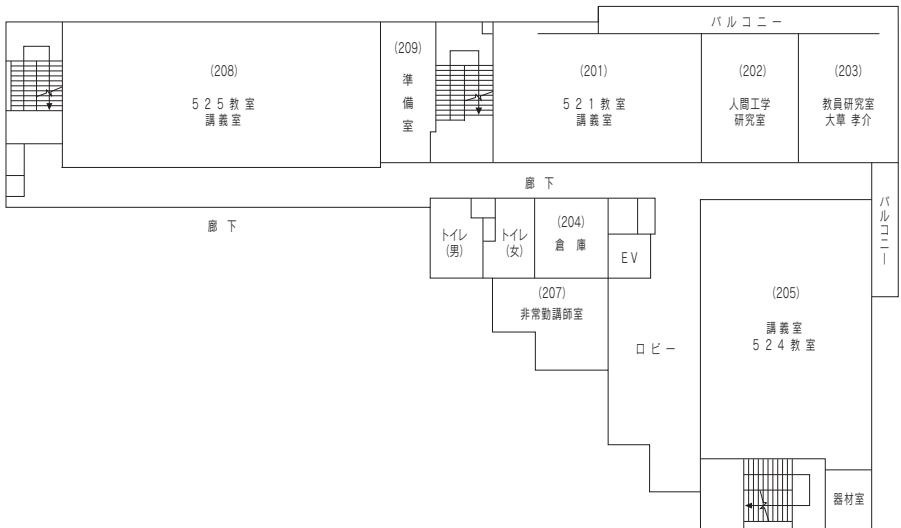
4号館



5号館

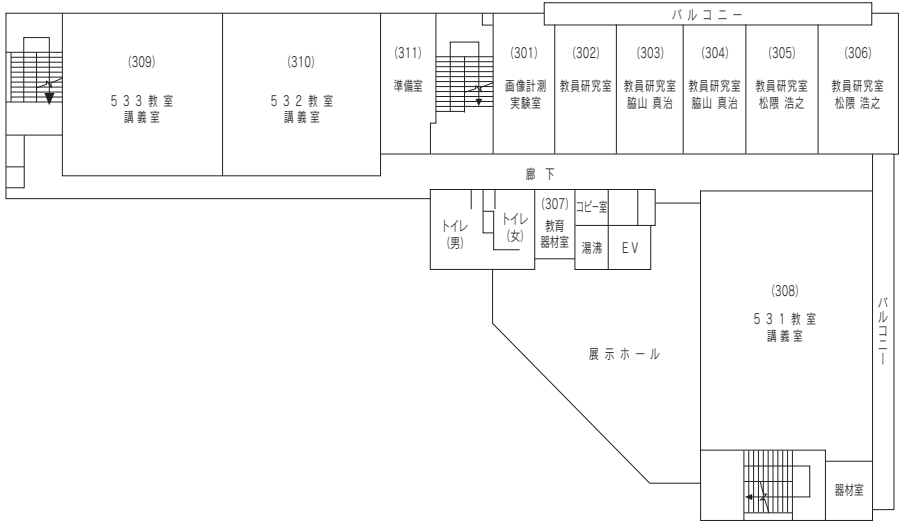


1階

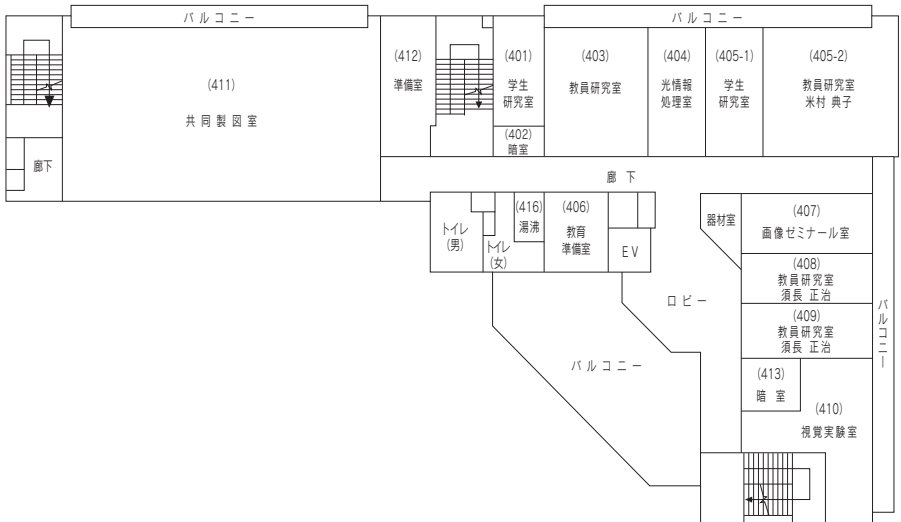


2階

5号館

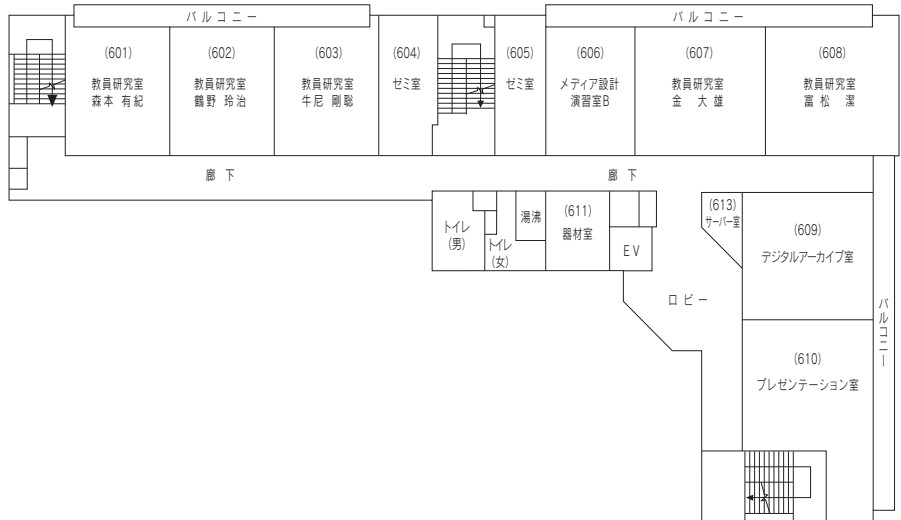
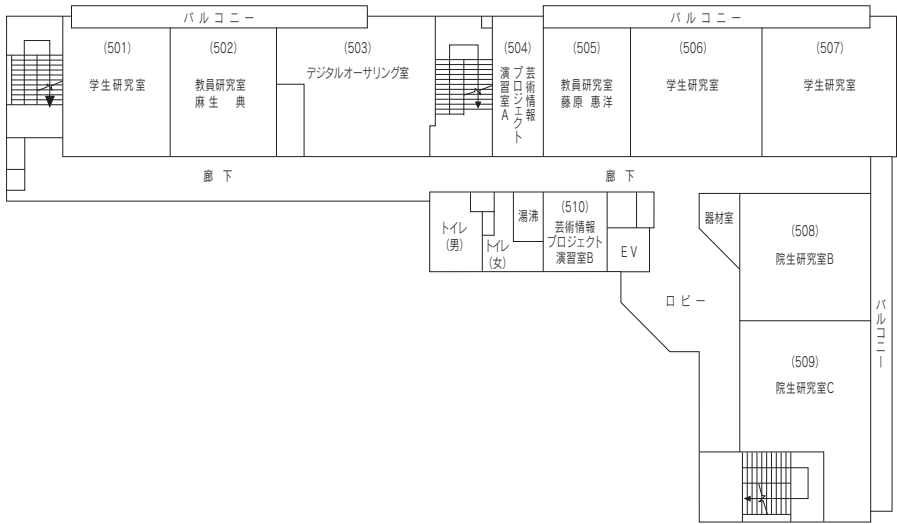


3階

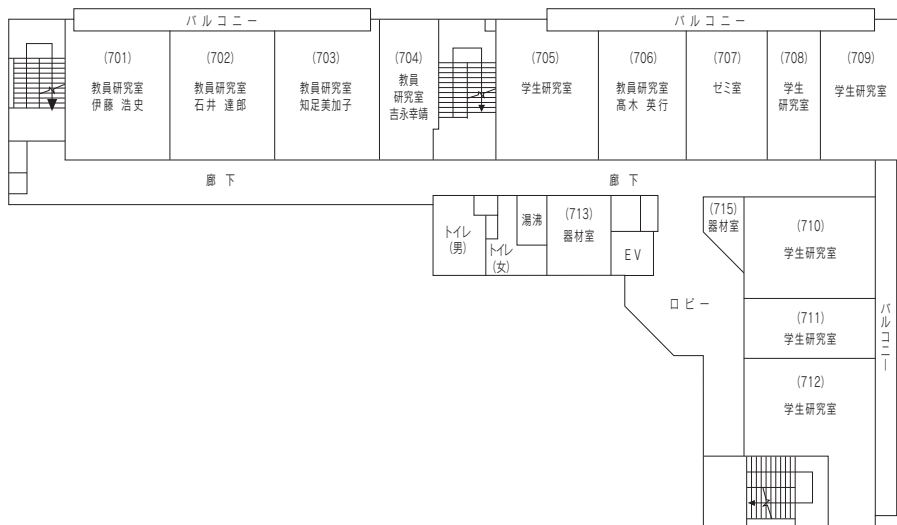


4階

5号館

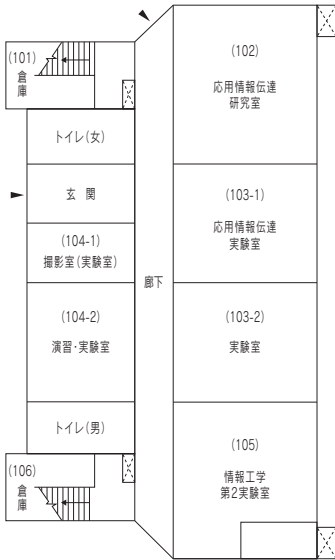


5号館

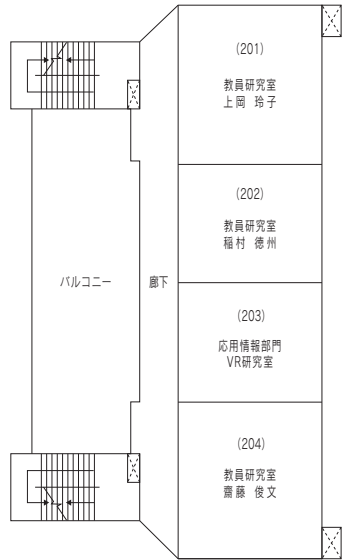


7階

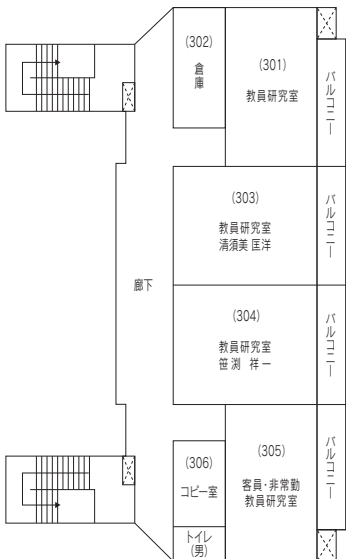
6号館



1階

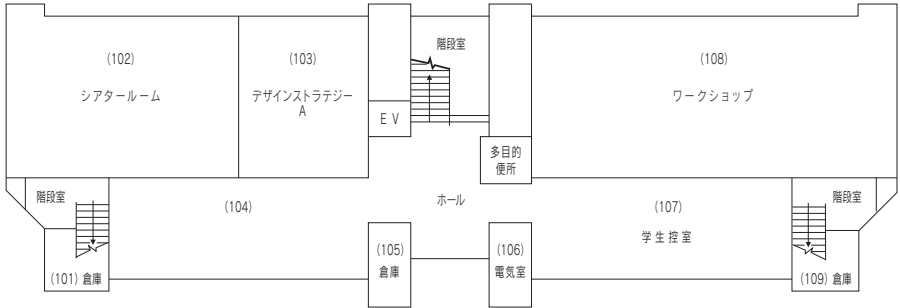


2階

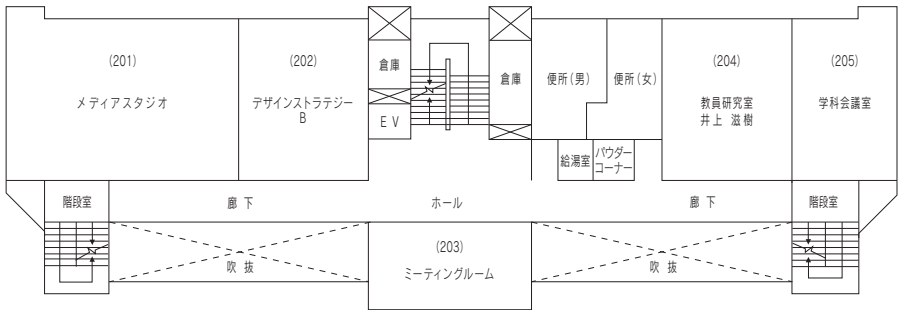


3階

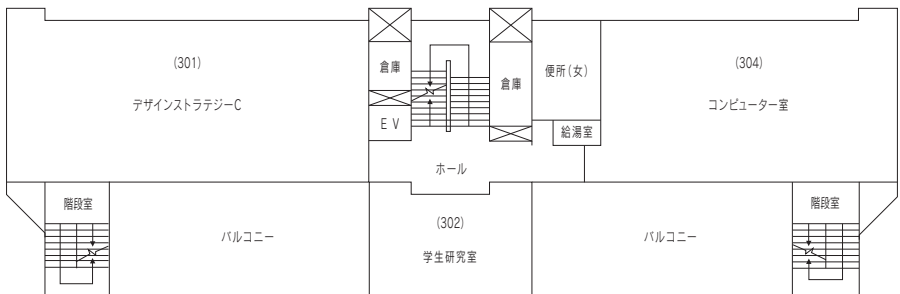
7号館



1階

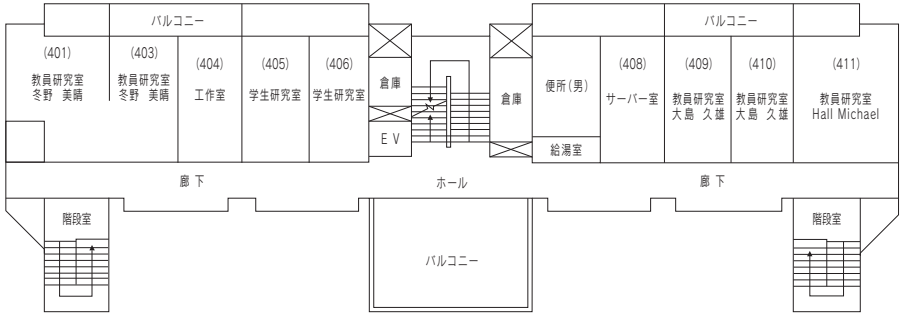


2階

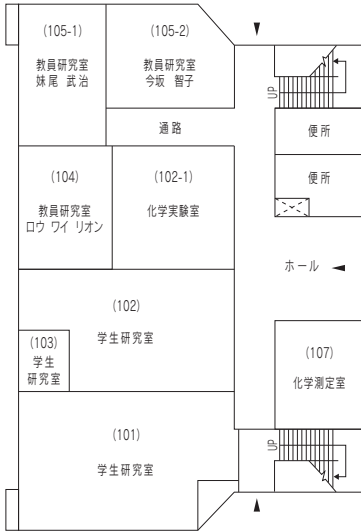


3階

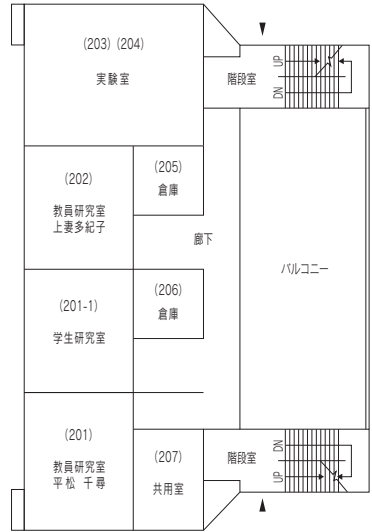
7号館



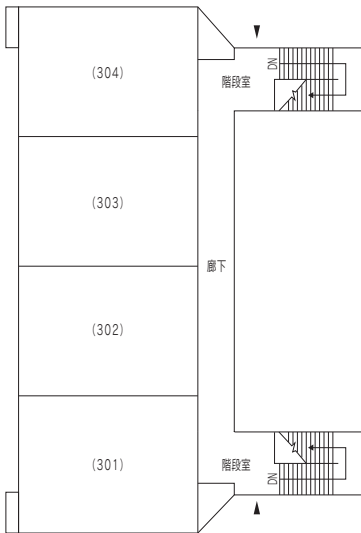
8号館



1階

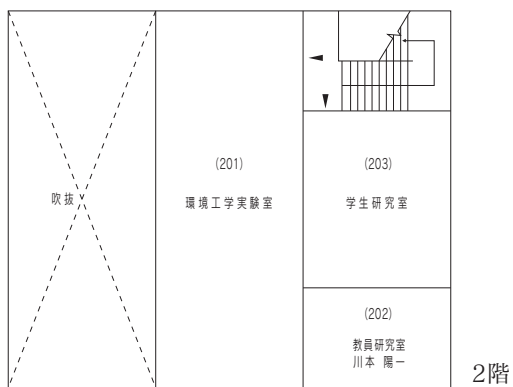
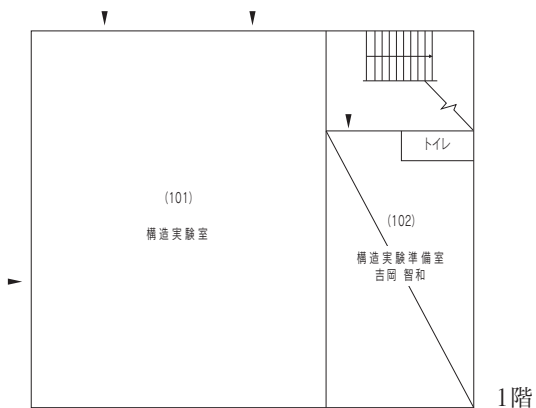


2階

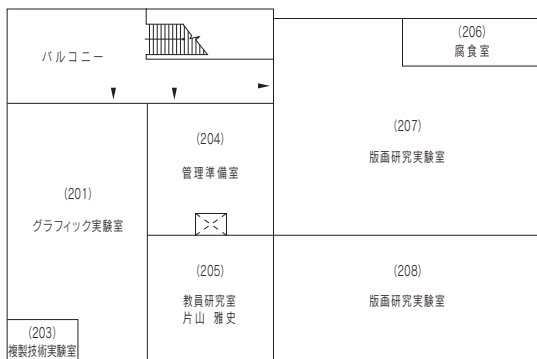


3階

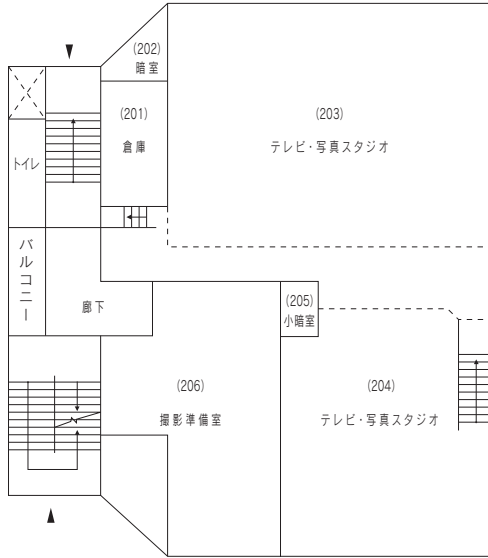
環境実験棟



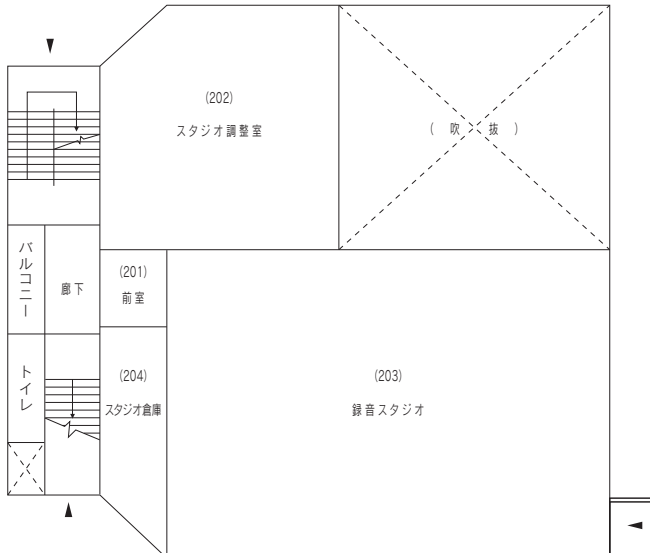
印刷実験室2階



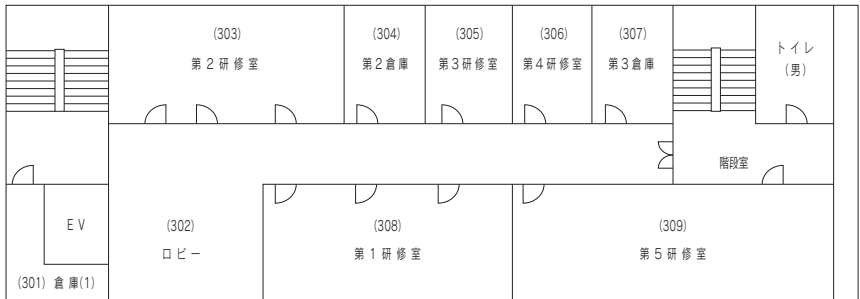
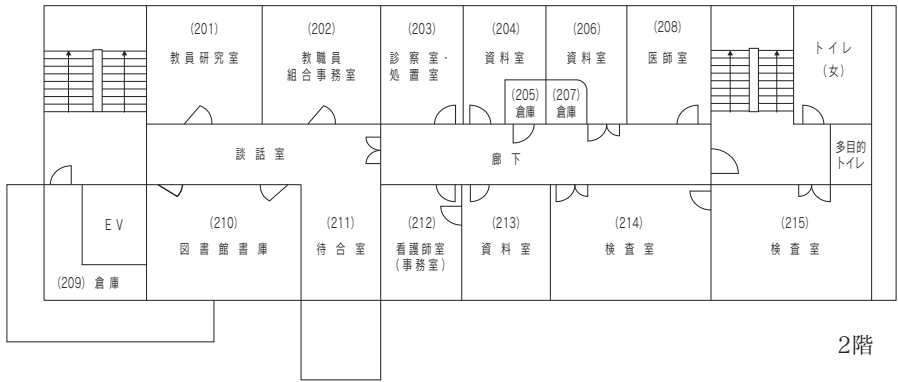
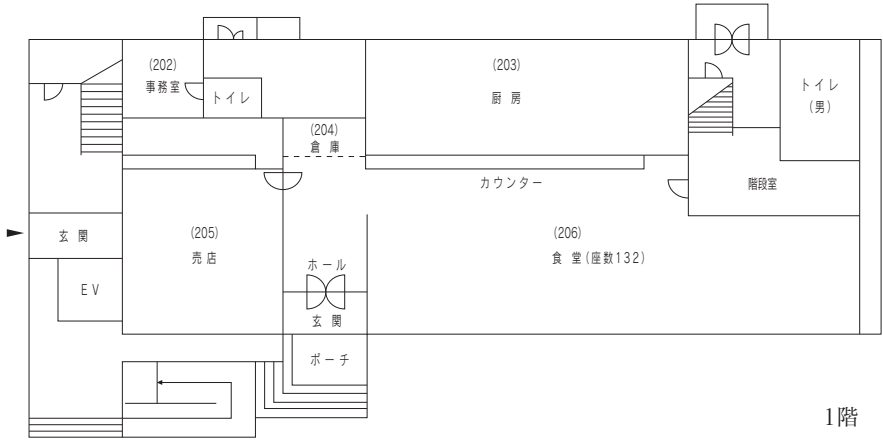
画像特殊棟2階



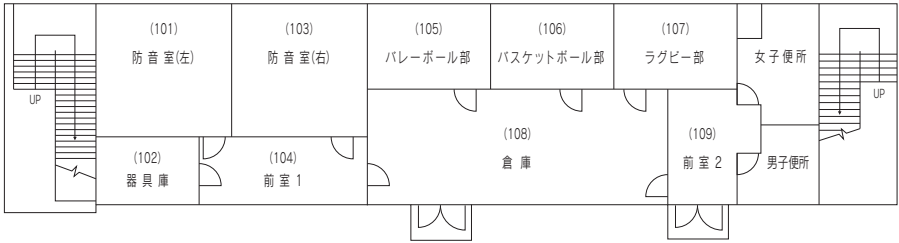
音響特殊棟2階



厚生施設棟



サークル施設棟

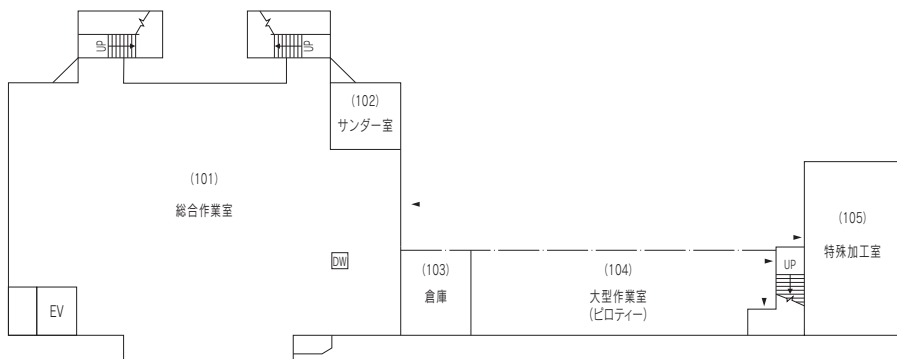


1階

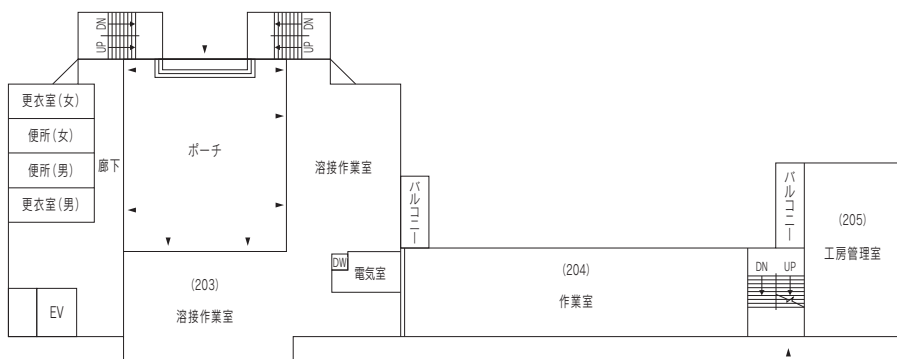


2階

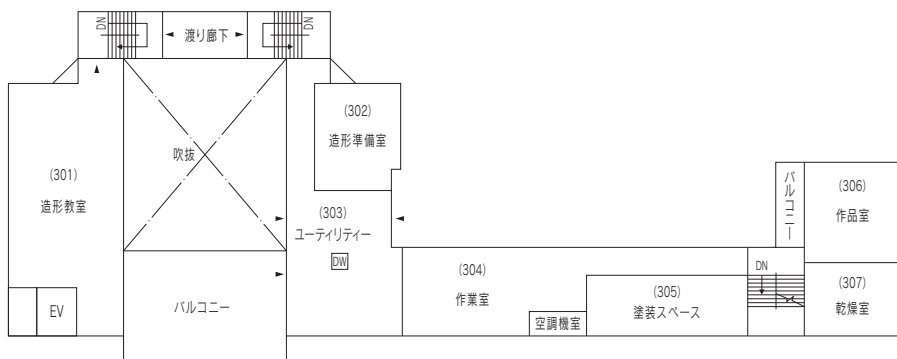
工作工房棟



1階

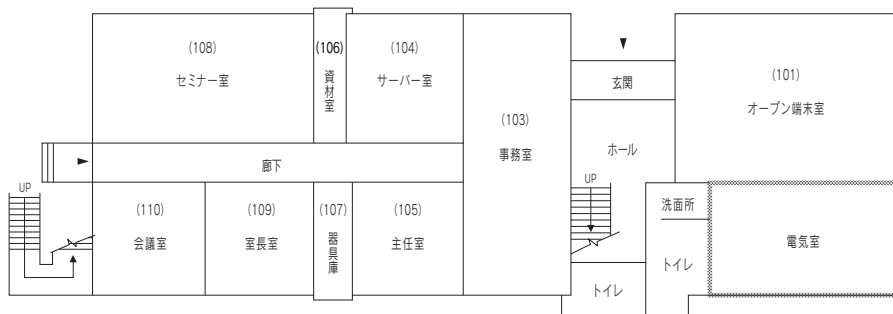


2階

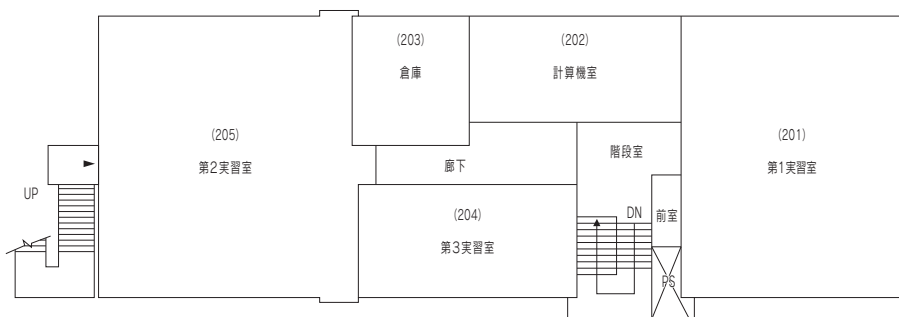


3階

デザイン基盤センター情報基盤室（情報統括本部 大橋分室）

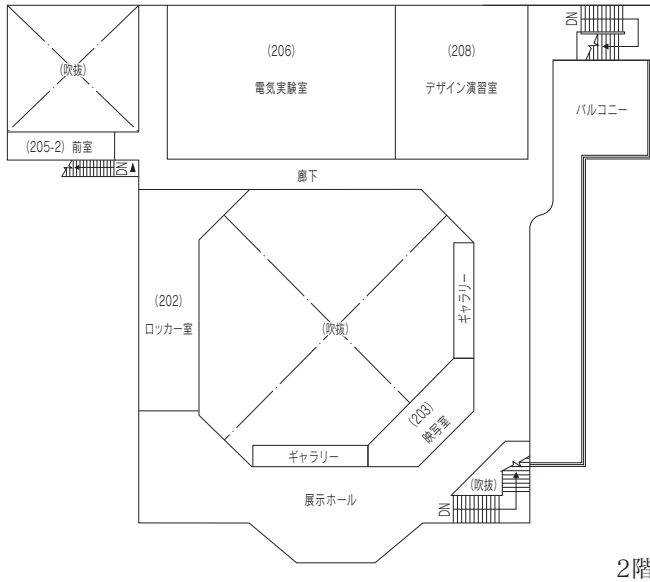
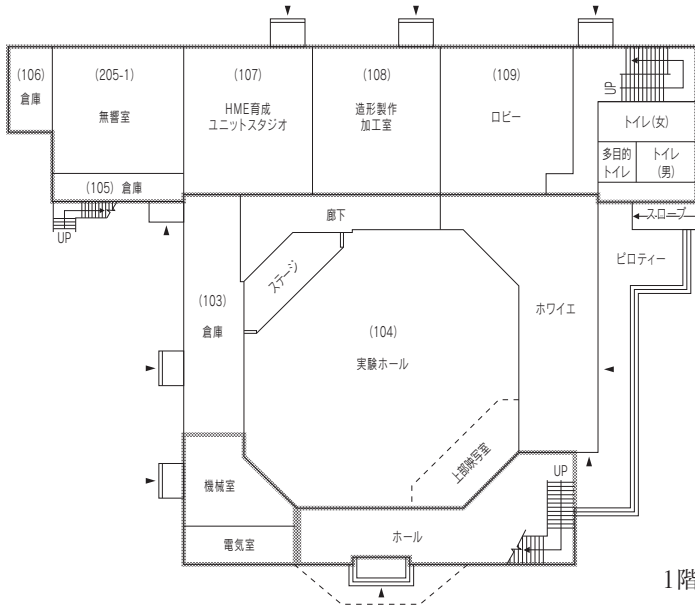


1階

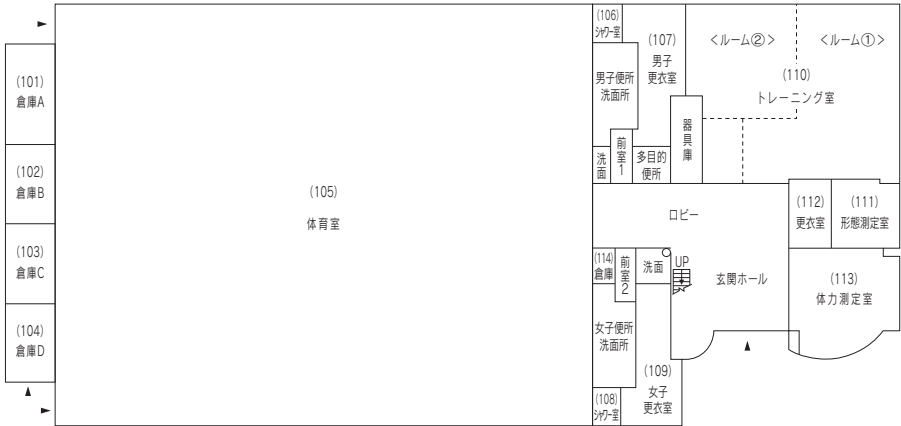


2階

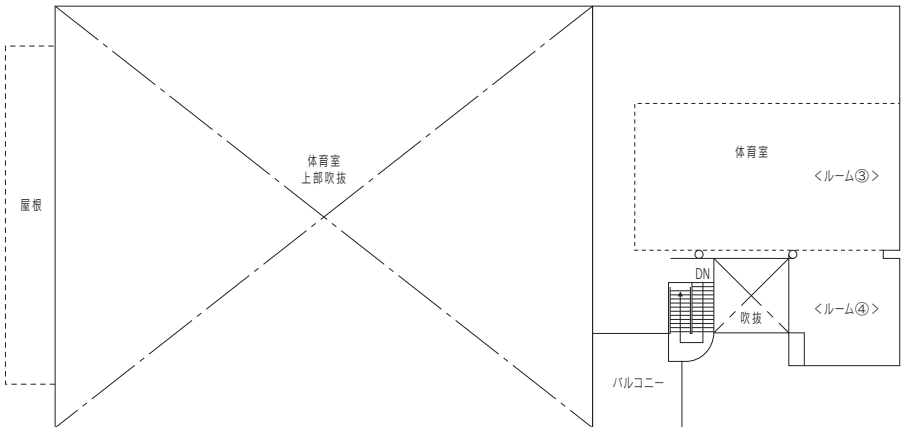
多次元デザイン実験棟



体育館



1階



2階

3. 九州芸術工科大学学生歌



1. はるには はなはな はなはな のののの おおーも いあ り、つど
2. まあき はははは はははは のののの おおーも いあ り、つど
3. あふゆ はははは はははは のののの おおーも いあ り、つど
4. はなはな はなはな はなはな のののの おおーも いあ り、つど



い てま お お お き そ が れ く ん ゐ れ い の に、 め
お お り
お お り
お お り



を ら 一 わ か ち て ゆ く す え の わ
ら 一 け け め つ た く が が が に の れ
に 一 お お か し め を た こ う が が に の れ



ら の あ す を て ら し む、 2. な
わ り え む と お す ら ど して ら む、 3. あ
の り え む と お す ら ど して ら む、 4. ふ



ゆ う ち か い 一 を と も に は た す べ し。
(い を と も に)

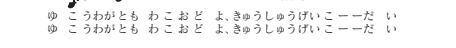
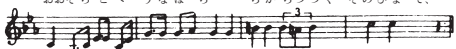
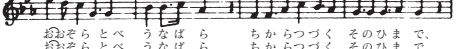
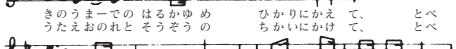
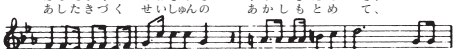
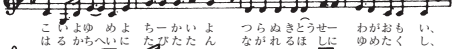
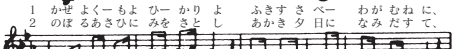
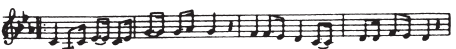
注：1. 2. 3. 4番とも括弧内は二部にわかれて
いるが、1. 2. 3番については下声、4番
については上声が主旋律になる。しかし
実際は二部合唱になるのが望ましい。

創立10周年記念募集
九州芸術工科大学学生歌 (I)

学舎の四季
まなびや

作詞 返田 良
作曲 川畑邦弘

- 1 春には春の思いあり
集いて多きそれぞれの
夢をわかつて行末の
我等の明日を照らしてむ
- 2 夏には夏の思いあり
炎まばゆき学祭に
我等の夢を託す間に
燃ゆる命の踊るらむ
- 3 秋には秋の思いあり
憂い驕るもあるものを
ここに芸術工学の
理得むとすればなむ
- 4 冬には冬の思いあり
来たる門出はそれぞれに
普れ多かれわが学友
誓いをともにはたすべし



ゆ こうわがとも わこおど よ、きゆうしゅうげいこーだーい
ゆ こうわがとも わこおど よ、きゆうしゅうげいこーだーい

創立10周年記念募集
九州芸術工科大学学生歌 (II)

芸工大青春応援歌

作詞・作曲 三木弘和

- 1 風よ雲よ光よ 吹き荒べ我が胸に
恋よ夢よ誓いよ 貫き通せ我が想い
明日行く遠き道 闇に消えても
昨日までの遙か夢 光に変えて
飛べ大空 飛べ海原 力続くその日まで
行こう我が友 若人よ 九州芸工大
- 2 登る朝日に身を論し 赤き夕日に涙捨て
遙か地平に旅立たん 流れる星に夢託し
明日築く青春の 燈求めて
歌え 己れと創造の 誓いに賭けて
飛べ大空 飛べ海原 力続くその日まで
行こう我が友 若人よ 九州芸工大

創立10周年記念募集

九州芸術工科大学学生歌 (Ⅲ)

—— 明日をみつめて ——

作詞・作曲 都甲康至



乾いた空をみつめても 何も生まれない
うつろな時に流されても 何も生まれない
希望の川にかけると虹の橋のように
新しい世界を夢みて 歩みつづけよう
この道を みんなの心をあわせて
思い出にすがりついて 何も生まれない
孤独な心を信じて 何も生まれない
小さなことにでも 愛をかけてあげられる
人の心を大切に して みんなの愛をあわせて
人の心を大切に して みんなの愛をあわせて

- 1 乾いた空を見つめても
何も生まれない
うつろな時に流されても
何も生まれない
希望の川にかけると
虹の橋のように
新しい世界を夢みて
歩みつづけよう
この道を
みんなの心をあわせて
- 2 思い出にすがりついても
何も生まれない
孤独な心を信じても
何も生まれない
小さなことにでも
愛をかけてあげられる
人の心を大切に
して みんなの愛をあわせて
人の心を大切に
して みんなの愛をあわせて

創立20周年記念募集

九州芸術工科大学学生歌 (IV)



われら わこうど 1.とも そうじゃあない かわか
2.もや そうじゃあない かわか
3.きす こうじゃあない かわか



きせいしゅん きほうの ひかりあるわか
ゆいじょおねつ そのほのおたかぶるせい
やくみらい えいえんの こころをひらい



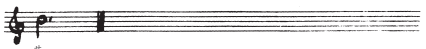
いじかんをおかしてつぎなるじだい
しんよにしめきんとかがややくひとみ
てふるきをみつめまことをちとめ



をむかえるためーに いぎとーもきー
ほにがよもてあす いぎもーやきー
であらたーをつくーり いぎきーすか



ん きーほうの ひー ともせともせとも
ん じょおつ の おもやせもやせもや
ん わーれらの みらいきすけきすけきす



せ
け

いぎ、若人!!

作詞・作曲 永沢裕之

1 我ら若人 燈そうじゃあないか
若き青春 希望の灯
限りある若い時間を謳歌して
次なる時代を迎えるために
いぎ燈さん 希望の灯
燈せ、燈せ、燈せ!!

2 我ら若人 燃そうじゃあないか
まばゆい情熱 その炎
たかぶ
昂精神世に示さんと
輝く瞳は苦が世も照らす
いぎ燃さん 情熱の炎
燃せ、燃せ、燃せ!!

3 我ら若人 築こうじゃあないか
輝く未来 永遠の
心を開いて古きを見つめ
真を求めて新たを創り
いぎ築かん 我らの未来
築け、築け、築け!!

創立20周年記念募集

九州芸術工科大学学生歌 (V)

—— 明日への轍 ——
わだち

作詞・作曲 植田洋一

Moderato

D F#m C# Bm Bm A Em Em A

1. 2 ながれるときは はやかろうとおそか

D F#m C# Bm Bm A Em Em A

あ うといはに ここに かなめりあえな なかま たち
あ うといつ の にも かな たたきあえと もだちで いま

D A#m D F#m C# Bm Bm A Em Em A

じぶん のあま けい か ける こと
あま の ながした なめ だは じつと かなち

D C#dim Bm F#m Bm F#m Em Em A

で きずにあまが ないて いるな らなれかに しな った
を かえてここを のなかで みらし るべに なる みしな ことな

D D#dim Em F#m B7

はるか らなつへと きせつが めぐるように
あきか らふゆへと きせつが つる

Em Em A F#m B7 Em

あまが あまき だすの を みんが ま
あまのすてきな おを みんが

Gm A D F#m C# Bm Bm A G F#m

つて る このあが かなく なったなら あるき だまは
うんき げんき じぶんで かななく げんき だまは

Em Em A D F#m C# Bm Bm A Em Em A

いっ—から つまね たとき はんめい だ だまは いっ—から
そばに る つまね ます きりすは じぶんで いっ—から

D

1 流れる時代が はやかろうと
おそかろうと
今はここにひとつ
めぐり逢えた仲間たち
自分の夢を
追いかけることも出来ずに
君が泣いているなら
誰かにしゃべってごらんよ
春から夏へと季節が巡るように
君が歩き出すのを
みんなが待ってる
心が軽くなったなら
歩き出せばいいから
疲れた時は遠慮なく
立ち止まればいいから

2 流れる時代が はやかろうと
おそかろうと
いつの日にも肩をたたき合える
友達でしよう
君の流した涙はきつと形を変えて
心の中で道標になる
見失なうことない
秋から冬へと季節が移るように
君の素敵な笑顔を
みんなが待ってる
元気は自分で出さなくちゃ
けれど友達が側にいる
つまづきや傷を恥じる事は
しなくていいから

創立20周年記念募集

九州芸術工科大学学生歌 (VI)

—— 明日への轍 ——

わだち

作詞 植田洋一

作曲 岡崎道成

1. ながれるときが 二 はやかろうとおそかろうと
2. ながれるときが 二 はやかろうとおそかろうと

いまほここにひとつ ひとりありあまたな かまたら
いつの日にもかたき たたき あるふともたち さいよう

じぶんの跡めを 一 おいかけること らできず に
きみのながした なみだは きつとがたらを かまて

きみがいないなら だれかにしゃべって
さうのなかでみちしるべになる みうしなう

ごらんよ 二 はるからなつへと
ことない 春からふゆへと

きせつがめぐる ように きみがあるだけのを
きせつがめぐる ように きみのすてきな顔を

みんながま っ てる ごころがかるくな
みんながま っ てる げんき ほじとんでた

つたなら あるきだせばいいから つかれな ときほま
きなわら げれどもちがそばにいる つまずきやまずをほ

んげなくたちどまれば 二 いいから 二
じることほし なくて

- 1 流れる^{とき}時代が はやかろうと
おそかろうと
今はここにひとつ
めぐり逢えた仲間たち
自分の夢を
追いかけることも出来ずに
君が泣いているなら
誰かにしゃべってごらんよ
春から夏へと季節が巡るように
君が歩き出すのを
みんなが待ってる
心が軽くなったなら
歩き出せばいいから
疲れた時は遠慮なく
立ち止まればいいから

- 2 流れる^{とき}時代が はやかろうと
おそかろうと
いつの日にも肩をたたき合える
友達でいよう
君の流した涙はきつと形を変えて
心の中で^{みちしるべ}道標になる
見失なうことない
秋から冬へと季節が移るように
君の素敵な笑顔を
みんなが待ってる
元気は自分でできなくちゃ
けれど友達が側にいる
つまづきや傷を恥じる事は
しなくていいから

4. 九州大学芸術工学部規則（抜粋）

（科目等履修生及び聴講生に関する条項，別表は省略）

（趣旨）

第1条 この規則は，九州大学学部通則（平成16年度九大規則第2号。以下「通則」という。）により，各学部規則において定めるように規定されている事項その他芸術工学部の教育に関し必要な事項を定めるものとする。

（教育研究上の目的）

第1条の2 芸術工学部は，技術を人間生活に適切に利用するために，技術の基礎である科学と人間精神の最も自由な発現である芸術とを総合し，技術の進路を計画し，その機能の設計について研究するとともに，人文，社会，自然にまたがる知識と芸術的感性を基盤とする設計家を養成することを目的とする。

（入学等）

第2条 学生の入学に関し必要な事項は，別に定める。

2 学生の再入学，転学部，転入学及び編入学（以下「再入学等」という。）については，芸術工学部の収容定員に余裕がある場合又は特に必要と認める場合に，教授会の議を経て，これを許可することができる。

3 前項の規定により再入学等を許可された者の修業年限，単位修得の方法等については，教授会の議を経て，学部長が決定する。

第3条 科目等履修生として，本学において一定の単位を修得した後に入学する者の修業年限の通算については，教授会の議を経て，学部長が決定する。

（長期にわたる教育課程の履修）

第3条の2 学生が，通則第23条の規定に基づき，標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを希望する旨を学部長に申し出たときは，教授会の議を経て学部長が定めるところにより，その計画的な履修を認めることができる。

（学期）

第4条 学年を分けて次の2学期とする。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から翌年3月31日まで

2 前項に定める各学期の授業期間は，別に定める。

（教育課程）

第5条 芸術工学部における教育課程は，基幹教育科目及び専攻教育科目により編成するものとする。

2 基幹教育科目に関する授業科目，単位数及び最低修得単位数は，別表第1のとおりとする。

- 3 専攻教育科目に関する授業科目及び単位数は、別表第2のとおりとする。
- 4 前項に規定するもののほか、臨時に開設する授業科目は、その都度教授会の議を経て、学部長が別に定める。
- 5 単位計算の基準は、原則として、講義については15時間をもって1単位、演習については15時間又は30時間をもって1単位、実験及び実習については30時間又は45時間をもって1単位とする。ただし、これによりがたい場合は、教授会の議を経て、学部長が別に定める。

第6条 学生は、各学期の始めに履修しようとする授業科目を学部長に届け出なければならない。

(単位修得及び卒業)

第7条 授業担当教員は、学生が履修した授業科目について試験、平素の学修の状況等により成績評価を行う。

- 2 授業科目の成績評価は、通則第17条の3の規定に基づき行うものとする。

第8条 学部長は前条第2項の合格の評価を受けた授業科目について、所定の単位を認定する。

第9条 芸術工学部の卒業の要件は、芸術工学部に4年以上在学し、次の各号に定めるところにより、128単位以上修得することとする。

- (1) 基幹教育科目から48単位
- (2) 専攻教育科目から80単位以上

- 2 教授会は、前項の単位を修得した者について、卒業の審査を行う。

(雑則)

第18条 この規則その他の規則等に定めるもののほか、芸術工学部の校務について必要な事項は、教授会の議を経て、学部長が別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成30年4月1日から施行する。
- 2 この規則による改正後の九州大学芸術工学部規則は、平成30年4月1日に本学部に入学者から適用し、平成30年3月31日に本学部在学者、同年4月1日以降も引き続き在学者については、なお従前の例による。

発行日 平成30年4月1日

九州大学芸術工学部

〒815-8540

福岡市南区塩原4丁目9番1号

TEL(092)553-4418(学務課教務係)

印刷 (株)ミドリ印刷



大橋キャンパスへのアクセス

- JR……………JR博多駅→(地下鉄空港線)→天神駅(あとは西鉄電車と同じ)
- 西鉄電車……………西鉄福岡駅→(西鉄天神大牟田線)→西鉄大橋駅
- 高速バス……………JR博多駅(またはJRの場合と同じ)
天神バスセンター(または西鉄電車の場合と同じ)

- JR
- バス路線
- 地下鉄
- 西鉄電車
- 新幹線

この学生便覧には、学生生活に必要な情報を掲載しています。卒業するまで使用しますので、なくさないように大切にして、学生生活の中で日々役立ててください。

————— 学生ポータルシステム (Campusmate-J) —————

芸術工学部事務部からの事務連絡や休講・補講情報、お知らせなどは、「学生ポータルシステム (Campusmate-J)」に随時掲載します。下記のアドレスに頻繁にアクセスして、各種情報を確認するようにしてください。
(合わせて、大橋キャンパス内の多次元棟掲示板もよく確認するようにしてください。)

[使用方法ホームページ] <http://www.kyushu-u.ac.jp/student/portal/index.php>

[パソコン] <https://ku-portal.kyushu-u.ac.jp/campusweb/top.do>

[携帯電話] <https://ku-portal.kyushu-u.ac.jp/campusweb/sptop.do>

([九州大学公式HP](#) - [学生の皆様](#) - [学生ポータルシステム](#) からアクセスできます)

連絡先：芸術工学部学務課 教務係 092-553-4418 学生係 092-553-4586

学 科		氏 名	
-----	--	-----	--